

務との三とす。「精力主義等の稱」
 一しゆぎ「主義」名向上主義進歩主義
 一てき「的」名物事の積極なるにふ語
 一いし「意志」名或目的を遂行せんとする意志。
 一めいじ「名辭」名論或性質の存在を示す名辭、例へば確實有機物の如し。
 一めいだい「命題」名論肯定命題にせつ「節句」名せちにちの同じ。「同じ」
 一ばたらき「働」名人の節句など祝ひて休むとき殊更に働くこと。「なまけ者の」
 せつ「絶句」名漢詩の一體。起承轉結の四句を以て組立てられたる詩。各句とも五言又は七言を連例とす。「接待」
 せつ「接遇」名人をもてなしあしらふこと。
 せつ「雪君」名梅の異名。
 せつ「絶筆」名多くのものよりぬけ出でてすぐれたること。「語」
 せつ「雪花」名雪を花に見なしていへる
 一さい「菜」名豆腐のかす。きらす。から
 一せきかう「石膏」名白色不透明なれど種々の模様を呈することありて大理石に類す。其美なるものは裝飾に用ゐらる。
 せつ「石灰」名いしばひ。
 一すゐ「水」名石灰を溶したる水。
 せつ「雪光」名雪あかり。

せつ「横縷」名縷黄褐赤等の色を有し縷縷をなして花崗岩などに副合分として散布するチタン酸を含む珪酸鹽物。
 せつ「かん」名攝關名攝政と關白との略。
 せつ「かん」名攝官名かねやく。兼務役。
 せつ「かん」名切りに願ふこと。「家」
 せつ「け」名五攝家を見よ。攝家。執柄
 せつ「け」名家主の死亡又は國籍喪失の場合に於て家主たる身分を継ぐべき家督相続人なきために家名の消滅したる家。
 せつ「けい」名設計の計畫。もくろみ。
 一しよ「書」名設計の委曲をしたためたる文書。つもりがき。
 せつ「けい」名約束せよぶること。
 せつ「けい」名進士の試験にて首席に及第すること。
 せつ「けい」名最もすぐれたるけしき。
 せつ「けい」名讃揚を掲げて宗旨の要義を信者に説き聞かすこと。
 一し「師」名説教をする人。
 一がく「學」名基督教神學の科。説教の内容と形式とに互り其理論を研究する。
 せつ「けん」名聲の限りさげぶこと。
 せつ「けん」名用度を省き節する。おこり
 せつ「けん」名金を浪費せざること。けんやく。
 せつ「けん」名他の職務を兼帯すること。
 せつ「けん」名接見。名人をちがづけて面會すること。

と。對面。「らなる」とば。
 せつ「げん」名「褻言」名なれくしきことば。みだ
 せつ「げん」名「窃玄」名うす黒き色。
 せつ「げん」名「節減」名はぶきへらすこと。「經費」
 せつ「げん」名「舌劍」名辯舌の鋭きこと。「謔言」
 を以て人を害すること。
 せつ「げん」名非常に險阻なること。
 せつ「げん」名「絶絃」名「琴の絃の切ること」。
 知己に死に別ること。
 せつ「ご」名「絶後」名未來に於ても再び例のなきこと。「空前」
 せつ「ごう」名「拙工」名つたなきてきは。又つたなき
 せつ「ごう」名「折腕」名經驗を重ねて熟練すること
 左傳「三」一爲「良醫」
 せつ「ごう」名「舌口」名くちさき。
 せつ「ごう」名「接貢船」名古琉球より支那に派遣せし官船。
 せつ「ごく」名「折獄」名訴訟の裁判。さばき。
 せつ「ごそて」名「節小袖」名節振舞の時に着る衣
 せつ「ごつ」名「接骨」名たがひたる骨又は折れたる骨をつぎ合はすこと。ほねつぎ。
 一ぼく「木」名種にはとこに同じ。
 せつ「こつ」名「舌骨」名舌根の附着する骨。舌の基底に於て頤部と喉部との間に位置。
 せつ「こてん」名「絶月田」名古、班田の制にて月内の者皆死亡したるために絶えたる月口に屬する田。

せつ「こむ」名「急込」自動マ四せきこむの音便。
 せつ「こん」名「折痕」名をりめ。
 せつ「こん」名「舌根」名したのね。した。
 せつ「さ」名「切磋」名珠玉などを切りみがくこと。轉じて修養をつむこと。「琢磨」
 せつ「ざ」名「折挫」名ざせつに同じ。
 せつ「ざい」名「折罪」名罪をさばくこと。「人」
 せつ「ざい」名「絶才」名すぐれたる才。すぐれた
 せつ「ざろ」名「節操」名みさを。
 せつ「ざろ」名「舌争」名ことばあらそひ。口
 せつ「ざく」名「拙作」名つたなき製作。自己の製作の謙稱。
 せつ「ざく」名「拙策」名つたなきはかりこと。
 せつ「さふはふ」名「折挿法」名修辭學上、敘述の筋を遮断して他の語句を挿み筋を破ることによりて無事に續けたるよりも更に效力あらしめんとするもの。
 せつ「さん」名「折産」名資産を分つこと。
 せつ「さん」名「折算」名しわけして計算すること。
 せつ「さん」名「折殘」名をりそこなふこと。「換算」
 せつ「し」名「切齒」名齒をくひはること。はがみ
 一甚だ憤慨に堪へざること。残念がること。
 一やくわん「扼腕」名甚しく残念がること。
 せつ「し」名「節士」名節義を守る士。
 せつ「し」名「折枝」名枝を折ること。又折れたる枝
 一腰をかがること。

せつ「し」名「折死」名わかじに。天折。天死。
 せつ「じ」名「節次」名「時節のをり」とき。ついで。順序。
 せつ「じ」名「雪兒」名うたひめ。歌妓。
 せつ「じ」名「綴字」名字をつづると。又つづりたる字
 せつ「じ」名「接辭」名造語法に於て語幹に附屬して語を構成する語素。接頭辭。接尾辭。接中辭等あり。
 せつ「しう」名「攝收」名とり入れをさむること。
 せつ「しう」名「雪舟」名中國の名畫家。名は等楊
 風に明に渡り山水の勝を師とし研鑽すること
 五年にして歸朝し遂に一家を成す。永正三年。年八十七。
 せつ「しう」名「絶秀」名この上なくすぐれたること。
 せつ「しう」名「攝州吹」名攝州山下村にて初めて行ひし銅の精錬法。山下吹。
 せつ「しかん」名「攝氏寒暖計」名氷點を零度とし沸騰點を百度として其間を百等分せる寒暖計。
 せつ「しきげふ」名「截枝作業」名樹幹の全部を保存し主として其枝のみを伐採利用し其切口より更に枝條を萌芽せしめて同一の伐採利用を繰返す作業。「玉の誕生日」
 せつ「じつ」名「節目」名「せち」に同じ。「君
 せつ「じつ」名「切實」名「まこと。懇切。實際」
 にあてはまること。「確實にしてまがひのなきこと。まことに浮華ならぬこと。實直。

せつ「しどうぶつ」名「節肢動物」名動物。節足動物
 せつ「じん」名「絶盡」名たえつくること。「に同じ」
 せつ「しや」名「攝社」名「社格の一。本社に攝せらるる社。本社と末社との間に位置するもの」
 せつ「しや」名「拙者」名自己を稱する語。わたくし
 せつ「しやう」名「攝政」名幼少の天子或は女帝などの時これを輔佐し萬機を攝行する職。
 せつ「しやう」名「殺生」名佛の五戒の一。生物の命を奪ふこと。いきものを殺すこと。
 一きんだん「禁斷」名鳥獸魚介を狩獵捕獲するを禁ずること。
 せつ「しやう」名「折傷」名「をれそこなふこと。くじけすつくこと。わかじに。天折」
 せつ「じやう」名「切情」名深く思ひ込みたる心
 せつ「じやう」名「接壤」名接近してある土地。
 せつ「しやう」名「絶唱」名詩歌文章のすぐれてよきもの。
 せつ「じやう」名「舌狀」名舌の如き形。「と」
 せつ「しゆ」名「竊取」名ひそかにぬすむ。ぬすみとる
 せつ「しゆ」名「節酒」名飲酒の量を適度にすること
 せつ「しゆ」名「接手」名物を手にうけとること。接取
 接受。
 せつ「しゆ」名「接種」名病毒を人體或は動物體
 せつ「しゆ」名「攝取」名「をさめとること。すべとる
 一佛の衆生に對する慈悲の妙用。
 一ふしや「不捨」名佛の一切衆生を捨てずして利益すること。

せつちゆう(雪中)名雪のふる中。又雪のつも
りたる中。「軍隊の行軍」
—かうぐん(行軍)名雪中に於てなす
—のしいう(四友)名玉梅、臘梅、水仙、
山茶の稱。
せつちゆう(折衷)名兩方のなかをとらあはす
る。適當に物事を取捨すること。
—がくは(學派)名種々の體系より正
當と思惟せる思想を取來り之を結合するこ
とによりて眞理を發見せんと望む哲學派。
徳川時代に行はれし儒學の一派。「る説」
—せつ(一説)名彼我取捨して新に成立せ
せつちゆう(舌蟲)名一種の寄生蟲。體軀
扁平舌形にして數節より成る。犬の鼻腔など
に寄生す。
せつつく(責付)自動カ四脚せつつくの音便。
[せつつ(攝津)畿内五國の一。大阪府及兵庫
縣の分轄に屬す。「る職。延暦年中廢せらる。
—しき(一職)名古特に攝津國に置かれた
せつてい(設定)名まうけさだむること。「る説」
或者に對して特權を生せしめ從つて自己は
之に對して義務を負ふこと。「るみ」
せつてい(雪泥)名雪と泥と。又雪どけのぬか
—のころさう(一)「鴻爪」名ころさう
(鴻爪)を見よ。「る調子」
せつてう(絶調)名類なくすぐれたる音楽
せつてん(雪天)名ゆきふりの空。

せつてん(絶頂)名絶頂に同じ。
せつてふ(折帖)名なりほんに同じ。
せつど(節度)名のり。おきて。「さしづ
支配。命令」
—し(一使)名支那古代に一方の兵を
都督し且其諸政を監せし職。「我國奈良朝
に地方の兵士竝に水手官船等を掌りし臨
時の職」
せつとう(雪洞)名爐上を被ふもの。木竹の樞
に白紙を貼り一部に窗を開けるもの。ポンボ
リの類。
せつとう(攝動)名行動を攝理すること。
遊星衛星の相互の引力竝に太陽の引力
の爲に其運行に影響を受くること。
せつとう(絶東)名極東に同じ。
せつとう(舌頭)名口先。言葉。
せつとう(接頭語)名口先。言葉。
せつとう(接頭語)名口先。言葉。
て其意を添ふる語。「迷ふ」た易し「を田」の
「迷」たをの如き類。「しむる」
せつとく(説得)名とさすとすこと。説きて得心せ
せつとく(嫖嬪)名男女間なれてみだりかは
しきこと。「深き」
せつとく(褻瀆)名けがすこと。けがること。
せつとく(剎那)名剎那(梵)印度に於ける時の最小
單位。極めて短き時間。
せつなし(形)名壓迫をうけて苦し。「息ぐる
せつなふ(接納)名うけをさむること。

せつに(一切)副。せちに。しきりに。「れん
ごろに。親切に」
せつねん(絶念)名あきらむること。思ひ切るこ
せつば(切羽)名刀の鏢の兩面の柄と鞘とに
當る處に添ふる楕圓形の薄き金物。
—のみ(一鑿)名石工用の鑿の一種。其尖
端稜角をなす。軟石に用ゐるもの。
—つまる(自動カ四脚)事急迫して如何ともす
べからず。「張を説き破ること」
せつば(説破)名言論を以て他人の説或は主
せつばう(一切望)名しきりに望むこと
せつばう(絶望)名望のたゆること。
せつばく(切迫)名さしせまること。「期日」
—こまりせまると。窮迫。
せつばく(泄瀉)名くらくること。しばると。
せつはん(絆)名きづなに同じ。
せつはん(折半)名ふたつわり。二半分。
せつばん(絶版)名版を毀ちて出版を絶つこと
又原版のなくなりなどして出版出來ぬこと。
せつび(接尾語)名文法。他の語の下につき
て其意味を加ふる語。「深き」の「さ」の
如き類。「不完全」
せつび(設備)名まうけそなふこと。そなへ。「
せつび(絶美)名極めてうるはしきこと。
せつび(是非)副。ぜひの音便。
せつびつ(拙筆)名拙き筆蹟。「自己の筆
蹟の謙稱」

せつびつ(絶筆)名筆を止むること。「死亡
前最後の書きもの」
せつびん(絶品)名最もすぐれたる品物。
せつぶ(節符)名わりふ。てがた。
せつぶ(節婦)名操を守る婦人。貞女。
—てん(一田)名王朝時代に節婦を賞する
ために特にこれに與へし田地の稱。
せつぶ(雪膚)名雪の如き白肌。
せつぶ(切腹)名自ら腹を切りて死ぬること。
と。はらきり。屠腹。「徳川時代、武士の間
刑の最も重きもの。賜死」
せつぶ(褻服)名ふだんぎ。褻衣。
せつぶ(折伏)名敵をくじきて服従せしむること。
せつぶ(節物)名時節の。其時の
もの。「ること」
せつぶん(節文)名事を品節してあやあらしむ
せつぶん(拙文)名拙き文章。「自己の文
章の謙稱」
せつぶん(節分)名せちぶんと同じ。
—さう(一)「草」名種。宿根草。葉は莖頭
に叢生し初春白花を開く。形梅に似たり。
せつぶん(接吻)名キッスに同じ。
せつべき(絶壁)名切りたるが如くけしきはしが
せつべん(切片)名きれはし。「け。懸崖」
せつぼ(舌鋒)名舌剣に同じ。
せつぼく(接木)名或木の幹に他の木の枝を
つぐこと。つぎぎ。

せつぼく(説法)名佛の教法を衆人に
對して説示すること。
せつまう(雪盲)名積雪より發する紫
外光線の刺激によりて起る一種の結膜炎。
せつみやく(切脈)名脈搏をみること。脈をは
かること。「ること」
せつみやく(絶脈)名脈搏の絶ゆること。死ぬ
せつむ(絶無)名全くなきこと。
せつめい(雪明)名ゆきあかり。
せつめい(説明)名ときあかし。解釋。
—(一)「語」名文法。主語の動作形態を説明
する語。「花咲く」「山高し」の「咲く」「高し」等
の類。「らすこと」
せつめい(洩命)名秘密なる君命を他人にも
せつめい(暖茗)名茶を飲むこと。「其。落日平
臺上、春風一時」
せつめい(絶命)名命の絶ゆること。死ぬること
せつめう(絶妙)名勝れて巧妙なること。
せつめつ(絶滅)名絶えてなくなること。たえは
るること。「ること」
せつもく(節目)名こわけ。細目。「節譜」
せつもく(絶目)名目のとく限り。又「一盡
せつやう(一)「攝養」名養生すること。「平原」
せつやう(一)「瘡瘍」名皮膚の不潔に際し
毛囊孔より膿膜菌の侵入するに因りて發す
る炎症。ねぶと。「る。つぎまかにすると」
せつやく(節約)名用度を節してほどほどにす

せつゆ(説論)名ときとすと。いひきかすと。
せつよう(節用)名費用を節約すること。節
約。儉約。「節用集の略」
—しふ(一)「集」名手数をばぶきて簡便に
種々の方面のことに引き得らるゝ一種の辭
書。徳川時代に専ら行はれたるもの。
せつり(節理)名すぢ。みち。め。きめ。
せつり(攝理)名とへのをさむること。すべをさ
むること。
せつり(剎利)名佛(梵)天竺の四姓の一。武
力に由り所在に土地民庶を領して政治を行
ひし種族。剎帝利。
せつり(泄痢)名はらくたり。下痢。
せつりつ(設立)名まうけたつること。
せつりふ(雪粒)名あられ。「絶食」
せつりふ(絶粒)名穀物を食はざること。
せつりん(絶倫)名同類中より特にぬきんで
くれたること。「檀一檀譚以爲」
せつりやく(節略)名よきほどにはぶくこと。
せつるる(絶類)名絶倫に同じ。「を用ゐると」
せつれい(設體)名賓客を待遇するに厚く意
せつれい(絶麗)名すぐれてうるはしきこと。
せつれつ(拙劣)名つたなくしておとれること。
せつろう(洩漏)名水などのもれ出づること。
せつろう(褻陋)名野卑なると。みだりがはしき
せつろう(拙陋)名つたなくいやしきこと。「と」
せつろく(攝録)名攝政の異稱。

せみ せみ。山川一岸狭勢一。近づく。ちかよる。望三崎嶺二而未レ。か。が。まる。ち。ち。まる。陰一而不可レ蒸。縮。く。る。し。む。き。は。まる。響。い。そ。ぐ。響。外一。公。事。二。急。

せみ(蟬)名(動)昆蟲の一種。夏土中に皮を脱して形をなし樹根に上り数日にして再び脱皮し羽を生じて飛翔す。眼は複眼にして六足羽薄くして紗の如く淡褐色をなす。聲を發して鳴く。種類多し。横に帆を上げ或は高所に物を引上ぐる際に用ゐる滑車。

せみ(えび)名(動)えびの一種。體は稍いせえびに似て黒褐色なり。

せみ(かご)名(蟬籠)名籠花生の一種。せみ(くちら)名(動)せびくちらの轉。せみ(たけ)名(蟬花)名(動)蟬の蛹時代即ち土中に棲息する間に菌類の寄生を受けて斃れ其體上より菌類の長き枝條を出したるもの。

せみ(はうぼう)名(蟬動)海に産する魚。胸鰭は大小二片に分れ其一大く翼状をなし往々海上を飛行することあり。背は暗紅色に黒點を有し腹部及眼の附近は淡紅色を帯ふ。くさい。

せむ(と)蟬の鳴聲を發するもの。せみ(を)蟬(折)名男子の結髪の名。鬚のはけ先を上にとらしたるもの。

せむ(追逼)名(動)下二せまる。つまる。容物(俄)に一命とせむとて。せむ(一)名(動)下二。敵をおそふ。進みて敵を撃つ。敵を一。伐。お。か。す。唐。一。心。一。之者衆一。過失をあらはすとがむ。非難す。唐。一。小。子。鳴。鼓。向。一。之可也。整へたす。をさむ。唐。一。左。不。レ。左。汝。不。レ。命。一。

せむ(責)名(動)下二。せまる。せむ。唐。一。少。し。つ。語。り。ま。う。せ。と。め。ら。る。非。と。す。唐。一。無。我。一。催。促。せ。つ。く。と。が。む。し。か。る。な。じ。る。た。だ。す。

せむ(瀝)名(動)いさごむしに同じ。せむ(し)名(動)脊骨の彎屈して大なる瘤を生ずるが如くなるもの。くぐせ。脊柱後彎。せむ(線)名(動)すぢ。いとすぢ。點の運動によりて生じ長さを有し幅及厚さなきもの。表面の境界又直線の略。一般に細長くして線状をなしたるもの。

せむ(詮)名(動)仕事の效。か。ひ。一。な。ま。業。一。せむ(先)名(動)さき。後れぬこと。一。を。越。す。一。唐。一。前。基。な。の。先。手。の。略。さ。き。が。け。せむ(痛)名(動)大小腸腹部腹部などの病。痛。せむ(鏟)名(動)木を削る器。

せん(錢)名(動)旅立つ人に與ふる贈物。ばなむけせん(牋)名(動)上書。ききもの。文書。文字を書するもの。即ち紙又は札。箋。

せん(撰)名(動)つくりのぶること。述。せん(仙)名(動)やまびと。仙人。ひじり。聖せん(錢)名(動)貨泉。たから。財。貨幣の名。一圓の百分の一。ん。毛布。

せん(詮)名(動)きりのきぎ。木釘。物の孔に差込みて物の動き又は漏れなどをせむやうにするもの。せん(選)名(動)えらぶこと。簡擇すること。せん(膳)名(動)生物の體内にありて分泌物を製造し又排泄物を體外に排出する臓器。

せん(鮮)名(動)あさやかなること。あきらかなること。いさよきこと。すくなきこと。まねなること。一。少。な。ま。う。な。ま。に。く。な。ま。もの。せん(千)名(動)百の倍。牛魚。生肉。

せん(膳)名(動)飯菜などを供すること。飲食を供する具。食器を載する臺。せん(禪)名(動)念慮を安靜にして眞理を思惟すること。座禪の略。禪宗の略。せん(漸)名(動)さざし。いとぐち。度の次せん(前)名(動)さき。まへ。第に加はり進むとせん(善)名(動)心。所行の正しきこと。凡て價値あるもの。善。何物にても吾人の慾望を満足するものは其點に於て價値を有するも

のにして其目的にとりて善なり。

一のつな(綱)名(佛)佛力にするが意を表すために佛像などの手に綱を懸けて引くもの。開帳の結縁。祈願。臨終などの時に行ふ。葬送の時靈柩の棺にかけて引く索。佛。一は急げ。善きことは時を遷す急ぎて行ひ機を逸すべからずとの意。

せん(膳)名(佛)腕に盛れるものを數ふる語。御飯三。一。箸二本を一對として數ふる語。せん(あい)名(佛)細かきちり。ちりほ。こりせん(あい)名(佛)愛。ひたすら愛すること。せん(あく)名(佛)善惡。善と惡と。よきとあしきと。佛。法性の理に順ふこと。

一ずるえん(縁)名(佛)善となり惡となるは一に因縁如何によらんとす。せん(あん)名(前案)名以前の考案。せん(あん)せん(き)名(安全器)名陶器若くは磁器の蓋とこれに嵌込み得る栓とより成る栓は其内部に可鍍片を有するものとす。

せん(い)名(選移)名うつりかはること。せん(い)名(選易)名うつりあらたまること。又うつしせん(い)名(涎衣)名よだれかけ。あらたむるとせん(い)名(戰意)名たかはんとするかんがへ。せん(い)名(專意)名専一なること。せん(い)名(既衣)名毛織物にてつくりたる衣服。

せん(い)名(善意)名悪しからぬこと。善良なるかんがへ。法。權利又は事實の存在せざるかんがへ。

を存在するものと信じ又は存在せざるを存在せずと信する意識状態。

せん(いう)名(專有)名ひとりにてたもつこと。ひとりじめ。獨占。せん(いう)名(團幽)名隱幽なる道理を開發してせん(いう)名(占有)名しめてたもつこと。自分の所有となすこと。法。自己の爲にする意志を以て有體物を所持すること。

一けん(權)名(法)物の占有者が占有の事實に基きて有する權利。一そけん(訴權)名(法)訴を以て占有の侵害若くは侵害の危険に對する救済若くは豫防を求むる權利。

一ぶつ(物)名占有權あるもの。一のうた(訴)名(法)占有の效力に關する訴。せん(いう)名(戰友)名軍人相互間に隊伍を同じせん(いう)名(善友)名よきとも。

一のしちじ(七事)名苦に遭ひて捨てず貧賤を輕んぜず。密事を相告ぐ。遮に相覆蔽す。作し難きをよくなす。與へ難きを能く與ふ。忍び難きを能く忍ぶの七事。一。首要。第一。せん(い)名(專)名一。或事にのみ専らなること。せん(い)名(全邑)名村全體。全村。せん(い)名(餞飲)名旅立つものを送る酒宴。

せん(い)名(蕪引)名すすめあぐること。せん(う)名(蟬羽)名陰曆六月の異稱。

せん(うん)名(船)名船に乘ひて目のくらむこと。ふなみ。せん(うん)名(戰雲)名戰爭の將に起らんとする有せん(うん)名(鮮雲)名あさやかなる雲。

せん(えい)名(先登)名祖先のほか。せん(えい)名(閃影)名ひらめくかげ。ひらめき。せん(えい)名(閃影)名(扇影)名(扇)と衣の香との義。貴婦人の多く集れるさまに。せん(えう)名(專要)名最も必要とする所。極めて肝要なること。

せん(えう)名(輝耀)名ひかりかがやくこと。せん(えう)名(宣耀)名古。禁中にあるりし殿舎の名。せん(えき)名(戰役)名たたかひ。戰爭。戦争の範圍内に於て一方面に起れる稍や長時日の兵戰。遼東。一。兵。戰爭の終始全局期間の總稱。三十七八年。せん(えき)名(腺疫)名(病)馬。驢。驘等に生ずる急性の傳染病。

せん(えつ)名(選因)名えらびけみすること。せん(えん)名(蟬鳴)名連なること。有。二周氏之せん(えん)名(泉鹽)名(鹽)鐵泉よりとりたる鹽。せん(えん)名(遷延)名のびのびにながむこと。せん(おん)名(沾恩)名めぐみにうるほふこと。

せん(おん)名(全音)名一列の樂音中にて隣接したる或二音間に存する距離の大なるもの。一かい(階)名音樂にて二箇の半音と五

せん 一四八七

せんきやう(一)戦況(一)戦のありさま。
 せんきやう(二)仙境(一)仙人の住める處。
 せんきやくばんらい(一)千客萬來(一)せん、くばんらいに同じ。
 せんきゆう(一)仙宮(一)仙人の住家。
 せんきゆう(二)川芎(一)葉は芹葉に類し、枝繁く莖葉共に淺綠色にして香氣多く秋結實す。根葉は藥用に供せらる。なんなひづら、芍薬せんきよ(存居)名 聚まり居ること。左傳「戎狄せんきよ(薦舉)名 推薦すること。すゝめあぐるせんきよ(線渠)名 電線或は電槽を家屋内天井裏又は大地中に布設するに當りてこれを包藏する具。
 しき(一)式(一)電氣鐵道の一法式。地中に溝渠を穿ち、これに電車の電動機に電流を供給する電線を布設したるもの。
 せんきよ(遷居)名 居所をうつしかふること。
 せんきよ(船渠)名 ドックに同じ。
 せんきよ(占據)名 占有して其處によること。
 せんきよ(潛居)名 かくれひそみ居ること。
 せんきよ(選舉)名 多人數の中より或事に適したる人を選び出すこと。
 せんきよ(運動)名 或人を選擧の當選者たらしめんとして周旋奔走すること。
 かんせふ(一)干渉(一)干渉(一)政府當局者が

公力を利用して民衆の選舉に干渉し政黨に妨害を加へて自黨の當選者を多數に得んとすること。「一定の土地の區域、一區」名 選挙員議員を選擧する一會」名 選挙のために開く會合。一けん(一)權(一)法(一)選挙に参加して選挙を行ふ權利。「ることを得る資格。一しかく(一)資格(一)法(一)法律上選挙人たしそしよう(一)訴訟(一)法(一)衆議院議員選挙の效に關し異議ある選挙人が選挙長を被告として選挙の當日より三十日以内に控訴院に控訴すること。
 たちあひにん(一)立會人(一)名 選挙會に立會ひて選挙に關する事を監視する人。
 ちやう(一)長(一)名 選挙に關する事を統轄する人。
 ちやう(一)場(一)名 選挙を行ふ場所。
 一にん(一)人(一)名 選挙を行ふ人。又選挙權を有する人。
 せんきよ(遷御)名 天皇の御在所を他へうつせんきよ(鮮魚)名 新鮮なる魚。なまぢひなせんきよ(旋曲)名 ののきおそること。
 せんきよ(戰局)名 戦のなりゆき。戦争のせんきよ(戰區)名 戦役の戦地。「大勢。せん(一)先驅(一)名 騎馬して先導すること。せん(一)願恩(一)名 おろひ。バカ。

せん(一)船具(一)名 船舶の用具。
 せん(一)全句(一)名 すべての文句。
 せん(一)全驅(一)名 全身に同じ。
 せん(一)前驅(一)名 騎馬の先供。さきの。
 せん(一)ばんなん(一)千苦萬難(一)名 さまじの艱難。「れに神靈を遣し奉ると。
 せん(一)遷宮(一)名 神殿の所に造營ありてせん(一)仙宮(一)名 仙人のすみか。仙境。
 せん(一)せん(一)名 鐵のくづ。やすりくづ。
 せん(一)つ(一)さい(一)千風菜(一)名 種みぞばぎに同じ。
 せん(一)先君(一)名 先代の主君。亡き父。
 せん(一)せん(一)名 戦争にてたたる勳功。戦せん(一)せん(一)名 全部の軍隊。「功。
 せん(一)せん(一)名 前方にある軍隊。
 せん(一)せん(一)名 千軍萬馬(一)名 多くの軍隊と多くの戦馬と。
 せん(一)せん(一)名 戦場。戦争。
 せん(一)せん(一)名 順おくり。しだいにせん(一)せん(一)名 たたひの結果。せん(一)せん(一)名 兵戦の後、對抗兵軍が其敵に對し收得する有形無形の結果。「一遷化。
 せん(一)せん(一)名 うつりかはること。遷月せん(一)せん(一)名 桃の異名。
 せん(一)せん(一)名 選擇して學修する學科。
 せん(一)せん(一)名 専門の學科。

せい(一)生(一)名 専科の生徒。
 せい(一)せい(一)正教員(一)名 小學校の科目中、圖書唱歌體操裁縫英語農業商業手工中の一科又は數科目を限りて教授する小學校教員。
 せん(一)せん(一)名 古代よりの錢貨及章牌を集成して其沿革を研究し其類別系統等を考證する學。
 せん(一)せん(一)名 ひらめく火光。
 せん(一)せん(一)名 温泉より生ずる石灰又は珪酸質の沈澱物。「こと。
 せん(一)せん(一)名 善行の報。よき果報。
 せん(一)せん(一)名 善行の報。よき果報。
 せん(一)せん(一)名 前に犯したる罪科。「一者」せん(一)せん(一)名 めぐる。又めぐらすとせん(一)せん(一)名 ホルトの接合に用ひる緊子。其旋回によりホルトに十分なる張溢を加へ得るものとす。「全治。全癒。
 せん(一)せん(一)名 まへのたび。
 せん(一)せん(一)名 ひらめくひかり。
 せん(一)せん(一)名 閃光を發して行ふ通信。軍事又は艦船等に於て夜間信號として用ひらる。「有せる礦物。石炭の類。
 せん(一)せん(一)名 燃ゆべき性質をせん(一)せん(一)名 信濃國長野市

にある天台宗の寺。
 せん(一)せん(一)名 つばみの螺旋狀に巻く植物。あさがほゆふがほ等の類。
 せん(一)せん(一)名 厚くして質強き一種の紙。伊豫宇和島より産す。泉貨紙。
 せん(一)せん(一)名 宣化天皇(第二十)八代の天皇。御名は檜隈高田。在位四年。壽七十三。
 せん(一)せん(一)名 水の流るゝさまにいふ語。せん(一)せん(一)名 水に流るゝさまに水守。「せん(一)せん(一)名 銃腔を試みしに用ひる刷毛。
 せん(一)せん(一)名 櫛の先端に附着してせん(一)せん(一)名 仙境に同じ。「こと。
 せん(一)せん(一)名 一手にて専ら管轄する一きよりうち「一居留地」名 一國の領事が専ら管轄する一區劃の居留地。
 せん(一)せん(一)名 前に奉じたる官職。
 せん(一)せん(一)名 數多續けたる種せん(一)せん(一)名 定期外臨時に宣旨の下ること。「親王」
 せん(一)せん(一)名 古。臨時宣下によりて任ぜられたる官。即ち檢非違使などの類。
 せん(一)せん(一)名 僧侶の死ぬるにいふ。
 せん(一)せん(一)名 禪宗。又は禪寺。
 せん(一)せん(一)名 あふぎなり。「せん(一)せん(一)名 圓の二つの半徑と其弧とにて圍む部分。又一般には曲線の一部と一點より其曲線部分の

兩端に至る直線とにて圍む平面圖形をいふ。
 せん(一)せん(一)名 其平面上の其軸のまはりに旋轉して生じたる體。
 せん(一)せん(一)名 善きは、かりこと。「體。
 せん(一)せん(一)名 全體のかたち。完全なる形せん(一)せん(一)名 輪形動物(一)名 體質柔弱にして骨格を有せず。形は一般に細長くして運動器なき動物。蚯蚓、蠅、蜂、蜘蛛等の類。
 せん(一)せん(一)名 卑き地位より高き地位にうつりおること。遷出。せん(一)せん(一)名 遷子。喬木。
 せん(一)せん(一)名 榮轉を望むこと。
 せん(一)せん(一)名 宗教をのべらるむこと。
 せん(一)せん(一)名 宗教の傳播普及を任とする教師。「特に基督教の教師。牧師。
 せん(一)せん(一)名 明治維新の初一般國民を教導する爲に設けたる職名。「部高したる處。
 せん(一)せん(一)名 上甲板の上に更に「せん(一)せん(一)名 船橋の中央部にある船樓。
 せん(一)せん(一)名 よきをへ。
 せん(一)せん(一)名 善巧(一)名 善巧(一)名 善巧にして巧妙なる義。佛の衆生を救済するに巧妙なるをいふ。
 せん(一)せん(一)名 方便(一)名 佛。衆生化益の爲に佛が種々に巧みな方法を講ずること。
 せん(一)せん(一)名 敵を中心とし其周圍に旋回して攻撃すること。旋回攻撃。
 せん(一)せん(一)名 なまぢ。いきぢ。

或作家の著作を残さず集めたる書。二程
 せんしよ(善書)名文字を巧に書くこと。又
 せんしよ(膳所)名徳川時代膳部のかかり。
 せんしよ(戦慄)名をのこおそるること。昔者
 「夙夜」
 せんしよ(先蹤)名先のあしあと。●轉
 せんしよ(旋踵)名くびすをめぐらすこと
 ●暫時の間。
 せんしよ(戦勝)名戦に勝つこと。「一國」
 せんしよ(先勝)名せんしよ(先)にちの略
 一にち(一日)名陰陽家にて、急用又は公事
 沙汰などに吉なりといふ日。
 せんじよ(千乗)名千輛の兵車。支那周代
 の制に方十里より革車一乗申士三人。歩卒
 七十二人。重車を將るもの二十五人。總數
 百人を出さしめたり。
 一のきみ(一君)名大諸侯をいふ。
 一のくに(一國)名方萬里の國。即ち兵十
 萬人を出す大國。轉じて大諸侯の領地。
 せんしよ(全勝)名十分の勝利。まつたくの
 勝利。
 せんしよ(全稱)名全稱命題(名論)命題
 の一種。これに全稱肯定命題とて、量全稱に
 して質肯定なる命題と、全稱否定命題とて量
 全稱にして質否定なる命題とあり。
 せんしよ(戦色)名をのこおそるる顔色。

せんしよ(染織)名そむるとおると。又そ
 せんしよ(染色)名そめいる。
 せんしよ(質)名細胞の結核に有する重要
 なる物質。即ち静止核内に不規則の顆粒状
 をなして存在するもの。
 せんしよ(分裂)名分裂中の細胞核に表はる
 る重要な有形體。核の間接分裂に際し核
 内の染色質は蓄積集合して長き錯綜せる糸
 條となり終に一定數の同長の片節に分る。即
 ち此片節をいふ。
 せんしよ(法)名染料を以て纖維製品
 又は其他の物體に種々の色彩を施す方法。
 せんしよ(ばんたく)名千囀萬託。名くれん
 もたのむこと。いくへにもたのむこと。
 せんじよ(ばんま)名千察萬麻。名さまざまに亂
 せんす(扇子)名あふぎ。「れいりくみたると」
 せんす(撰)名他動サ變。●つづる。のぶ。述作す
 ●撰。●大聖修。●とる。もつ。●體記。君子欠
 仲。杖履。
 せんす(選)名他動サ變。●えらぶ。よる。●體記。威
 儀。●不可。●簡擇。●えらびて官職に
 任す。あぐ。えらぶ。
 せんす(自動サ變)名分限を超えて長上にな
 ること。●後漢書。●崇。財貨。●而行。●二。●たが
 ぶ。●天。命。弗。差。

せんす(宣)名他動サ變。つぐ。のぶ。
 せんす(先)名自動サ變。さきだつ。さきんす。
 せんす(煎)名他動サ變。煮だす。「藥を」
 せんす(撰)名他動サ變。撰び入る。えらぶ。よ
 る。●後漢書。●古今にいらぬ歌を昔の今もの
 せんす(爲)名他動サ變。せんすとす。なさんとす
 字。●治。●かかれは高名。●一人はその相ありとも
 せんす(戦數)名戦争の性質上緊急の必
 要ある場合に限り許さるる戦争法規遵守の
 例外。即ち戦争法規を遵守するときは敗軍に
 至る虞ある場合並に敵が戦争法規を破りた
 る報仇手段を行ふ場合には必ずしも戦争法
 規に拘泥せざること。
 せんす(全數)名數量の全部。
 せんす(千筋)名細き縦縞のめやう。
 せんす(詮術)名てだて。しかた。手段。
 せん(スペクトル)名線。Line Spectrum。名
 (理)氣體を高熱せしむるとき生ずるもの。スペ
 クトルの輝線より成る。
 せんす(ところ)名所詮。●まりは。しよ
 せん。畢竟。
 せんす(泉水)名。●いづみ。●庭園に設け
 せんす(浅水)名あさき水。
 せんす(旋水)名たつまき。まきみづ。
 せんす(潜水)名水にくぐり入ること。
 せんす(衣)名水中に潜り入る者の着用する

衣服。全身の濡を防ぎ且つ行動を容易ならし
 むるために謔諷にて作る。
 せん(機)名水中作業をなすため潜水夫が
 水中に送り空氣を通じて安全に作業せしめ
 得る器機。
 せん(漁業)名水底に潜入して
 なる漁業。これに潜水機を使用するとせざると
 いてい。●艇。名潜水艇。●二艘以上を
 以て編制する艇隊。●中作業をなす人。
 せん(夫)名潜水衣を着し水底に入りて水
 せん(服)名潜水衣に同じ。
 せん(山)名山。●水。●山。●風。●名。●佛。●眞
 言宗にて灌頂曼荼羅供の内道場に用ゐる
 屏風。
 せん(前生)名佛。まへのよ。せんしよ。
 せん(善逝)名佛。佛稱號の一。佛の尊稱。
 せん(先生)名。●年長にして學徳ある人
 の稱。●孟子。●一將。●何之。●己の師とする人に
 對する尊稱。
 せん(先聖)名昔の聖人。●孟子。●一後聖。其
 せん(先制)名兵。敵に先じて或行動を
 なし以て機先を制すること。
 せん(宣誓)名。●おほやけにわかふこと。ち
 かひをぶること。●法。●一般に職務上の誠實
 を確保する爲に誓言をなさしむること。
 せん(解放)名俘虜解止の方

せん(勃如)名「めやうとおりのやうと」
 せんしよ(染織)名そむるとおると。又そ
 せんしよ(染色)名そめいる。
 せんしよ(質)名細胞の結核に有する重要
 なる物質。即ち静止核内に不規則の顆粒状
 をなして存在するもの。
 せんしよ(分裂)名分裂中の細胞核に表はる
 る重要な有形體。核の間接分裂に際し核
 内の染色質は蓄積集合して長き錯綜せる糸
 條となり終に一定數の同長の片節に分る。即
 ち此片節をいふ。
 せんしよ(法)名染料を以て纖維製品
 又は其他の物體に種々の色彩を施す方法。
 せんしよ(ばんたく)名千囀萬託。名くれん
 もたのむこと。いくへにもたのむこと。
 せんじよ(ばんま)名千察萬麻。名さまざまに亂
 せんす(扇子)名あふぎ。「れいりくみたると」
 せんす(撰)名他動サ變。●つづる。のぶ。述作す
 ●撰。●大聖修。●とる。もつ。●體記。君子欠
 仲。杖履。
 せんす(選)名他動サ變。●えらぶ。よる。●體記。威
 儀。●不可。●簡擇。●えらびて官職に
 任す。あぐ。えらぶ。
 せんす(自動サ變)名分限を超えて長上にな
 ること。●後漢書。●崇。財貨。●而行。●二。●たが
 ぶ。●天。命。弗。差。
 せん(書)名宣言の意を認めたる文書
 せん(專制)名。●意のままに處置すること
 ●專制政體なること。●專制政體なること。
 せん(一國)名專制政體の國。
 せん(政體)名國家の元首が隨
 意に政務を處理して其餘の機關はたゞ之を
 執行するに止まるもの。立憲政體の對。
 せん(政治)名專制政體によりて施
 行せらるる政治。
 せん(戰勢)名兵。兵戰にて對抗兵軍の
 相對立する姿勢。
 せん(潛勢)名根底深くひそみてあらはれ
 せん(蟬蛻)名。●せみのぬけがら。●蟬
 の皮を去る如く超然として世外に脱し去るこ
 と。●史記。●一。●濁。●以。●浮。●遊。●塵。●埃。●之。●外。●二。
 外形は其まゝにして内容のぬけいづること。も
 ぬけのから。
 せん(船税)名船舶に課する租税。
 せん(全盛)名。●極めて盛なること。●極め
 て繁榮なること。●遊女などの客多きこと。
 せん(善政)名正しくよき政治。

せん(前世)名むかし。
 せん(占星術)名日月星辰の現
 象を視て國家の治亂人事の吉凶を卜する
 術。
 せん(泉成説)名。●温。●泉。●と。●共に。●地
 中より礦物質立ち昇りて鑛脈を生成したりと
 の説。
 せん(鮮少)名すくなきこと。わづかな
 ること。
 せん(全燒)名火災にかりて残りな
 せん(前宵)名前日のよひ。前夜。
 せん(前哨)名兵。前方にある哨兵。休
 止の軍隊を警戒するため配置せるものにして
 其任務は敵の陣地。運動等の情報の本隊に
 通じ、本隊をして安全に戦闘準備をなさしむ
 るにあり。
 せん(燃燒)名火にもゆること。又火の
 せん(全世界)名世界全體。世界中。
 せん(船籍)名各船舶の船籍港の船舶
 原籍に登録せられたるもの。
 せん(港)名其船舶の船籍のある
 港。船舶の所屬港。
 せん(蒸席)名むしる。●も。●又は。●こも
 せん(燻石)名。●燻。●火山岩の接觸變性作
 用によりて生せる石炭の燻成物。金屬光澤を
 有し外観無煙炭に似、火に投ずれば燻散す。

せんせき(泉石)名泉水と庭石と。
せんせき(前席)名まへのせき。
せんせき(前夕)名前日のひぐれ。まへのよ
せんせつ(借竊)名みだりに分際を超えて
振舞ふこと。臣下が主君に専属すべきもの
を横領すること。

せんせつ(剪截)名はさみとること。きりたつと。
せんせつ(前説)名前に述べたる説。
せんせふ(戦捷)名戦勝に同じ。
せんせん(宣戦)名戦争開始の宣告。我國に
ては天皇の大権に屬す。
せんせん(戦線)名兵敵軍に對して張れる散
兵線。敵と交戦する線。

せんせん(戦船)名いくさぶね。
せんせん(先占)名他より先に占むること。
●送)所有者なき動産を所有の意思を以て
占有すること。又、國家が主なき土地を領有す
る意思を以て占領すること。「ひとりにじめ」
せんせん(專占)名自己一人にて占むること。
せんせん(談談)名副諺言するさまにいふ語。
せんせん(川川)名副重々しくおそきさまにい
ふ語。太平舞(大車)。

せんせん(戦戦)名副おそれるのくさまにい
ふ語。●つしみふかきさまにいふ語。
せんせん(戦戦)名副おそれるのくさまにい
ふ語。●つしみふかきさまにいふ語。
せんせん(戦戦)名副おそれるのくさまにい
ふ語。●つしみふかきさまにいふ語。

せんたい(艦隊)名五兵海軍の戦時艦種別に
編制せる一隊の稱。
せんたい(船體)名船の體。
せんたい(傾倒)名傾倒法。名船渠の
設置なき地にて船底修繕などの場合に艦の
外底部を水面上に露出せしむるため碇泊中
船體を傾倒する法。

せんたい(先帝)名●せんていに同じ。
せんたい(先代)名●まへの代。以前の代。●
今代の前の代の人。當主の前の主。
せんたい(開提)名佛法を講説し因果を
信ぜぬと。又佛法に縁なきもの。

せんたい(非願)名佛菩薩の悲願
菩薩は大悲心を以て迷へる衆生の爲に發願
し自己の成佛を望み専ら一切衆生の救済
に心を砕くが故にいふ。
せんたい(仙臺)名陸前國にある市。

せんたい(仙臺)名陸前國にある市。
せんたい(仙臺)名陸前國にある市。
せんたい(仙臺)名陸前國にある市。
せんたい(仙臺)名陸前國にある市。

せんたい(仙臺)名陸前國にある市。
せんたい(仙臺)名陸前國にある市。
せんたい(仙臺)名陸前國にある市。
せんたい(仙臺)名陸前國にある市。

せんせん(潺湲)名副水のさらさらと流るるさ
まにいふ語。●三日月のほそきさまにいふ語。
せんせん(芊芊)名副しげく盛なるさまにいふ
語。列子(美哉國乎、鬱々)。

せんせん(閃閃)名副光りひらめくさまにいふ
語。●せん(遷善)名惡をあらためて善にうつる
こと。
せんせん(選選)名怯れて前まざることを。
せんせん(先前)名まへかた。まへまへ。

せんせん(漸漸)名副だんだんに。しだ
いに。おひおひと。●涙の流るるさまにいふ
語。●せん(涕)。「老」其將「至」
せんせん(冉冉)名副行くさまにいふ語。●
せんせん(蠕蠕)名副蟲などのうごめくさまにい
ふ語。

せんせん(全然)名副まったく。すべて。ま
せんせん(げつ)名副先月。せんせん(げつ)名副先月。
せんせん(げつ)名副先月。せんせん(げつ)名副先月。
せんせん(げつ)名副先月。せんせん(げつ)名副先月。

せんせん(げつ)名副先月。せんせん(げつ)名副先月。
せんせん(げつ)名副先月。せんせん(げつ)名副先月。
せんせん(げつ)名副先月。せんせん(げつ)名副先月。
せんせん(げつ)名副先月。せんせん(げつ)名副先月。

せんせん(げつ)名副先月。せんせん(げつ)名副先月。
せんせん(げつ)名副先月。せんせん(げつ)名副先月。
せんせん(げつ)名副先月。せんせん(げつ)名副先月。
せんせん(げつ)名副先月。せんせん(げつ)名副先月。

せんせん(げつ)名副先月。せんせん(げつ)名副先月。
せんせん(げつ)名副先月。せんせん(げつ)名副先月。
せんせん(げつ)名副先月。せんせん(げつ)名副先月。
せんせん(げつ)名副先月。せんせん(げつ)名副先月。

せんせん(げつ)名副先月。せんせん(げつ)名副先月。
せんせん(げつ)名副先月。せんせん(げつ)名副先月。
せんせん(げつ)名副先月。せんせん(げつ)名副先月。
せんせん(げつ)名副先月。せんせん(げつ)名副先月。

せんせん(げつ)名副先月。せんせん(げつ)名副先月。
せんせん(げつ)名副先月。せんせん(げつ)名副先月。
せんせん(げつ)名副先月。せんせん(げつ)名副先月。
せんせん(げつ)名副先月。せんせん(げつ)名副先月。

せんせん(船窓)名船のまじど。ふなまじど。
せんせん(餞送)名人を見送ること。
せんせん(禪僧)名禪家の僧。
せんせん(髣髴)名種。松の異名。
せんせん(跣足)名すはだし。はだし。
せんせん(洗足)名湯水にて足を洗ひ清むる
こと。又其湯水。

せんせん(賤息)名自分の子の謙稱。
せんせん(賤俗)名●いやしき風俗。●しも
じ。下等社會。
せんせん(鐵賊)名賊をみなごろしにすること。
せんせん(專屬)名其れにのみしたがふこと。そ
れにのみつくこと。

せんせん(管轄)名其管轄に專屬す
ること。
せんせん(管轄)名其管轄に專屬す
ること。
せんせん(管轄)名其管轄に專屬す
ること。

せんせん(管轄)名其管轄に專屬す
ること。
せんせん(管轄)名其管轄に專屬す
ること。
せんせん(管轄)名其管轄に專屬す
ること。

せんせん(管轄)名其管轄に專屬す
ること。
せんせん(管轄)名其管轄に專屬す
ること。
せんせん(管轄)名其管轄に專屬す
ること。

せんせん(管轄)名其管轄に專屬す
ること。
せんせん(管轄)名其管轄に專屬す
ること。
せんせん(管轄)名其管轄に專屬す
ること。

せんせん(管轄)名其管轄に專屬す
ること。
せんせん(管轄)名其管轄に專屬す
ること。
せんせん(管轄)名其管轄に專屬す
ること。

せんせん(管轄)名其管轄に專屬す
ること。
せんせん(管轄)名其管轄に專屬す
ること。
せんせん(管轄)名其管轄に專屬す
ること。

せんせん(管轄)名其管轄に專屬す
ること。
せんせん(管轄)名其管轄に專屬す
ること。
せんせん(管轄)名其管轄に專屬す
ること。

せんぶ(宣布)名 官より人民にのべ傳ふる
こと。ふれ。●あまねくゆきわたること。

せんぶ(泉布)名 貨幣。

せんぶ(先父)名 亡き父。

せんぶ(船夫)名 ふなこ。せんどう。

せんぶ(賤夫)名 いやしきをとこ。

せんぶ(賤婦)名 いやしきをんな。

せんぶ(膳部)名 料理。食物。

せんぶ(膳部)名 膳部を取扱ふ人。

せんぶ(膳部)名 全體。總體。

せんぶ(膳夫)名 ●飲食を調理する人。かし
はで。●宮内省大膳職の職員。准列任とす。

せんぶ(前夫)名 前の夫。したを。後夫の對
せんぶ(旋風)名 螺旋狀をなしてふく風。つ
むじかぜ。つじかぜ。

せんぶ(扇風機)名 回轉によりて氣體に
流動を生ぜしむる機械。普通小き電動機に
風車を連結したるものにして電流により回轉
して風を起さしむ。「君の供膳を掌りし職。
せんぶ(膳奉行)名 武家時代主
せんぶ(浮伏)名 ひそみかくること。「する芽
せんぶ(芽)名 數年間發育せずして生
せんぶ(全幅)名 すべて。あらんかぎり。

せんぶ(精神を傾注す)名 所々根を生ずる枝。
せんぶ(織筒枝)名 五種。地上に匍匐して
せんぶ(前佛)名 佛。釋迦の出生以前に色

せんまい(洗米)名 ●あらびよね。●神に
供ふるため淨水にて洗ひたる米。饌米。

せんまい(薇)名 ●山野に生ずる草。數莖
一握より羣生す。春芽を採りて食用とし又乾
して貯ふ。●薇の芽の如く渦形に巻ける彈力
ある鋼線の稱。●諸機關の稱。

せんまい(織)名 青森縣より製出する一種
の木綿織物。せんまいの織維と木綿絲とに
て織りたるもの。雨着に用ゐらる。

せんまい(秤)名 せんまいの伸縮により
て重量を計る秤。

せんまい(千枚岩)名 極めて薄くて
はげやすき岩石。

せんまい(千枚漬)名 ●紫蘇の葉を多
く重ねて鹽などに漬けたるもの。●蕪菁の根を
うすく輪切にして鹽づけにしたるもの。

せんまい(千枚張)名 厚く張りたること
「一の面の皮」

せんまい(先負)名 せんぶに同じ。

せんまん(千萬)名 副せんばんに同じ。

せんむりやう(無量)名 はかりしられぬと
せん(鮮味)名 あたらしきさかな。又は料理
せん(禪味)名 禪の致趣。「一を帶ぶ」

せんみつ(織密)名 くはしく細かきこと。細密。
せんみつ(千三)名 千の口に對して織ま
るものは僅三つ位の義。地所の賣買又は貸金
等の周旋を業とするもの。●よく嘘を云ふ人。

身を現じたりといふ迦葉佛の稱。後佛の對。
せんぶ(はんけつ)名 全部判決。名 送。訴訟の全
部に對して下す判決。一部判決の對。

せんぶ(撰文)名 文をつくること。

せんぶ(全文)名 ●首尾完結したる文。●
文章全體。

せんぶ(前文)名 ●前の文章。●手紙の冒
頭。まへおき。時候。安否等に關する文句。

せんぶ(前開)名 以前にききし事柄。
せんぶ(ばんきう)名 千粉萬糾。名 さまざまに
こみりみだること。

せんぶ(千振)名 ●龍膽の一種。形狀龍
膽に類似し。高さ一二寸。初秋黄色。或は帶紫
色の花を開く。莖根共に苦味にして藥用とす
常藥。胡黃蓮。●石龍膽の一種。●いしや
だふしに同じ。

せんべい(煎餅)名 ●麵粉を油にて煎りたる
もの。●麵粉に砂糖を混じ捏ねて鐵の模に入
れうすくして焙りたるもの。

せんべい(千兵)名 多くの兵士。

せんべい(尖兵)名 兵。軍隊の警戒の時。本隊
より先に進みて敵狀を搜索し斥候其他小部
隊の敵を撃ちはらふ任務を有する小部隊。

せんべい(前兵)名 兵。前衛より其前方に出
す部隊。前衛本隊に戰鬪展開の時間を得し
むるにあり。

せんべ(前表)名 ●まへじるし。前兆。
せんべ(前表)名 ●前にあはたる表。●

せんべ(全豹)名 豹皮の全體の義。全部
のしやう。全體のありさま。「一斑を見て
を知る」

せんべ(錢別)名 はなむけ。「さきがけ」

せんべ(先鞭)名 人に先だちて事をなすこと

せんべ(前篇)名 前の篇。後篇の對。

せんべ(全篇)名 詩文の全體。書籍の全體

せんべ(いちりつ)名 千篇一律。名 詩文を千
篇作りても同一の律なりとの義。多くの事物
の何れも異なる所なきをいふ。變化の乏しきと。

せんべ(ばんくわ)名 千變萬化。名 變化多
端にして定まりなきと。列子「不可窮極」

せんぼ(羨慕)名 うちやみしたふこと。

せんぼ(淺謀)名 あさはかなるはかりこと

せんぼ(先鋒)名 ささげなへ。先陣。

せんぼ(織撲)名 ことごとくたふしほるぼすと

せんぼ(占卜)名 うらなひ。

せんぼ(戰歿)名 戦死に同じ。

せんぼ(潛没)名 水中にもぐり込むこと。

せんぼ(懺法)名 懺悔の爲修する行
法。専ら天台にて行ふ。

せんぼ(しめち)名 千本濕地。名 種
一種。秋林間に生ず。形小くして一握より數
多羣生す。味美なり。

せんぼ(千木搗)名 堤防新築其他新
に置土をなしたる場合に。徑三四寸長さ凡三
四尺の小棒にて搗き固むること。

せんもう(腺毛)名 表皮より生じたる突起。其
頂端の膨大せる部より特種の分泌物を出す。

せんもう(纖毛)名 細胞の表面より生ずる細
毛の突起。運動を司るもの。毳毛。「細胞」

せんもう(細胞)名 纖毛を具ふる

せんもう(旋毛)名 頭のざりざり。つむじ。

せんもう(蠱)名 蠱。同蠱の一種。肉の中
に寄生する細小毛狀の蟲。

せんもん(春問)名 しきりにたづぬること。

せんもん(専門)名 專一に研究する學問。

せんもん(一家)名 或種の學問又は事柄を專一
に研究する人。「技藝を教授する學校」

せんもん(コカウ)名 學校。名 専門の學術

せんもん(むきよく)名 學務局。名 文部省内の
一局。當該大臣の統轄に屬し帝國大學高
等學校専門學校等に關する學務を取扱ふ。

せんもん(前門)名 まへのもん。表門。正門。

せんもん(前門)名 まへのもん。表門。正門。

せんもん(虎後門)名 狼。シトウラフセウモ。句 織に
禍を免れて又禍に逢ふをいふ。

ぜんもん(禪門)名 ●佛。禪宗の門流。●佛
門に入りたる男子。禪尼の對。「の意」

ぜんもん(ばんこ)名 千門萬戶。名 數多の人家

ぜんや(先夜)名 過ぎし夜。さきの夜。

ぜんや(前夜)名 まへのよ。昨夜。夜前。

ぜんや(宣揚)名 あまねくあげひろむること。
のべあらはすこと。「國威を一す」

ぜんや(蘭揚)名 ひらきあぐること。おし

そらい「總意」名全體共通の意思。
 そらい「送意」名「みおくりするこころ」。「おくりものする心」。
 そらいう「會遊」名以前遊びたること。「一の地」
 そらうん「層雲」名地 水平層をなして地面に最も近く見ゆる雲。
 そらうん「叢雲」名一處にあつまれる雲。むら
 そらえい「聰叢」名さとくあきらかなること。
 そらえい「聰叢」名才智すぐれてさとこと。
 そらえき「増益」名ましふやすこと。又まし加は
 そらえん「送宴」名送別の宴。
 そらおん「宋音」名漢字の宋代の音。承安以後宋の禪僧多く歸化して之を傳ふ。
 そらおん「宋音」名漢字の宋代の音。承安以後宋の禪僧多く歸化して之を傳ふ。
 そらおん「宋音」名漢字の宋代の音。承安以後宋の禪僧多く歸化して之を傳ふ。
 ソウ「僧家」名「僧侶の家」。「テラ。寺院」
 ◎僧侶。
 そう「か」(宗家)名一門の本系たる家。本家。
 そう「か」(走軻)名小舟のよく走るもの。はやぶね。三國志「一出樊口」
 そう「か」(總嫁)名淫賣婦。やぼら。
 そう「か」(増加)名ましははること。ましふやすこと
 一「きやうばい」(競賣)名「法」抵當不動産の第三取得者が抵當權濫除のため債權者或金額を提供したる場合債權者がこれに満足せず一層高價に競賣せしめんが爲に第三取得者に請求することを得る競賣。

そらがい「嗽咳」名せき。しはぶき。嗽氣。
 そらがい「嗽咳」名前に同じ。
 そらかう「(一)走向」名「はしりむかふこと」。(地)傾きたる地層の面と水平面と相接する線の方向。
 そらかう「(二)崇高」名「かさなりてたかきと。たかきこと」。「けだかきこと。たふとこと」。
 ソウ「がう」(僧綱)名「僧官僧位の總稱」。「ソウ」がうくびの略。
 一「くび」(領)名「天台宗真言宗にて僧正位の僧が袍服を着るに際し其領を三角形に立つること」。「小袖の襟を折らずして着ること。其形僧綱の袍服を着たるに似たるより名とす」
 ソウ「がう」(僧綱)名「僧としての稱號」。
 そう「がう」(贈號)名「死後に贈る名」。
 そう「がかり」(總掛)名「衆人擧りて一時にかゝること。盡衆」。「一事業をなすについて費したる總金」。
 そう「かく」(綜核)名「物事を統べつかぬること」。
 そう「かく」(總角)名「あげまき。つのかみ」。
 ◎幼時。「一の父」
 そう「かく」(總覺)名「人體内の好惡兩種の感覺の稱にして外物に關係なく特異の性状を有する疼痛飢渴等の如し」。
 そう「かく」(奏樂)名「音楽を奏すること」。
 そう「かく」(總額)名「總高。全額」。

そらがく「増額」名高を増すこと。ましだか。
 そら「かけあひ」(總掛合)名「落語又は淨瑠璃などにて一座のものを總出にて掛合をなすこと」。
 そら「がふ」(湊合)名「のこらすひとつによせあつむること。寄り集まること。湊聚」。
 そう「がふ」(總合)名「別々のものを集めあはすとすべ合すと。綜合」。「簡々別々の概念を結合して新なる概念を作爲すること」。
 一「さか」(幾何學)名「概念より直接に圖形について研究する幾何學。純正幾何學。解析幾何學の對」。
 一「ご」(語)名「語詞自身の變形によりて其種々なる關係を表す傾向を有する言語」。
 一「だんてい」(断定)名「主辭の中に毫も含まれざる概念を賓辭としたる断定の稱」。
 一「はんだん」(判斷)名「主辭概念中に本來含有せられざる新しき屬性作用等を賓辭概念にて表す場合の判斷」。
 そう「がみ」(總髮)名「そうはつに同じ」。
 そう「かん」(總監)名「事務又は人員の全體を監督處理すること。又其官職」。「警視」
 そう「かん」(瘦幹)名「瘦せて骨のあらはれたるからだ。瘦軀」。
 そう「かん」(ちやうも)ちやう「(一)總勘定元帳」名「營業に關する取引の全部の勘定計算を總轄し、財産の増減變化の情況、即ち營業會計の状態を整理明瞭ならしむる元締」。

帳の稱。
 そう「き」(叢記)名「あつめて記すこと」。
 そう「き」(奏議)名「天子に申しあぐる事柄」。
 (そう「き」(宗祇)連歌の名家。姓は飯尾氏。自然齋見外齋又種玉菴と號す。性和歌を好み途に連歌を以て一家を成す。文龜二年歿。)
 そう「き」(贈寄)名「おくりやすこと。おくりやると」
 そう「き」(増給)名「給料を増し加ふること」
 そう「きん」(送金)名「金錢を人に送ること」。
 一「かはせ」(爲替)名「一地方より遠隔の他地方に送金をなさんとする時、現金を送る代りに送金手形を送付し第三者をして自己に代りて支拂はしむる方法」。
 一「てがた」(手形)名「送金爲替の取組に際し銀行より送金者に與ふる手形。送金爲替手形の略」。
 そう「きん」(走禽)名「走禽類に屬する鳥」。
 一「るゐ」(類)名「鳥類の一種。翼不完全にして飛翔すること能はず。脚長く且つ強くしてよく疾走するもの。エミュー。駝鳥などに屬す」。
 そう「きん」(贈金)名「金錢を贈りたる金銭」。
 そう「きん」(増金)名「金額を増すこと」。
 ソウ「ギヤ」(僧法)名「古來、數論と譯せらる。六派哲學の隨」。
 そう「きやう」(宗仰)名「たふとびあふること」。
 そう「きよく」(漱玉)名「瀑布などの水たまの飛」。

ひ散るさまに嘘へいふ語。
 ソウ「く」(僧供)名「佛に供養する扶持」。
 そう「く」(走狗)名「狩獵などにおひつかはるゝいぬ」。「轉じておひつかはるゝ人」。
 そう「くづれ」(總崩)名「全體にくづれやぶること」。
 そう「くま」(總暈)名「繪畫を作るに全面を淡墨又は其他の色にて淡く塗ること」。
 そう「くん」(總軍)名「其軍全體」。
 そう「くわ」(蕙花)名「葦輿の屋上中央に在るさばうしゆのかざり」。「(種)さばうしゆに同じ」。
 一「れん」(葦)名「頂に蕙花の附きたる葦。はうじゆかし」。
 そう「くわい」(總會)名「總社員の會合」。
 社團の意志機關にして社團の構成分子たる社員により組織せらるゝもの。「集會」。
 ソウ「くわい」(會)名「基督教に於ける僧侶のそうくわせい」(走化性)名「織毛を具へたるバクテリアや游走子或は精蟲が特殊の溶解せる物質に向つて運動する性」。
 そう「くわつ」(總括)名「多くの事柄をすべく、まとむること」。「簡々別々に共通したる點を一つに聯合して之を一つの部屬に包括すること」。「生徒をして教授したる簡々の要點をくわりて」。



(んれわくうそ)

一つの概念を構成せしむること。
 そう「くわん」(漱澣)名「すすぎあらふこと」。
 ソウ「くわん」(僧官)名「古、僧侶に授けし官。僧正僧都律師の稱」。
 そう「くわん」(總管)名「おくりかへすこと」。
 そう「くわん」(總管)名「全體の事務又は人員をすべて管理すること。すべつかさどること」。
 ◎中古太政官の別稱。◎中古以降京畿鎮撫の爲に設けられたる朝官。
 そう「くわん」(贈官)名「死者に贈り賜はる」。
 そう「け」(宗家)名「そう」に同じ。「明。類語」。
 そう「けい」(聰慧)名「さとこと。さかしきこと」。
 そう「けい」(崇敬)名「あがめうやまふこと」。
 そう「けい」(總計)名「すべあつめて數ふること。總べてをくめての計算。しめ。合計。通計」。
 そう「けい」(送迎)名「行くをおくり來るをむかふること。おくりむかへ」。「一會」。
 そう「けき」(總擊)名「兵。總攻撃に同じ」。
 そう「けき」(忽劇)名「おほいそぎ。火急」。
 そう「けだつ」(總毛立)名「自動タ四おそれ又はさむさなどのために身の毛よだつ」。「樂終也」
 そう「けつ」(奏関)名「音樂の終れること。増田「関」
 そう「げつ」(臘月)名「陰曆正月の異稱」。
 そう「げん」(増減)名「ますとへると。又ますとへらすと。加減」。
 そう「けんげう」(總檢校)名「檢校。勾當座頭衆分等を取締る官人の官」。

くゝること。●たば。
 そらぞく「宗族」名本家と分家と。一系一門
 ソウぞく「僧俗」名僧侶と俗人と。緇素。
 ●佛「比丘比丘尼」と優婆塞優婆夷と。
 そらそつ「忽卒」名にはかなると。急なること。
 いそがしきと。
 そらそつ「走卒」名はしりつかひするしもべ。
 そらそん「曾孫」名ひまご。孫の子。
 そらそん「崇尊」名あがめたふとふと。うやまふと
 そらたい「總體」名副●のこらす。●元來。
 そらだい「總代」名多くの人名にかりはる人。
 總名代。
 ぞうだい「増大」名まし加はること。まして大き
 そうだか「總高」名すべのたか。しめだか。
 總計。總額。
 そらたく「藪澤」名やぶとさはと。●物事の
 そらたく「送達」名●おくりとどくこと。●(法)
 訴訟に關する書類を關係者におくりとどく
 ことを目的とする手續。
 ーリ「一吏」名法「訴訟書類送達の委任を
 うけたる執達吏等の稱。」「とり。
 ぞうたふ「贈答」名贈ると答ふこと。やり
 そうだん「叢談」名あつめかたること。又多くの
 はなしをあつめたるもの。「先哲」
 ソウだん「僧團」名基督教にて宗教信仰のた
 めに世俗生活を辭して特別の修道をなす修
 道僧の團體。教團。

そらち「聰智」名かしこきこと。聰明叡智。
 そらち「送致」名おくりいたすこと。おくりとどく
 そらち「總持」名すべもつこと。總轄。「もと。
 ぞらち「増築」名在來のものゝ外に増してつ
 くること。たてまし。
 「本山」
 「そらぢ」總持寺「能登國にある曹洞派の大
 明治四十三年僧位局を廢して新に置かれた
 るもの。皇族王族及華族公族に關する事
 宜に爵位に關する事を掌る所。
 そらちやう「總長」名其事務の全體をす
 べつかさどる長官。「參謀」
 ぞらちやう「増長」名●漸々に増し加は
 ること。次第にさかんになること。●おこりたか
 ぶること。高慢なること。
 ーてん「一天」名佛「四天王の一。よく自他
 の威徳善根を増長せしむといふ。南方を司る。
 ぞらちやう「増註」名書物の在來の註に増し
 加へて一層精しくしたるもの。
 そらちやう「崇重」名●たふとびおもんずること。
 ●かさなりつむこと。
 ソウづ「僧都」名佛「僧官の一。僧正の次に位
 す。これに大少ありて更に正權の階級あり。
 そらづ「カララす」名「添水唐臼」名●板にて作り
 田に水をひくに用ゐるもの。●獸類の田島など
 あらすをおどすために水にしかけて音のするやう
 に構へたるもの。

ソウづきん「僧頭巾」名頭巾の一種。専ら法
 師の被るもの。山高くしてしころを附く。
 そらづり「總釣」名つよくつりあげたる島田鰯。
 そらづるふし「總追捕使」名古「諸國の追捕
 使を總べし職。源頼朝始めて此職に補せらる
 そらてき「湫滌」名あらひすゝぐこと。
 そらてふ「層疊」名かさなりあふこと。又か
 されたゝむこと。
 そらてん「送傳」名次より次へと送りとどくる
 そらてん「送傳」名電流を送り通すること。
 ソウと「僧徒」名僧のともがら。僧侶。
 そらとら「總統」名すべくること。すぶること。
 そらとら「總督」名一方面的管轄區域内の
 政務軍務又は部員を統轄する官。「藩」
 ーふ「一府」名總督の事務を取扱ふ所。「臺
 ーれい「一令」名法「總督が職權又は特
 別の委任によりて其管轄區域内に發する
 行政命令。
 そらとんすら「總噸數」名噸數全部の合
 計。●西洋形船舶の載積量の全體。
 ソウニ「僧尼」名ソウとアマと。比丘と比丘
 そらにん「奏任」名奏任官の略。「尼と
 ーくわん「一官」名内閣の印ある辭令書を
 以て任命せらるる官吏。即ち三等以下の高
 等官。
 ーたいぐら「待遇」名奏任官にあらずし
 そらねん「總念」名心或階級の事物に共通

なる性質を含める代表的觀念。
 そらはい「崇拜」名しゆうはいに同じ。
 そらはい「層倍」名尾倍數を數ふるにいふ語。
 「十一」
 ソウほう「僧房」名僧の住居する屋舎。
 そらほう「忽忙」名いそがしきこと。
 そらほう「總苞」名五種「花」の下部にありて
 花を包む小鱗片狀のもの。
 ソウほうきん「僧帽筋」名背面の中央
 にありて頸及肩までを蔽へる筋肉。
 ソウほうべん「僧帽瓣」名左心耳と左
 心室との間に相對して成れる二箇の瓣。
 そらほう「湊泊」名船舶のあつまりとよまること。
 そらほう「總髮」名男子が額上の月代を剃ら
 ず全髮を蓄へて頭上に束ねて髻を作れる髮
 容。そらがみ。主に山伏若年の御坊主僧
 師等の結ひしもの。「そらまとう」
 そらばとう「走馬燈」名まはりどうろう。
 そらばな「總花」名妓樓又は茶屋などの一
 同の者に客より贈るはな(纏頭)。
 そらび「崇美」名崇高純美なること。
 そらびつ「走筆」名走書に同じ。
 そらびん「奏稟」名奏聞に同じ。「ざとぎと
 そらびん「聰敏」名才智するどきこと。かしこく
 そらふ「送付」名おくりとどくること。おくりつく
 ること。
 そらふ「走夫」名●つかひなと。●ひき

そらふ「送賻」名死を弔ふための進物。くやみ
 のおくりもの。かうでん。
 そらふうき「送風機」名風を起す機械。其最
 も簡單なるは軸にして長方形の匣の内部に
 密合する啞子を往復せしめ風を押し出す如くし
 かけたもの。主に鍛冶場に用ゐる。通風機。
 そらふうてりやう「送風調量月」
 名坑内の一通風區域に空氣流を通過せし
 め其残りの多部分を他方に轉向せしむる爲
 の風戸。若くはストッピング(杜風壁)に設け
 たる摺動戸。
 ソウへい「僧兵」名昔延曆寺・園城寺・興福
 寺などの大寺に蓄へおきし僧侶の兵士。
 そらへい「送幣」名幣物を送ること。又其幣物。
 そらへい「送兵」名兵士を輸送すること。又
 輸送する兵士。
 そらふん「處分」名●分け與ふること。配分。
 そらべう「宗廟」名●支那にて祖先の靈
 屋の稱。●伊勢神宮・八幡宮の稱。
 そらへき「阪餅」名とほきかたむなひ。
 そらべつ「送別」名人の旅立を送ること。み
 おくり。
 ーくわい「一會」名旅立つ人をはなむけする
 そらべつ「總別」名副すべ。おほよそ。全體
 そらべん「總辨」名其事をすべて處置すること
 又其職。
 そらへんりう「宗偏流」名山田宗偏を祖と

ぞらほ「増補」名増し加へて補ふこと。
 そらほう「崇奉」名あがめ戴くと。たつとび従ふ
 ぞらほう「増俸」名俸給を増すこと。「と。
 そらほんけ「總本家」名多くの別れ出でたる
 分家に對する本家。
 そらみ「總身」名そうしんに同じ。
 そらみやう「總名」名一類の物事をすべ
 て呼ぶ名。總稱。
 そらみやうたい「總名代」名仲間全體
 そらむ「總務」名全體の事務をすべつかさどる
 こと。又其職。「やまと。聰慧。」「叡智」
 そらめい「聰明」名見聞のさとこと。さとりのは
 そらあん「層面」名●かさなりたるものゝ面。●
 (地)成層岩の互に相重れる境の面。
 そらもく「總目」名すべての箇條。全體の目錄
 そらもくろく「總目錄」名全部の目錄。
 ソウもつ「僧物」名佛「ソウのろくもつに同
 そらもん「總門」名外構の正門。「じ。
 そらもん「奏聞」名天子に申し上げると。奏上
 ソウもん「僧門」名僧家に同じ。
 そらもやう「總模樣」名衣服の肩より袖
 裾まで前後左右總體に模様を置きたるもの。
 ぞらやく「増約」名數「一より小なる正の公比
 を有する無限等比級數の總和を求むる方法
 ぞらよ「贈與」名●おくりやること。物をくるゝ
 こと。●法「贈與者が自己の財産權を無償に
 て相手方に與ふる意志を表示し、受贈者が

の先に鉛を装置す。
 そくえん〔族縁〕名親族のゆかり。えんつづ
 そくえん〔俗縁〕名此世のえにし。世の中の
 ゆかり。塵縁。世縁。
 そくえん〔賊焰〕名賊徒のいきほひ。賊の勢力
 そくおこり〔仄起〕名漢詩の律又は絶句の起
 句の第二字目の仄字なること。
 そくか〔ツ〕〔足下〕名●足の下。あしもと。脚
 下。●書翰の脇付に用ゐる語。
 そくか〔ツ〕〔足下〕代や、目下の者に對して用
 ゐる語。さみ。
 そくか〔ツ〕〔俗歌〕名俗謡に同じ。
 そくか〔ツ〕〔俗家〕名俗人の家。僧家の對。
 そくかい〔ツ〕〔俗解〕名俗人にわかるやうに解
 説したるもの。
 そくがい〔賊害〕名そこなふこと。『草稿。』
 そくかう〔ツ〕〔續稿〕名つづきの原。つづきの
 そくかう〔ツ〕〔續行〕名つづきで行ふこと。
 そくかう〔ツ〕〔屬行〕名つづきしたがひてゆくこと
 隨行。
 そくかうかんだんけい〔ツ〕〔測高寒暖計〕名
 水の沸騰點を測りて氣壓を知る寒暖計。
 そくかく〔ツ〕〔俗客〕名風流文雅の道を解せ
 ゐる客。不風流の客。雅客の對。
 そくかうき〔ツ〕〔測高器〕名立木の高さを測
 るに用ゐる器具。
 そくかく〔俗樂〕名俗間に弄ぶ音樂。雅樂の
 對。

そくかくき〔ツ〕〔測角器〕名經緯儀及轉鏡
 儀等の如く角度を測定する爲に用ゐる、
 器械の總稱。
 そくかてん〔ツ〕〔足下點〕名天。地球上鉛直
 の最下點。即ち天頂點の反對の點。
 そくかん〔ツ〕〔測桿〕名測量用目標となり又
 は尺度となるべき木製圓棒。多く測角又は横
 断面測量に用ゐる。
 そくかん〔ツ〕〔俗漢〕名俗人に同じ。
 そくかん〔ツ〕〔俗問〕名よのな。世間。
 そくかん〔ツ〕〔賊姦〕名わるもの。賊奸。
 そくかん〔俗眼〕名通俗人の眼のつけどころ。
 養肥。一不識。神仙。
 そくき〔仄起〕名そくおこりに同じ。
 そくき〔ツ〕〔速記〕名●すみやかにする。●
 速記術にてしるすこと。●速記術の略。
 一しや〔一者〕名速記術にて速記をなす人。
 一じゆつ〔一術〕名一種の簡略なる符號を
 用ゐて演説講義などを其口述のまゝにしるす
 一はふか〔一法〕名前に同じ。『方法。』
 一ろく〔一録〕名速記術によりて速記したる
 ものを文字に書きなほしたる記録。
 そくき〔捉戲〕名めくくし。又おに。こと。
 そくき〔俗氣〕名世俗の氣味。垢ぬけせき
 る氣味。浮世くさきこと。
 そくき〔測器庫〕名各艦船に使用する
 測器の分配及修理を司る所。

そくきん〔ツ〕〔捉擒〕名手づから捕ふること。
 そくきん〔ツ〕〔即金〕名即座に金子を支拂ふと
 そくきん〔即吟〕名即座に詩歌などを作るこ
 と。即座の吟味。
 そくきん〔贖金〕名あがなひの爲に出す金。
 そくきやう〔ツ〕〔俗境〕名●俗人の境涯。●
 不風流なる場所。『れんふこと。』
 そくきよ〔ツ〕〔篋居〕名あつまりすまふこと。む
 そくきよ〔ツ〕〔賊渠〕名わるもの。のしら。
 賊魁。
 そくきよ〔ツ〕〔即興〕名●當面の美觀。●
 そくきよく〔ツ〕〔俗曲〕名俗謡に同じ。
 そくぐ〔屬具〕名附屬する器具。『勢。賊兵。』
 そくぐん〔賊軍〕名朝敵たる軍勢。賊徒の軍
 そくぐわ〔側臥〕名よこにふすこと。
 そくぐわ〔俗化〕名俗になりゆくこと。
 そくぐわい〔ツ〕〔賊魁〕名盜賊の首領。賊軍の
 長。『のおもひ。』
 そくぐわい〔ツ〕〔俗懷〕名世俗のおもひ。名利
 そくぐわう〔ツ〕〔屬綴〕名しにぎは。『同じ。』
 そくぐわさん〔ツ〕〔熄火山〕名地。休火山に
 そくぐわさん〔ツ〕〔側火山〕名地。火山の側部
 に龜裂の生ずるか若くは舊噴火口の壓塞せ
 らるゝによりて山側より噴出せる小火山の稱。
 そくぐわん〔屬官〕名列任の文官。
 そくぐけい〔ツ〕〔賊計〕名賊のはかりこと。
 そくぐけつ〔ツ〕〔即決〕名即座の裁斷。

一さいばん〔一裁判〕名法。違警罪につき警
 察署長などが正式の裁判によらずして直に判
 決する處分。
 そくけつ〔ツ〕〔速決〕名すみやかに決定する。と。
 そくけつ〔ツ〕〔速決〕名すみやかに決定する。と。
 有徳之撰。無其人。一則闕。とあるに出づ
 太政大臣の單稱。
 そくけん〔續絃〕名再び妻をめとること。
 そくけん〔俗言〕名●日常普通に用ゐる語。
 さとびことば。俗語。俗辭。●俗人のとり
 ざた。俗評。
 そくけん〔俗語〕名ことわざ。俚語。
 そくご〔俗語〕名●前の●に同じ。●口にてい
 ふ話しことば。口語。文語の對。
 そくこう〔測候〕名氣象の観測。
 一じよ〔一所〕名全國各地方に設置せられ
 氣象観測をなし天氣豫報及暴風警報を發
 する所。
 そくこう〔側溝〕名道路の兩側又は片側
 そくこう〔即功〕名薬などの即時にきゝめ
 あること。『痛などの時に患部に貼る。』
 一し〔一紙〕名藥をひきたる。一種の紙。頭
 て宗主國の主權の下に立ち幾分自主の權を
 有する國。屬邦。附庸國。
 そくこく〔ツ〕〔即刻〕名即座。即時。
 そくこく〔ツ〕〔俗骨〕名いやしき根性。俗なる

たち。
 そくこん〔ツ〕〔即今〕名即ただいま。いま。如
 そくこん〔屬懇〕名即懇。最も無に。しんじ
 つに。しんそ。こより。あつく。一心やす。
 そくさ〔測鏡〕名距離を測るに用ゐる鏡。
 そくさ〔即座〕名即座。そのさ。そのさ。
 一に。即座。そのさ。そのさ。そのさ。
 そくさい〔息災〕名わさはひをとどむること。
 ●身に異常なきこと。身に恙なきこと。
 一えんめい〔一延命〕名佛。災をとどめ命を
 のぶること。無事にして長壽なること。
 一び〔一日〕名萬事に吉なりといふ日。春は
 巳の日。夏は申の日。秋は辰の日。冬は酉の日。
 そくさい〔束柴〕名樹枝若くは竹を圓柱狀に
 結束したるもの。築城上。積土又は掘開部の
 崩壞を防ぐため被覆に用ゐる。粗朶。『る。才。』
 そくさい〔俗才〕名世才。世俗の事に長じた
 そくさい〔賊塞〕名賊のたてこもれるとりて。
 そくさい〔續載〕名つづけて記載すること。
 そくさい〔贖罪〕名しよくさいに同じ。
 そくさい〔續在〕名其物の存在が或時間の
 間つづくこと。『すみか。』
 そくさう〔ツ〕〔賊巢〕名賊徒の巢窟。そくの
 そくさん〔測算〕名はかりかぞふること。
 そくさん〔粟散〕名佛。小邦國土の散布する
 こと粟の如しとの義。印度の古説にて二百州
 以下の國。即ち小國の稱。『一邊土。』

一ごく〔一國〕名佛。前を見よ。
 一へんど〔一邊土〕名佛。前を見よ。
 一わう〔一王〕名佛。小國の王。『らんと。』
 そくし〔即死〕名ただちに死ぬること。すぐに死ぬ
 そくし〔側耳〕名耳をそばだつること。耳を傾く
 こと。『にいふ。』多く詩の題などに用ゐる語。
 そくじ〔即事〕名その場に見る景色や事柄など
 そくじ〔即時〕名即その時。即刻。
 一じかう〔一〕名時。時。平穩且公然に
 他人の動産の占有を始めた者が善意にし
 て且過失なき時は、即時に其動産の上に行使
 する權利を取得すること。
 一かうこく〔一抗告〕名法。公判後七日
 間に於てなすことを許されたる抗告。
 一はん〔一犯〕名法。犯罪となるべき所爲が
 比較的僅少の時間を要する性質のもの。
 そくじ〔仄字〕名上聲と去聲と入聲とに屬す
 る文字。仄韻の字。
 そくし〔賊子〕名●不孝の子。●反逆の徒。亂
 そくし〔俗士〕名見識のいやしき人士。
 そくじ〔屬耳〕名耳を傾けてきくこと。
 そくじ〔俗字〕名俗間に用ゐる書體の止しから
 ゐる漢字。
 そくじ〔俗事〕名世俗の煩はしき事。世の中の
 そくしう〔束脩〕名脩は脯にしてたばねたるは
 じしをいふ。古昔入門の際師に奉りしもの。論
 無自行。以上。晋末。晉無。誨焉。近世に

そく、れい「屬隸」名他の支配又は使役の下につくこと。又其人。
 そく、れう「速了」名はやがてん。
 そく、れう「屬僚」名屬吏のなかま。
 そく、れう「俗了」名俗物とならばつること。
 そく、れん「測鏈」名測量用の鏈。チェーン。
 そく、わ「蔬菜」名野菜と果實と。
 そく、わ「粗製」名粗製の菓子。菓子を入にすゝむるとき謙稱。
 そく、わ「疎畫」名筆數少く描きたる畫。密畫ぞく、わ「俗話」名俗談に同じ。
 そく、わい「湖廻」名みなもとにさかのぼること。
 そく、わい「素懷」名日頃のながみ。平素のおも。
 そく、わい「疏外」名うとんじて近づけぬと。
 そく、わつ「疏闊」名うとんとしきこと。ちかしからぬこと。疎遠。まはりどほきこと。迂闊。
 そく、わつ「蘇活」名よみがへること。生きかへること。蘇生。
 そく、わん「訴願」名訴へながふこと。法行政廳の不當處分より人權を削損せられたる場合更に上級行政廳に裁判を仰ぐと。
 そく、わん「即位」名天子の位につきたまふこと。古は即位踐祚の別なりしが中世以後先帝崩じ給ひて太子位を継ぎ給ふを踐祚といひ、後更に正式の大禮を行はせらるゝを即位といふに至れり。

そく、しき「一式」名皇位を繼承し給ひしことを臣民に公示し給ふ儀式。「入の三聲」
 そく、あん「仄韻」名漢字の仄の韻、即ち上去のし。「詩」名仄字を韻に押して作れる。
 そく、あん「觸機」名しよくふに同じ。「詩」
 そく、あん「側衛」名行軍の際側方の警戒に任ずる部隊。前衛、後衛若くは本隊より派遣す。
 そく、あん「側圓」名歐和算にて橢圓の稱。
 そく、け「竹木刺」名竹木のそげたる端。とげ。
 そく、けい「露景」名露末なる景物。粗景。
 そく、けい「阻徑」名けはしき、みち。
 そく、けき「狙撃」名ねらひうち。
 そく、けふ「礎業」名いしすゑとなるべきわざ。おほもととなる事業。
 そく、けふ「祖業」名祖先より傳來せるわざ。祖先の勳功によりて成れる事業。
 そく、けん「素絹」名白色の絹布。僧衣の一其製略きうだいに似て丈甚多く裾を引くを本儀とす。
 そく、けん「訴權」名法裁判所へ訴へ出すべき權。
 そく、けん「訴件」名訴訟の事件。
 そく、けん「阻限」名へだて。しきり。
 そく、けん「湖源」名水源にさかのぼること。
 そく、けん「起源」名はたげぬること。
 そく、けん「自動カ下」名そきたるやうになる。
 そく、けん「祖姑」名おほおば。「それる」。

そこ「底」名凹みたる内の下に當る處。「樽」
 「谷」名天に對して地の稱。「津石根」
 至り極まる處。きばみ。「老の」
 かくれたる處。「一意地」
 一を叩く。句中にあるもの、限りを盡したる一を拂ふ。句前に同じ。
 そこ「塞」名要害地の内外のへだて。
 そこ「其處」名そのところ。身より少し離れたる位置。
 そこ「其處」名對稱の代名詞。そのもと。な
 そこ「祖語」名物事のくひちがふこと。事の前後相違すること。抵牾。
 そこ「底意」名したごころ。そこごころ。
 そこ「いちぢ」名底意地。名意地を強めていふ語含み持てる意地。「わるし」
 そこ「租貢」名みつぎ。年貢。
 そこ「租公」名「動」さる。狙候。さるまはし。さるつかひ。
 そこ「粗工」名粗末なる細工。あらづくり
 そこ「魚」名動。水底に接着し或は泥中に體を埋没して棲息する魚類の總稱。
 そこ「かしこ」名其處彼處。代。そこら。そこら。そこ。
 そこ「がは」名「底草」名靴底用に作りたる厚く
 そこ「きみ」名「底氣味」名感する氣味。心地。こころもち。「みわろし。心ゆるされぬさまなり。
 一「わるし」名「惡」形。心持はかられずしてき

そこく「祖國」名自己の生れ出でたるもとの國母國。
 そここ「其處」名此處。代。そのところ。このと
 そこそこ「名副」名落着かずして取急ぐさまにいふ。いそいそ。倉卒。倉皇。「挨拶も」に立出づ。
 そこつ「粗忽」名念の入りぬこと。ゆるかせにする。そこ。そこ。そこ。物事のはずみなること。輕忽。
 一もの「一者」名そ、かしきもの。よくしくじりをなすもの。うっかりもの。
 そこつ「いはね」名「底岩根」名地底にある
 そこつ「み」名「底積」名積み重ねたるもの。下方に
 たりたる荷物。又底にある荷物。「はち」
 そこつ「其處」名接する時に。是れ故に。すな
 そこつ「底取」名燻風爐の灰の中央を直
 し。又は茶會の後、底の火層を取る器具。
 そこなふ「損」名他動。四。きすつく。いた
 む。やぶる。あやまる。あやまつ。しそん
 す。しへたぐ。くるしむ。なやます。残。
 そこに「底荷」名船をして適度の吃水に達せし
 むるため貨物以外に搭載する物。
 そこぬけ「底抜」名底なきこと。又底なき
 もの。しまりなきこと。又其人。おほざけ
 のみ。大酒家。
 一「さわぎ」名「騒」名酒宴などにて騒ひつ踊
 一「じやうご」名「上戸」名大酒家。

一「やたい」名「屋簷」名祭禮の時などに出す
 床なき踊屋簷。框ありて中に踊る者は地上
 に立てり。
 そこねる「損」名他動。下。そこなふに同じ。
 そこはか「と」名「と」も「し」も「こ」も。
 れとも「か」も「い」も「く」も「そ」も。
 一「見えぬ山路に言問へば」
 そこばく「若干」名副數を明示せざる場合に
 いふ語。いくつ。いくらか。
 そこひ「底腎」名病。外見は異常なきも瞳子動
 かすして物の見えざる眼病。黒障眼。
 そこひ「退方」名至り極まる處。きはみ。は
 て。かざり。際涯。「なき父母の恩」
 そこびらき「くるま」名「底開車」名蝶紋などのし
 かけを以て底の開くやうに組立てられたる車
 土砂の運搬等に用ゐらる。「みて痛むと甚し」
 そこまめ「底豆」名足の裏に生ずるまめ。う
 そこめ「がね」名「底眼鏡」名海上に淺く挿入して
 海底の魚介を見る具。底部の開きたる方形の
 函の底にガラスを張りたるもの。「とは」
 そこん「粗言」名あらしきこと。無禮のこ
 そこも「其許」名「そのところ。そこ」。
 そなた。そのしと。
 そこら「其處邊」名其邊。其位。「がよか
 そこら「許多」名多。あまた。たくさん
 に。こら。
 そこり「潮」名潮の全く退きて海底の見はると。

そこる「自動」名潮全くひきて海底見はる。
 そさい「蔬菜」名専ら生食又は煮食に供する
 作物。野菜。あなも。
 一「るゐ」名「類」名種。主として人の食膳に供
 する作物。大根、紫蘇、菜等の總稱。
 そさい「羅細」名あらきとこまきと。疎細
 そさい「礎材」名いしすゑとなる材料。
 そさう「粗相」名そ、つに同じ。
 一「び」名「火」名過ちて出したる火事。
 そさう「粗糲」名質あらくしてざら／＼して
 こと。「土氣」
 そさう「粗糲」名質あらくしてざら／＼して
 あること。
 そさう「粗糲」名粘土にて彫刻の原型を造
 そさう「粗造」名粗末につくること。又粗く
 して雑なる造り方。粗製。
 そさう「粗造」名土にてつくりたる像。土偶
 そさう「粗造」名そまつ。ざつ。
 そさま「其様」名代。あなた。おまへ。
 そさん「素餐」名徒に其祿をうくること。
 そさん「鼠竄」名こそ／＼にけうすること。
 そし「祖師」名佛。一宗旨の開基。日蓮
 宗にて日蓮上人。禪宗にて達磨大師の稱。
 そし「素志」名かねての志。宿志。素懷。
 そし「阻止」名へだてとどむること。さまたげと
 どむること。阻止。兵敵の運動を阻礙して
 抑止すること。

そし

そし(羅紙)名そまつなる紙。粗紙。
 そし(疏食)名そしに同じ。
 そし(訴事)名うったへごと。くじ。
 そし(疏食)名粗末なる食物。粗食。
 そし(楚囚)名(左傳)に出づ他國に捕はれて故國を忘れざるもの。轉じて敵の手にわたりし捕虜。とりこ。とらはれびと。
 そし(素秋)名あきに同じ。
 そし(組織)名くみたつること。くみたつて。つくりかた。各種の物件人員等を集めて一定の秩序を立て一體を構成せる状態。がく(一)學名動物植物の組織及原基成分を顯微鏡を用ひて研究する學問。
 一きせいちゆう(一)寄生蟲(五動)動物の組織内に占居してこれより自己の營養をとりて生活繁殖する寄生蟲。
 一てき(一)的(一)名筒々のものが一定の秩序關係を保つて一體をなすにふ語。
 そし(粗食)名粗末なる食物。そしよく。
 そし(脊肉)名脊筋の肉。物事の實なきを喰へふ語。
 そし(素質)名本來具有する性質。最始源の原理又は元素。未來に發展する基として(而)接さうして。しかして。「本。そしん(素心)名かねてのおもひ。素志。素懷。そしん(灌薪)名たきぎ。
 そし(やう)名(一)訴狀(五法)訴の提起に就き原

そし

告又は其代理人の作製する書面。訴訟の文書。訴牒。
 そし(やう)名(一)疏狀(五法)事情を辯疏する爲の書。訴牒。
 そし(やく)名(一)阻礙(一)名かみこなすと。かみあちはふと。轉じて文意などをよく理解し味ふと。
 そし(やく)名(一)租借(一)名一國が他の一國の領土内の一區域を其承認を得て一定期間自國の統治の下におくこと。
 一ち(一)地(一)名租借してある土地。
 そし(ゆ)名(一)羅酒(一)名味わるき酒。人にすむそし(ゆ)名(一)詛呪(一)名のろひ。呪詛。「酒の謙稱
 そし(ゆ)名(一)組紐(一)名印などを帯ぶるくみひも。
 そし(ゆ)名(一)祖述(一)名遠く其道をもとし、これをうけつぎおしひるめて述ぶること。中世「仲尼」一「堯舜」憲「章文武」一
 そし(ゆ)名(一)阻礙(一)名けはしきこと。險阻。
 そし(よ)名(一)疏書(一)名疏狀に同じ。
 そし(よ)名(一)訴書(一)名訴狀に同じ。
 そし(よう)名(一)訴訟(五法)實體法上の權利保護に關する當事者及裁判官の行爲の總合的觀念にして權利の請求につき裁判所に申し出で其裁判を求むること。うったへ。くじ。
 一かう(一)行(一)行爲(五法)權利義務に對することを裁判所に仰ぐ行爲。
 一こくち(一)告知(五法)民事訴訟にて原告又は被告が敗訴する時第三者に對し擔保又は賠償を請求するか又は第三者より請

そし

求せらるゝかの事情ある場合に、其第三者を訴訟に参加せしめんためこれに告知すること。
 一さんか(一)參加(五法)或訴訟に其當事者外の第三者が參加すること。
 一てつ(一)手(一)手續(五法)訴訟の提起より終局に至るまでの一切の手續。「得る資格」
 一のち(一)力(一)能力(五法)訴訟行爲を爲しはふ(一)法(五法)刑事民事の二法あり。前者は刑罰の訴訟につきての規定、後者は私權の保護を目的としての訴訟を規定せる法なり。
 一ひ(一)費用(五法)訴訟事件の爲直
 一ぶ(一)物(五法)訴訟の目的物。
 一にん(一)委任(五法)當事者に代りて其訴訟行爲をなす委任。
 そし(よく)名(一)粗食(一)名粗末なる食物。素食。
 そし(ら)名(一)か(一)頭(一)名知りて知らぬさまをなすこと。
 そし(り)名(一)謗(一)名わるくいひなすこと。惡口すること。しる(一)謗(一)名悪しくいふ。非難す。あざける。誹謗。詆。誹。毀。毀。毀。毀。
 そし(ろ)名(一)代(一)田(一)名五十歩の田。
 そし(ろ)名(一)粗(一)自動サ變みまかる。死ぬ(貴人に)そし(ろ)名(一)自動サ變いきかへる。よみかへる。
 そし(ら)名(一)素(一)數(五數)其數自身又は「以外の數にては割り切れざる整數。
 そし(る)名(一)疏(一)水(一)名地を切り開きて水を通じやる

そし

そせ

そせい(粗製)名粗末なる作りかた。「一品」
 そせい(徂征)名征伐にゆくこと。「たびだち。たび」
 一せい(組成)名各種の物を用ひて一體を成そせい(蘇生)名いきかへると。よみがへると。回そせい(素性)名本來の性質。「生」
 そせい(詛誓)名神明にちかひを立つること。
 そせい(租稅)名官より民に賦課して徵收する收入。ねんぐ。みつぎもの。
 そせい(阻嚙)名かみくらふこと。
 そせい(礎石)名柱下の石。いしずみ。
 そせい(疎斥)名うとみしりぞくること。したしみ。ちかづけること。
 そせい(鼠竊)名こぬすびと。竊盜。
 そせい(阻絶)名はらみたつこと。中絶。
 そせい(祖先)名先祖に同じ。「する宗教」
 一けう(一)教(一)名祖先の靈を崇拜祭祀そせい(祖餞)名はなむけ。餞別。
 そせい(疎髻)名まばらに生ひたるくちひげ。
 そせい(粗膳)名粗製なる食膳。粗末なる食事。「まにふ。詩經「衣裳」一
 そせい(楚楚)名剛さつぱりとおもむきあるさま
 そせい(祖宗)名君主の御先祖と中興の御祖と。祖先。
 そせい(連)名(一)連(一)形(一)あわただし。そせい(連)名(一)連(一)形(一)自動カ四(一)そそくるに同じ。
 そせい(自動カ下二)いりみだる。けむくだつ。

そせ

「けたる髪」
 そそ(一)注(一)自動カ四(一)まきかく。流しかく。灌漑す。「水を」(一)つぎ入る。注入す。其方へ向く。其方に集中す。「意を」(一)自動カ四流れる。「海に」
 そそ(一)鼠(一)名こぬすびと。「そそ」
 そそ(一)粗(一)名粗末にしてけびたること。
 そそ(一)く(一)自動カ四(一)そがはしくものす。あそそ(一)名みだれたる毛。髻。「わて」なす。
 一だ(一)自動カ四(一)そへ生ず。
 そそ(一)粗(一)名いやしきこと。粗野なること。
 そそ(一)か(一)形(一)そそ。か。し。
 そそ(一)か(一)自動カ四(一)誘ひ動かす。勧め立つ。おだつ。煽動す。慫慂す。教唆す。
 そそ(一)ば(一)連(一)走(一)自動カ四(一)そはしること。
 そそ(一)ば(一)連(一)走(一)自動カ四(一)あわて走る。あわそそ(一)め(一)自動カ四(一)さわかしくす。さわさわす。さざめく。
 そそ(一)り(一)名ゆるがすこと。さわぐこと。女狂ひすること。演)大入なりし時千秋樂の日に其祝として其當り狂言を滑稽まじりに演ずること。俗語又は歌舞伎狂言の言ひ立ての一種。同音の重複して發音し難き文句を口早に淀みなくいふを巧とす。「客一人に柿一つ客二人に柿二つ」を十までいふが如き一あぐ他動カ下二ゆすりて高く上ぐ。「類。

そそ

そそ(一)自動カ四(一)高くすむ。進み昇る。
 そそ(一)自動カ四(一)ぞめく。さわぐ。女狂ひをなす。演)役者がそりをなす。ゆり動かす。
 そそ(一)鵝(一)名其皮毛の丸の如きを吐くもの。そそ(一)鵝(一)名小鳥などを食ひをはりてそそ(一)ある(一)名漫歩(一)名あどなくぶらぶらそそ(一)うた(一)漫歌(一)名わげなき歌。「うた。そそ(一)か(一)自動カ四(一)そそるに同じ。すすろく。「言ひやる方もなくて一き居たり」
 そそ(一)言(一)漫言(一)名すすろくことに同じ。
 そそ(一)さ(一)漫寒(一)形一なにとなく寒し。そそ(一)な(一)漫涙(一)名何故ともなく吾れ知らず出づる涙。
 そそ(一)に(一)漫(一)副すすろくに同じ。
 そそ(一)は(一)漫(一)形二(一)そそるに心すむさまなり。すすろはし。
 そそ(一)粗(一)名木の枝を伐りとれるもの。薪とし又堤を築く料とし若くは海苔をとるひびとす柴。
 そそ(一)大(一)名もと秀才の稱。轉じて書生のそそ(一)大(一)名あらしくして大なること。
 そそ(一)鼠(一)名そそくに同じ。
 そそ(一)道(一)名旅立に道中安全を祈る爲にする門出の祭。
 一(一)えん(一)宴(一)名送別の宴。

そそ

かたむく。①かたはらへよす。そばむ「眼を」
 そばづかへ(1)側仕名 貴人の側近くつかふ
 こと。又其仕ふる人。近侍。
 そはづか(1)自動カ四 そはそはす。
 そはづたひ(1)側傳名 嶮岨なる所をつた
 ひ行くこと。
 そはづとめ(1)側勤名 そはづかへに同じ。
 そはづ系(1)傍杖名 ①評闘の傍に居て其打
 合ふ杖に中ること。②轉じて關係なき身にして
 他人の爲に禍に遭ふこと。
 そばのき(1)名 山に生ずる木、葉は櫻に似、
 花は白くして水仙の如し。
 そばふ(1)戲(1)自動カ四 あまゆ。ふざける。
 そばマンデユウ(1)蕎麥饅頭名 蕎麥粉にて
 上皮をつくりたる饅頭。
 そばむ(1)側(1)自動カ四 ①かたへに居る。かた
 よる。②傍へむきてくねる。③他動カ下二 ④傍
 へ向く。そばましむ。⑤うとみて見向きもせ
 ず。⑥かどたつ。
 そばむぎ(1)蕎麥名 ①そばに同じ。
 そばむく(1)側向自動カ四 かたはらへ向く。
 そはん(1)粗飯名 ①粗末なる飯。②人に勤むる
 飯の謙稱。
 そばめ(1)側目名 傍に居て見やること。かた
 そばめ(1)妾名 側妻の義。てかけ。めかけ。せ
 ぶ。人。
 そばや(1)蕎麥屋名 そばきりをうる家。又其

そばゆ(1)蕎麥湯名 蕎麥粉をときたる湯。
 そばゆ(1)自動カ下二 たはむる。あまゆ。
 そばようにん(1)側用人名 徳川時代將軍に
 近侍し老中等の上申を受けて親しく上聞し
 可否を獻替し台命を傳ふる等の事を掌りし
 役。近習出頭人。
 そはる(1)添(1)自動カ四 多くなる。そふ。ふゆ。
 そひ(1)傍名 ①かたはら。かたわき。ほとり
 そひ(1)祖妣名 死したる祖母。
 そひ(1)粗部名 いやしきこと。げす。野卑。
 そひ(1)陰類名 病陰囊のはれふる。病。
 そひ(1)端(1)自動カ四 ①はせみに同じ。
 そひく(1)傍幸名 他動カ四 ①傍よりひく。②探り
 知らんがために誘ふ。「人の心を」。「ひぶし」。
 そひね(1)添(1)添名 他動カ四 ①添ひて寐ると。そ
 そひば(1)添(1)添名 やへばに同じ。
 そひぶ(1)添(1)添名 そひぶに同じ。「小舟」。
 そひぶね(1)添(1)添名 親船にそなへつけたる
 そひん(1)粗品名 ①粗末なる品物。②他人に
 呈する品の謙稱。麤品。③「立つ。肩を」
 そひやかす(1)傍(1)他動カ四 そひやかにす。高く
 そひやか(1)傍(1)副(1)傍えたるさまにいふ語。
 そひやく(1)傍(1)自動カ四 傍やかにてあり。「いた
 うき給へり」。「そばだつ。山」
 そひゆ(1)傍(1)自動カ下二 高く立つ。高くおこる
 そひら(1)背(1)背平の義。せ。せなか。
 そびれる(1)自動カ下二 機会を逸す。「言ひ」

そふ(1)祖父名 父母の父。おほぢ。ぢぢ。ぢい
 そふ(1)粗布名 おりめのあらき布。粗末なる布
 そふ(1)添(1)自動カ四 量増す。ふゆ。②相
 應す。かなふ。名實相「附き従ふ。つく
 「後に」。「夫婦となる。永くつれ」。「配」つ
 たひ行く。つたふ。川に「ひて歩む。沿」側
 にあり。「母の膝に」。「他動カ下二」多くす。
 ふやす。「敷を」。「従はしむ。副貳とす。ひ
 かへとす。「人を」。「なぞらふ。一歌」
 そふく(1)粗服名 粗末なる衣服。
 そふく(1)楚服名 立派なる衣服。
 そふく(1)素服名 ①白地の衣服。②喪に着る服
 そふつ(1)粗物名 粗末なる品物。「はひ。
 そぶり(1)素振名 顔色又は舉動のやうす。け
 そへ(1)酸名 添の義。酒を造る時、日を決めて
 三度もとに加ふる蒸飯。麴水の稱。そひ。
 そへ(1)添(1)自動カ四 ①そふる。加ふる。②つき
 従はすること。副。そへがみの略。③飯の菜
 そへ助(1)添(1)自動カ四 けふ「やくれらめやはと
 思へども」。「添ふる石」
 そへい(1)添(1)添石名 庭園などの主たる石に
 そへう(1)祖廟名 先祖の靈廟。おたまや
 そへうた(1)調歌名 古今集序に擧げたる
 和歌六義の一。他の物になぞらへて調歌の意
 を詠める和歌。
 そへがき(1)添書名 ①文書に添へて記す文
 ②手紙の本文に追加する文句。

そへがみ(1)添髪名 髪少き人が髪に添へ
 入れて結ぶもの。いれがみ。いれげ。かもじ。
 そへかん(1)添翰名 添状に同じ。
 そへぐるま(1)副車名 従者に乗りしむる車
 ひとだまひ。従乗。
 そへことば(1)添詞名 ①傍より力を添へて
 いふこと。助言。②文法副詞に同じ。
 そへじやう(1)添状名 人を遣し又は物を送
 るとき其旨を記して送る書状。てんしよ。
 そへしよ(1)添書名 名前と同じ。「する。数字」
 そへすう(1)添数名 数字の右下側に附
 そへち(1)添乳名 小兒にそひねしてのます
 そへてがみ(1)添手紙名 そへじやう。乳。
 そへに(1)副(1)心に合點したるさまにいふ語。つら
 さをば戀ひてぞしりぬーとて思ひやむべき心な
 らねは
 そへぼん(1)つめしよ(1)添番詰所名 徳川幕
 府大奥中の居所。廣敷添番衆の詰居る間
 そへふて(1)添筆名 文句をかき加ふること。
 そへふみ(1)添文名 名そへじやうに同じ。
 そへまし(1)添増名 名まし加ふること。
 そへもの(1)添物名 添へたるもの。つけ加
 へたるもの。①けいぶつ。景品。
 そへやく(1)添役名 本役に添へて其勤めを
 助くる役。副官。
 そほ(1)緒名 赤色の土。上古物を塗るに用ひ
 えほ(1)祖母名 父母の母。おほば。おば。ばば

そほう(1)素封名 官位秩祿のなき人の祖先よ
 りの田園に收入ありて其富の王侯にもひとし
 きもの。金持。富豪。史記「今有無秩祿之奉
 爵邑之入、而樂與之比者、命曰「二」
 一か「一家」名前と同じ。
 そぼく(1)素朴名 ①人為を加へず原状のまま
 なること。ありのまま。なること。いつはりかざり
 なきこと。すなほ。②未だ學問的研究を経ざ
 ること。「のそぼふるさま。しよぼく」。
 そぼ(1)そば名 ①みすぼらしさま。②雨など
 そぼ(1)案山子名 ①そぼど。かかし。
 そぼ(1)濡(1)自動カ四 うるほふ。ぬる。
 そぼど(1)案山子名 ①そぼどに同じ。
 そぼぬる(1)自動カ下二 ①そぼちぬる。ぬれと
 ほる。「雨に」
 そぼふる(1)自動カ四 ①そぼとふる。しめやかに
 そぼぶね(1)緒船名 ①そぼにて塗られたる船。
 そぼん(1)粗笨名 ①あらくつたなきこと。精細の對
 そほん(1)素本名 本文のみを記したる書。すほ
 ん。白本。
 そぼる(1)戲(1)自動カ下二 ①たはむる。ざる。
 そぼろ(1)一種の食品。魚を一旦煮し其肉の
 みをとりて粉砕乾燥したるもの。
 そま(1)柚名 ①材木を伐り出す山。柚山。②柚
 山より伐り出したる材木。③柚人。樵夫。
 そまい(1)粗米名 年貢に出す。いんぐまい
 そまいた(1)柚板名 柚山より挽き出したる板。

そまぎ(1)柚木名 ①柚山に生ふる樹木。②柚
 山より伐り出したる木
 そまくだし(1)柚下名 柚山より伐り出したる
 木を川を流して下すこと。
 そまつ(1)粗末名 ①物の精ならざること。あらく
 作れること。ざつ。麤末。②粗略。忽粗。輕忽
 「に取扱ふ」
 ソマトーゼ(Somatose)名 人工營養品の
 一。肉類より製したる黄色の無味無臭の粉
 末。水に溶け易く可溶性肉蛋白質を含有し
 且つ骨質の生成に必要な燐酸鹽を配合
 せり。
 そまど(1)柚取名 柚木を伐り取る人。
 そまびと(1)柚人名 柚木を伐るを業とする人。
 そまん(1)粗慢名 物事のあら／＼しくしてしま
 りなきこと。「を養植したる山」
 そまやま(1)柚山名 柚木を伐り取るべく樹木
 そまり(1)染名 ①そまること。又染まりたる色。合
 そまる(1)染(1)自動カ四 ①其色にしむ。色づく。そ
 む。②他の風になれ移る。其氣風となる。其感
 化をうく。かぶる。「惡風に」
 そみ(1)かくだ(1)染書堂名 ①蘇民書札の約蘇
 民將來の符を書きて人に與ふるよりいふ修
 驗者又山伏の異稱。「密と」
 そみつ(1)粗密名 ①あらきと。まかきと。粗と
 ②「一」波(1)名 媒質の或は粗となり或は
 密となりて進む波。

そむん

そみんしやうらい(シ)蘇民將來名疫を避くる神符に記す語。又蘇民將來子孫門也とも書く。素盞烏尊琉球の蘇民將來の家宿り茅輪を門にかけて疫病を免れしめ給ひしに起るといふ。一種の護符。一年の福德冥利を祈る具。

そむ(染)自動マ四そまるに同じ。他動マ下二其色になす。其色をしみこます。

そむ(初)他動マ下二はじむに同じ。「思ひ」そむく(背)自動カ四後方へ向く。もどる。たがふ。平生の意志に敵對す。君に「叛」反。他動カ下二後方へ向かしむ。

そむける(背)他動カ下二そむくの轉。

そん(損)名不利益。不得弊。損失。

そん(村)名むら。ぬな。さと。市及町と共に最下級の地方自治體。

そん(孫)名まご。うまご。後胤。子孫。

そん(尊)名たふときこと。又たふとき位。樽に通ず。さかだる。

そん(巽)名易の卦の名。八卦を見よ。方角の名。東南の隅。たつみ。

そん(尊)接頭或語に冠して尊敬の意を表する語。「一家」大人。

そん(あう)尊嬭名老母の敬稱。

そん(い)尊意名他人の意向の謙稱。おぼしめし。おんがへ。

ぞん(い)存意名かんがへ。みこみ。意見。

たふときこと。そん(けん)損減名へること。又へらすこと。そん(こう)尊公代人をたふとひ呼ぶ語。尊君そん(さい)存在名そのままにあること。現存すること。あること。

ぞん(さい)名物事を丁寧にせぬこと。粗略。そん(さう)村莊名田舎にある屋敷又は別莊。

そん(さつ)尊札名他人の書狀の敬稱。尊書

そん(し)孫支名子孫に同じ。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん(し)尊師名名師匠の敬稱。

そん

そん(いう)村有者村の所有。むらもち。「友。そん(いう)損友名我に益なき友。不利益のそん(えい)尊影名寫真肖像などの敬稱。

そん(えき)損益名そんとえきと。財産の増減。

かんぢやう勘定帳簿記

入上取扱勘定一種。損失利益を惹起す

べき凡ての取引要素を含むもの。

けいさんしよ計算書名商人が損益の内容を明かにする爲に製する計算書。又損益を計算して記載したる文書。

そん(か)村家名村里にある家。むなや。

そん(か)尊家名他人の家の敬稱。おたく。

そん(か)尊下名書翰の脇付に用ゐる敬語。

そん(がい)損害名いたみそこなふこと。利益をそこなはれ害せらるること。

えうしやう要償名送他より受けたる損害の賠償を要求すること。

はいしやう賠償名他人に損害を及ぼしたるとき。もとの状態に回復すること。

ほけん保險名送保險の一。一方が偶然なる事故より生じたる損害を填補することを約し。相手方がこれに其報酬を與ふることを約する契約。火災海上保險の類。

そん(がい)尊骸名貴人の死骸の敬稱。

そん(がう)尊號名たふとひ呼ぶ名又は號。天子の御名。

そん(し)や(村舎)名むなや。村家。

そん(じ)や(尊者)名徳智徳行完備の人に附する敬語。「迦葉」古大臣大饗の時第一位に坐する人。たふときもの。目上の人

そん(し)や(損傷)名そこなひますつくること。そこなはれたるきす。

そん(じ)や(選讓)名へりくだること。

そん(じ)や(尊讓)名尊王攝夷の略。

そん(じ)や(存生)名いのちをたもつこと。いきながらへてあること。存命。

そん(じ)や(樽酒)名さかだるに入れてある酒。

そん(じ)や(村儒)名むなかの學者。村夫子。

そん(じ)や(尊宿)名佛徒の參學師事すべき學徳ある高僧の稱。尊老。尊宿。

そん(じ)や(尊書)名他人の手紙の敬稱。

そん(じ)や(損所)名損したる箇所。きす。

そん(じ)や(尊稱)名たふとひ呼ぶ稱呼。

そん(じ)や(遜色)名ひけをとるやうす。おとれるさま。尚一あり。

そん(じ)や(存奇)名おもしろ。意見。

そん(じ)や(存)自動サ變現在す。みこみ

そん(じ)や(存)自動サ變保存す。のこす。

そん(じ)や(損)自動サ變やぶれたむ。そ

こなはる。毀傷す。へる。減少す。なく

そん

そん(がく)きう(村學究)名むなかのものしり。轉じて學者を言ひふ語。

そん(かん)尊翰名他人の手紙の敬稱。

そん(がん)尊顔名他人の顔の敬稱。おかほ。「たふとき人」を拜す。

そん(き)尊貴名たふときこと。たかきこと。

そん(きん)損金名損となりし金。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん(き)や(尊敬)名たふとひやうやまふこと。そんけい。

そん

そん

そん

そら

そらへ。①いつはりのことへ。
そらごと「空言」名 ひとつはりごと。うそ。虚言。
そらざや「虚鞘」名 刀身よりも比較的長き
そらじに「虚死」名 死にたるふりをなすこと。
そらす「逸」他動サ四 ①のがす。②ねらひをはずす。③機嫌をそこふ。一人を―④わき道へそ
れさす。「話を―」
そらす「反」他動サ四 てるやうになす。「身を―」
そらだき「空薫」名 何處よりも知れぬやうに
香をくゆらすこと。暗薫。空炷。
―もの「―物」名 空焼の香物。
そらだのめ「空頼」名 空しく頼みに思はするこ
と。頼みと思ひて詮なかりしこと。「定めなく消え
かへりつる露よりも―する我はなになる」
そらぢやう「空錠」名 破損して錠なくとも
あく錠。
「する人。うそつき。
そらつかひ「力」爲虚者」名 知りて知らぬ風を
そらつんぼ「空聲」名 ひとつはりてつんぼのまね
をするこ。
「のやみいたむ病。
そらて「空手」名 五六十歳の頃何となく腕
そらどけ「空解」名 帯紐などの結びめの自然
にとくること。
そらとぼけ「空惚」名 せらとぼけること。
そらとぼける「空惚」自動カ下 ①ひとつはりて
知らぬ風をなす。
そらなき「空泣」名 ひとつはりに泣くこと。

そら

そらなみだ「空涙」名 ひとつはり泣きて落す涙。
「傾城の―」
「どのよく似たること。
そらに「空似」名 血族の關係なきものが容貌な
そらに「心」の内にし量りて。暗に。②お
ちつかず。うかれて。いたづらに。
そらね「空音」名 ①まねたる鳴聲。「鳥の―」
②
ひとつはりこと。うそ。
そらね「空寝」名 ねたるふりをすること。「うそ。
―いり」―入」名 ひとつはりてねりたるふりをす
そらね「空根」名 地上に現れ出でたる根。ねあ
そらねむり「空眠」名 ねられ。
「がり。
そらのみこみ「空呑込」名 物事をよくたしか
めずのみにこむこと。うはのそらにてのみこむ。
そらびきばた「空引機」名 はたの一種。絞織
ばたの最も古くより傳はりたるものにてジャ
カード機渡來以前に専ら用ゐたり。
そらひじり「空聖」名 聖の風をよほふこと。
そらぼけ「空惚」名 せらとぼけに同じ。
そらぼめ「空譽」名 心にはさほど思はずして口
先のみにてはむること。ほむべき價値なきにほめ
そやすこと。
そらまけ「空負」名 ひとつはりてまぐること。
そらまめ「蠶豆」名 豆の一種。莖は中空に
して春花を開き、後さやを結ぶ。實は食用とし
莖葉は肥料又は家畜の飼料とす。「ほふ。
そらみだれ「空亂」名 酒に酔ひたる風をよそ

そら

そらみつ「虚見津」枕やまとに冠する語。
そらみみ「空耳」名 聞き違ふること。②聞き
て聞かぬ風すること。
「覺ゆ。暗記す。
そらんず「暗」他動サ四 ①そらにすの音便暗に
そらめ「空眼」名 ①見違ふこと。ひがめ。
瞳を上へ向くること。そらめづかひ。
そらめく 自動カ四 たしかならざるやうに見ゆ。う
そらしく見ゆ。
「ま。②そらのやうす。
そらもやう「空模倣」名 ①天候のありさ
そらゆく「空行」自動カ四 空中をゆく。「―雁」
そらゆめ「空夢」名 とりとめなきゆめ。全く實
際と關係なきゆめ。
そらよみ「空讀」名 文句を暗に讀むこと。諳誦
そらわらひ「空笑」名 ①そらに笑ふこと。強ひ
て笑ふこと。乾笑。
「すること。
そらあひ「空酔」名 酔はずして酔ひたる風を
そらしみ「空惜」名 をしくもあらぬに惜しき
さまをすること。
そり「反」名 ①ゆがみかへりたること。そりたる形。
「刀の―」②性格又は習慣。「があらぬ」③橋
桁及これに類する構桁の中央に於ける上向
勾曲の稱。上勾率。④相撲四十八手の一。
そり「槓」名 寒國にて積雪の上をゆく用ゐる
特種の運搬具。雪舟。雪車。
そり「疎離」名 まばらなるまがき。
そりかた「反形」名 そりたる形。そりたる所。
そりかへる「反返」自動カ四 甚しく反る。

そり

そりまがる。
そりはし「反橋」名 中央の特に高くそりたる橋
そりはししき「反嘴鳴」名 鴨の一種。嘴少
しく上方に反り、腰及上尾筒灰色にして脚は
黄色なり。多く海濱に棲む。
そりみ「反身」名 身體を少し後へそらすこと
そりん「疎林」名 立木又は枝葉のまばらなる林。
そりや接吻「それはの轉」しかあるは。さあ
るは。そは。「―いけな」
そりや盛「そらに同じ。
「らぬこと。
そりやく「粗略」名 おろそかにすること。丁寧な
そる「反」自動カ四 まがりかへる。張りまがる
そる「剃」他動ラ四 毛髪を根元よりけづる。する
そる「逸」自動ラ四 思はぬ方へとびゆく。それ
る。②自動ラ下二 ③ねらひにはづれてとびゆく。④
程度をはづれて進む。「心―胸に―のがる。
そり「其代」身よりや、離れたる物事、又は人
に用ゐる。⑤其折。「以後」⑥それがし。―
の年」
「―つらく、惟るに」
そり「夫」接文章の冒頭に用ゐる語。其意輕し
それ感「そら」に同じ。「―見ろ」
そり「疎」名 格子のあらきれんじまど。
そりがし「某代」他稱の代名詞。名を知ら
ぬ人又は物事を指すに用ゐる。「―が子」―の
年」①自稱の代名詞。我。「―が思ふ所は」
それさうおう「其相應」名 其物事に相應
したること。「―にある」

それ

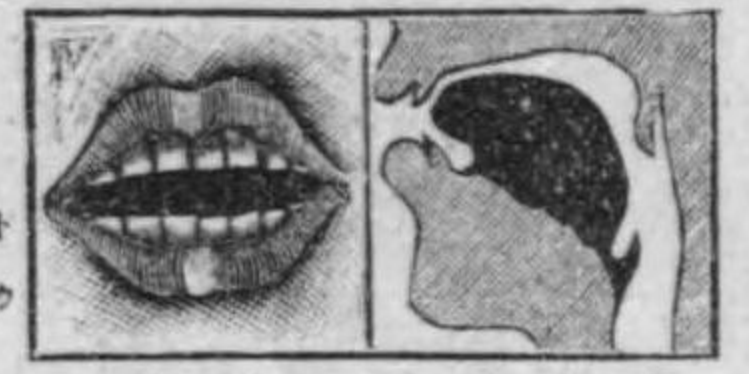
それぞれ「夫夫」名 剛めいめい。おのおの。
それたか「逸鷹」名 されて他へとびゆく鷹。
それだま「逸丸」名 されて他へとびゆく彈丸。な
がれたま。
「て、ひく。
それて「接吻」其故に。其わけにて。②斯くあり
―こそ 剛勝 それであればこそ。
それなり 名詞 そのまま。
それに「剛勝」しがるに。さるに。③その外
それん「疎簾」名 目のあらきすだれ。「―に」
それん「素練」名 白色の練絹。「流矢。
それや「逸矢」名 されて他へ飛ぶ矢。ながれや
そり「候」さふらふの略轉。
ゾロアスター「けろ」(Zoroaster) 教 No. Christians
③一名ゼンドアヘスタ 經中に説かれたるゾ
ロアスターの宗教。善惡の二神を立て、火を
善神の標象として之を拜す。
そろう「粗漏」名 ぬかり。ておち。
そろう「粗陋」名 みみやかならぬこと。いやしく
ぶざまなること。
そろそろ「徐徐」名 副詞 ①おもむろに。しづ
しづ。②次第次第。おひおひ。
ぞろぞろ 名詞 ①多くの物の續きゆくさま。
②ざらざら音のするさま。③地をひきすりゆくさま。
そらばん「算盤」名 さんばんの轉音。我
國在來の計算器。底淺く横長き匣の中に横
にしきりあり、けた、脊梁といふ。これに豎の竹
串ありて數箇のたま珠を貫く。けたより上

そら

なる玉を五の値とし、下なるを一の値として計
算す。十露盤。算類盤。珠盤。②勘定。計算。
「―があらぬ」③勘定。計算。「―をあはす」
―だま―球」名 算盤の串に貫きたる珠。
―いし―石」名 算盤の如き一種の
珪質の石。火山岩の空孔内に生じたる特別
なる沈澱礦物。
そろひ「揃」名 ①そろふこと。そろひたるもの。
②二着若くは二人以上の衣服が染め揃へ、
及地合等の同一なること。「―の着物」
そろふ「揃」自動カ四 ①同一なり。ひとしくあ
り。②具備す。そなはる。③他動カ下二 齊
一にす。同じくす。④調へ備ふ。
そろりと「徐」副詞 そろそらに同じ。
そろりと「揃」名 ①揃に同じ。
そろる「揃」名 王(位なき王の義)身に王者
の徳をそなへて其位なきもの。
そわろ「楚割」名 ①すはりの約。
そわろ「楚割」名 ①すはりの約。
そわ「初位」名 昔の位階にて最も低きもの。
大少あり。
そわ「所爲」名 ①しわざ。しよぬ。
そわ「疎」名 ①まばらなる竝木のかけ。
そわ「疎」名 ①まばらなる竝木のかけ。
久
開。疎音。契闊。
そわん「訴冤」名 無實の罪をうけたるを訴へ出
「づること。

そわ

た



た 上圖の如く舌端を硬口蓋の前面即ち上門齒の齒槽突起に接する爲に起る氣息の閉鎖を急に破裂せしむるによりて生ずる破裂音と母韻「あ」との緩音を五十音圖中「た」の第一に位す。下にウ或はフを受くる時はトの如く轉呼することあり、たうき

た(田)名耕作灌溉して稻を植ふる土地。一のくさ(一草)名田中の稻の間に生づる。一とり(一取)名田草を取り除くこと。「草」の一のへり(一縁)名畔。あぜ。田の境。一のみ(一實)名田にて實りたる物。稻の實。一のせつ(一節)名はつき(八朔)に同じ。一のも(一面)名田のつら。田のおもて。一アンドン(一)行燈)名江戸吉原の廓外の土堤に用心のため點せる行燈。一のもの(一物)名鷹狩に雁鴨鶴などの水禽を云ふ語。一(把)名あたりの略。「や」のかみ(八咫鏡)「た」(爲)名法のために同じ。佛足跡。一人の身は得難くあれは法の「よすがとなれり」。「繰る」た(手)名ての轉。熟語にのみ用ゐる。「綱」

た

た(他)一名ほか。べつ。よ。「一の事」に無し。①自分以外の人。別人。「一に對して」ふたごころ。②「死矢靡レ」③よそごと。別事。季子「顧三左右而言レ」④よそ。異所。左傳「光遠而自レ有權者也」⑤よこしま。邪。⑥君子正而不レ。た(多)一名おほきこと。①稱美すること。優れりとする。漢書「諸公聞レ之皆レ益」②いさを。戰場の功。た(誰)代(た)れに同じ。「一が袖」た(助動)決定の意又は過去を表すに用ゐる語。「定まつ」。「昨日歸つ」た(接頭)動詞。形容詞に冠して多少其語意を強むる語。「一易し」。「一走る」だ(た)の濁音。「た」音を發せんとするとき聲帯を振動せしむるによりて生ず。下にウ或はフを受くる時はトの如く轉呼することあり、たうき(漢)もんだふ(商)の如し。だ(攤)名(名)錢にて行ふ賭事。ぜにうち。あな(漢)もんだふ(商)の如し。いち。雙六をいふこともあり。攤錢。だ(靴)名かぢ。靴。①操(靴)正(靴)一だ(駄)名一馬に荷物を載せて送ること。「一貨」一匹の馬に負はしむる荷物の重量。普通三十六貫目を一駄とす。又其荷物を數ふるに用ゐる語。「薪三」だ(兌)名八卦の一。八卦を見よ。「一」だ(助動)指定の意を表す語。なり。たり。「鳥

た(台)接頭尊貴なる御方の物事に冠する語。「一駕」。「一覽」だ(題)名一見出しとしてかかぐる文詞。標題。①しるし。表標。②書籍の名號。③しなから。品藻。④しなだめ。品評。⑤述作だ(大)名一おほいなること。ひろきこと。さかんなること。ふとこと。①密ならざること。又其物。②年長じたること。又其もの。③おこれること。たかふること。仰山なること。「一言」層にて三十一日ある月の稱。④佩刀の長きもの。「一」小をさす。⑤鷹の雌の稱。だ(臺)名一すべて物を載するもの。總稱。案①うてな。ものみ。②山岡の平かにしてうてなの如き地の稱。駿河。③中央官廳。④もと。したぢ。⑤鳥銃の臺尻の略。⑥接木の臺木の略。⑦角錐或は圓錐を其底面に平行なる平面にて截りたる時生ずる立體。角錐「一圓錐」⑧平坦なる層状をなせる鐵床に於ける下部に位する岩石。だ(代)名一父子相代りて其家又は位をつぎて主たる年月の間。世。「親の」①他にかはりて用を辨する人。代理。名代。②あたひ。しる。代金。價金。だ(第)名一ついて。次第。順序。①物の次第を定むること。②いへ。やしき。前漢書「爲二列侯二賜二大」だ(采)名周易頤卦の語。頤は嚙。采は無

た

だ(駄)接頭或語に冠して劣れる拙なき等の意を表す語。「一洒落」。「一法螺」だ(打)名(英語)Dodgeの訛。物十二箇のタータン(Tartan)名縦横の縞ある織物。多くスコットランドより製織せらるるを以て又スコッチタータンともいふ。タービン(Turbine)名水若くは蒸氣の壓力を衝擊或は此兩作用によりて動作する回轉式原動機。「一汽船」タール(多兒)名一有機物の乾溜によりて生ずる黒色粘稠の油狀質。木材より得るをウッドタールといふ。②コールドタールに同じ。ターレル名(獨語)Taler)獨乙の銀貨を數ふるに用ゐる語。一ターレルは我壹圓四拾參錢四厘に當る。た(他)受(名)他人に對して自己と同様に若くはより多く利益幸福の爲に盡す。愛他「一しゆぎ」。「一主義」名愛他主義に同じ。だ(安)名(安)名牛馬の背に置くにぐら。だ(安)名(安)名やすらかなる。①「一關中」たい(體)名一四肢と首と身幹との總稱。からだ。み。②かたち。なり。さま。形状。③やうす。すがた。容姿。④かた。裁制。⑤うら。た。兆象。⑥根。莖。幹。⑦もと。もちまへ。本性。⑧作用の本源。行動の主本。一をかはす。句體を轉じて避くるをいふ。

にて、食禁にして食を求むる義。即ちほしがること。食はんと欲する貌。又物をかむにもいふ。鳥類「我觀」だ(大)接頭或語に冠して歎美或は尊敬の意を表す語。「一日本」或語に冠して概略の意を表す語。「一意」或語に冠して甚しき意を表す語。「一好き」。「一級」。「一科」だ(第)接頭物事の次第を示す語。しな。科だ(臺)接頭一ものをのする物を數ふるに用ゐる語。①車又は機械の數を數ふるに用ゐる語。車「一」②相場場の價額又は物價の下に添へて其範圍を示す語。「三圓」。「事」。「無道」だ(大)名極めてあしきこと。甚しき惡たいあたり「體當」名擊劍にて、機に乗じて己れの體を以て敵の體につきあたること。たいあん(泰安)名やすきこと。やすらかなる。たいあん(大安)名たいあんにちの略。「一」にち「一日」名陰陽家にて旅立移轉其他萬事に吉なりといふ日。大安吉日。たい(胎)名一胎衣。名えなに同じ。「け」。たい(大)意名あましの意味。大略のたい(體)意名意味をよくのこむこと。たい(大)醫一名學問技術共にすぐれたる醫師。名醫。たい(大)權一名テールとイスと。たい(大)意一名題の意義。「と。大度。だ(大)優一名心のひろくして迫らざるこ

一をひく。句あとへさがるにいふ。たい(隊)名一支部唐初の兵制にて五十人より成る一組。唐書「五人爲伍十伍爲一」②數多の者の整列。陣列の部分の稱。くみ。わかち。③軍隊。兵隊。たい(對)名一こたへ。いらへ。むくい。①つれあひ。配偶。②あひて。抗敵。③ふたつ。そろひ。つる。④たいのやの略。北の「一」のや「一屋」名中古の家造りにて禁中・貴人等の邸に寢殿と相對して兩側又は後方に別に造りたる離座敷。たい(帶)名一地球上に二つの緯圈にて界限せられたる部分。熱温寒の三帶の別あり。②(廣)一つの稜に平行せる結晶面の集合。たい(黛)名一まゆすみ。③まゆすみにてかきたる眉。④青黒色。たい(態)名すがた。かたち。ありさま。やうたい(諦)名佛。眞理に同じ。「四」たい(胎)名一はらごもり。②はらめるおや。又はちめる生兒。③生兒のこまれる機器。こぶくろ。④はじめ。もと。きざし。⑤體氣の根原。たい(苔)名腸胃等に熱あるとき舌の面に生ずる。たい(他)意一名ほかのかんがへ。②あだしごころ。ふたごころ。たい(高)名二つの高さを同じうせる音符の上

に附したる弧線。たい(台)接頭尊貴なる御方の物事に冠する語。「一駕」。「一覽」だ(題)名一見出しとしてかかぐる文詞。標題。①しるし。表標。②書籍の名號。③しなから。品藻。④しなだめ。品評。⑤述作だ(大)名一おほいなること。ひろきこと。さかんなること。ふとこと。①密ならざること。又其物。②年長じたること。又其もの。③おこれること。たかふること。仰山なること。「一言」層にて三十一日ある月の稱。④佩刀の長きもの。「一」小をさす。⑤鷹の雌の稱。だ(臺)名一すべて物を載するもの。總稱。案①うてな。ものみ。②山岡の平かにしてうてなの如き地の稱。駿河。③中央官廳。④もと。したぢ。⑤鳥銃の臺尻の略。⑥接木の臺木の略。⑦角錐或は圓錐を其底面に平行なる平面にて截りたる時生ずる立體。角錐「一圓錐」⑧平坦なる層状をなせる鐵床に於ける下部に位する岩石。だ(代)名一父子相代りて其家又は位をつぎて主たる年月の間。世。「親の」①他にかはりて用を辨する人。代理。名代。②あたひ。しる。代金。價金。だ(第)名一ついて。次第。順序。①物の次第を定むること。②いへ。やしき。前漢書「爲二列侯二賜二大」だ(采)名周易頤卦の語。頤は嚙。采は無

だ(駄)接頭或語に冠して劣れる拙なき等の意を表す語。「一洒落」。「一法螺」だ(打)名(英語)Dodgeの訛。物十二箇のタータン(Tartan)名縦横の縞ある織物。多くスコットランドより製織せらるるを以て又スコッチタータンともいふ。タービン(Turbine)名水若くは蒸氣の壓力を衝擊或は此兩作用によりて動作する回轉式原動機。「一汽船」タール(多兒)名一有機物の乾溜によりて生ずる黒色粘稠の油狀質。木材より得るをウッドタールといふ。②コールドタールに同じ。ターレル名(獨語)Taler)獨乙の銀貨を數ふるに用ゐる語。一ターレルは我壹圓四拾參錢四厘に當る。た(他)受(名)他人に對して自己と同様に若くはより多く利益幸福の爲に盡す。愛他「一しゆぎ」。「一主義」名愛他主義に同じ。だ(安)名(安)名牛馬の背に置くにぐら。だ(安)名(安)名やすらかなる。①「一關中」たい(體)名一四肢と首と身幹との總稱。からだ。み。②かたち。なり。さま。形状。③やうす。すがた。容姿。④かた。裁制。⑤うら。た。兆象。⑥根。莖。幹。⑦もと。もちまへ。本性。⑧作用の本源。行動の主本。一をかはす。句體を轉じて避くるをいふ。

だいとうせい「大遊星」名天 水・金・地・火・木
土天王海王の遊星の稱。小遊星の對。
だいとうせい「大熊星」名天 北斗星に同じ
たいいく「體育」名 身體の成長發達をたすけ
強壯優美ならしむることを目的とする教育。
衛生運動其他身體の保護鍛練によりて行
はる。
—くわい「會」名 體育の盛大をはかるため
に催さるる會合。
だいいち「第一」名 最もすぐれたること。①
最もはじめなること。② 一番目。一回目。
—ぎ「義」名 佛 聖者が自覺し得たる
所の境界にして説明と思想との相を離れたる
絶對境をいふ。③ 根本の意義。
—てん「天」名 佛 悟境の言説を離れ超
然自覺せる妙處の畢竟空寂なるより天に
譬へいふ。第一義空。
—きむ「義務」名 法律の直接に設定し
たる義務にして他人の請求を待たずして存在
するもの。
—けんり「權利」名 法律の直接に設
けたる權利にして他人の犯行によらずして存
するもの。
—コイル「Primary coil」名 感應コイ
—せいしつ「性質」名 物體の性質に兩
種の別を立て物體其物に屬する性質、即ち本
來の性質をいふ。
—どくくわい「讀會」名 議會などにて、法

律案などに対する第一回の討議。
—にんしよう「人稱」名 文法 自己の名に
代へて用ゐる代名詞。われ、おのれ、自稱。
—ほじゆう「補充」名 補充兵及補充兵
役の條を見よ。
—よびきん「豫備金」名 會計法にて
避くべからざる豫算の不足を補ふための豫備
費の稱。いはゆる豫算超過の支出に充つるも
—りう「一流」名 第一等に同じ。「の」
だいいち「第一」名 最もすぐれたること。①
—たいいつ「太一」名 支那の星學にて北極に
位せる星の稱。太乙。萬有の唯一絶對の根
源。又天地の元氣。泰一。
だいいしん「第一審」名 或事件が二回
若くは二回以上の審判を経たるとき其第一
回の審判の稱。
だいいしつ「ゆうびんぶつ」名 第一種郵便物
名 郵便法にて普通の書狀の稱。
だいいつ「第一等」名 すべて物事について
此上なきこと。第一流。
たいいつ「よりやう」名 太一餘糧 名 いは
つばに同じ。
たいいん「太陰」名 月の異名。
—きより「距離」名 恆星又は惑星の
月よりの角距離。
—げつ「月」名 天 太陰の太陽に對してが
ふ(合)より合に至るまでの時間。

—にち「一日」名 天 太陰が南中してより再
び南中するまでの時間。
—ねんさ「年差」名 天 地球、太陽間の距
離の變化するがため太陰の運行に變化を及
ぼすこと。
—へう「表」名 任意の時に於ける月の
黄經黄緯及視差等を計算するに必要な諸
表を列擧したるもの。
—れき「曆」名 月の盈虧によりて標準とな
し一箇月を二十九日或は三十日とし其十
二箇月即約三百六十日を一年とする曆。我
國も明治五年まで之を用ゐたり。陰曆。舊曆。
たいいん「大隱」名 世俗を脱離し俗事に關し
て少しも心を亂さざる隱者。
たいいん「退引」名 うしろへひくこと。ひくこと。
たいいん「退隱」名 官を退きて隱居すること。
年老いてつとめをひき閑散の身となること。
—れう「料」名 退隱したる人に給與せ
らるゝ年金などの稱。
だいいん「代印」名 一つの印の代りに他の印
たいう「大雨」名 おほあめ。豪雨。暴雨。
だいうちう「大宇宙」名 人類を小宇宙と稱
するに對して宇宙の稱。
たいうん「頑運」名 氣運の衰ふること。
たいうん「泰運」名 泰平の時運。
だいうきやう「大茴香」名 葉は披
針狀にして互生し花は白色にして紅色を帯

ぶ。果實は堅くして薬用とし又酒類及其他の
物に香氣を附するに用ゐる。八角茴香。
だいえい「大い」名 佛 僧の三衣中王宮に入る
とき又は聚落に入る時に着る衣。
たいえい「退嬰」名 あとへしがること。しりこみ
すること。進取の對。
だいえい「題詠」名 題を設けて詩歌を作るこ
と。題詠。
たいえう「大要」名 大凡、なめとする所
おほかつた。大概。大凡。大約。
たいえき「退役」名 陸海軍の高等武官が後
備満期に至りたる時又は傷病のため永久服
役に堪へずして現役豫備役又は後備役を退
きたる等の場合をいふ。
たいえつ「大悦」名 おほよろこび。「演習」
だいえんしふ「大演習」名 規模の大なる
たいおう「對應」名 向ひあふこと。③ 相手の
なす所に應じてなすこと。④ 相ひとしきこと。⑤
⑥ 等角直線形の相等しき角又相等しき角
に對する各邊の稱。「き角に對する邊」
—へん「一邊」名 等角直線形の相等し
たいおとし「體落」名 足技の一種。互に左自
然體に組合ひ居ると假定すれば我は彼の體
を左前隅に崩し彼の左足を前に進み出でさ
るうち彼の體を直下に引落し左前隅に倒す
技。
たいおん「大恩」名 大なる恩惠。厚く深きめ
—けうしゆ「教主」名 佛 釋迦の尊

稱。
だいいん「大音」名 おほごゑ。大聲。
—じやう「聲」名 前に同じ。
だいいん「大陰」名 陰陽家にて祭る方位八
將神の一。大歳神の后といふ。此方に向ひて
臨産・嫁娶及産屋の口を開くことをせず。
たいか「大家」名 富み榮えたる家。謂「不
願三子」② 學藝等にて名を得たる人。
たいか「大廈」名 大なる建物。大なる家。高き
樓。莊大なる建築物の稱。「高樓」
たいか「對價」名 法律行為の一方の當事
者が或給付をなしたるに對し其報酬として受
くる給付。
—くわんけい「關係」名 手形行為の
原因に關する法律關係。原因關係。
たいが「台駕」名 貴人ののりものの敬稱。
たいが「餓餓」名 うゑること。飢餓。
たいが「大牙」名 大將の側につる旗。
たいが「大我」名 宇宙の唯一絶對なる實
體の稱。小我の對。「てたしきこと」
たいが「大雅」名 すぐれて風雅なること。すぐれ
たいが「大河」名 大なる河。おほかは。
たいが「代價」名 あたひ。しろ。代金。
たいが「大概」名 おほむね。おほよそ。
おほかつた。ほぼ。
だいかい「大海」名 大らみ。うなばら。「
を渡る」① 口の大きな抹茶の茶入。② 食籠の

大なるもの。
だいがい「大害」名 大なる損害。又は患害。
たいかいじやう「大開靜」名 禪宗にて
庫前の雲版を長打三會すること。開大靜。大
靜。
たいかう「大行」名 大なるしごと。なみく
—てんわう「天皇」名 天皇の崩御ま
しくして未だ諡號を奉らぬ間の尊稱。
たいかう「大綱」名 おほづな。おほやく
り。大要。
たいかう「退校」名 學校を退くこと。學校
たいかう「退耕」名 官職よりしりぞきて耕
作に従事すること。退隱。
たいかう「對抗」名 相對してはりあふこと。
—うんどう「運動」名 次に同じ。
—えんしふ「演習」名 兩軍に分れ其
の一方を賊軍と假にさだめて行ふ實地演習。
たいかう「體腔」名 動物體の體內の空所
たいかう「退行」名 ① あとへひくこと。② 逆
行に同じ。「城塞にせまるための築造物」
たいかう「對壕」名 敵の射撃を避けて其
たいかう「代香」名 他人に代りて焼香す
ること。又其人。
だいがう「題號」名 書物などの外題。
だいかうり「大行李」名 兵 軍隊の宿營
間に要する物品を積載する行李の一團。
たいかうろ「對抗路」名 兵 要塞戰に於

て攻者の坑道作業に對し守者これに對抗す
べきため堡壘前の地下に設くる坑路。
たいかく「體格」名からだ。すがた。かつぶ
たいかく「對角」名向ひ合ひの角。「く。
―せん「線」名數二の對頂角を結び付く
る線。「諸部より來る感覺の總稱。
たいかく「體覺」名心内臟及筋肉等身體の
たいかく「退學」名學校を退くこと。退校。
たいかく「大覺」名佛の敬稱。「一世尊」
たいかく「臺閣」名たかどの。高殿。天
下の政治をとり行ふ府。
たいかく「大學」名●最高の學府。●帝國大
學の略稱。分ちて大學院。分科大學とす。
●古制の大學寮の稱。式部省に屬す。初め經業
音書算の數科に分れしが後、紀傳明經明
法算道の四科を教授し又釋典の事を掌れ
り。書名。四書の一。
―かう「校」名●帝國大學の俗稱。●
陸海軍の最も高等なる學校。
―せい「生」名●大學の學生。●帝國大
學の學生の特稱。
―そ「長」名●總長。●帝國大學總
―のかみ「頭」名古、大學寮の長官。
―のん「院」名帝國大學の一部。分科大
學卒業生及これと同等以上の學力あるもの
の入りて學藝の蘊奥を究むる所。定期の試験
を経たる者は學位を授與せらる。

―れう「寮」名古、學生を簡試し釋奠
の事を掌りたる官司。「たる額」
たいかく「題額」名門口又は戸口などに掲げ
たいかく「大學士」名支那舊制の内閣の
長官。「學者」
たいかく「大學者」名最もすぐれ秀でたる
たいかく「太神樂」名獅子舞品玉などの
曲を演ずる技。
たいかく「臺傘」名たてがきを見よ。「一聲」
たいかく「大喝」名大聲に叱りつくること。「一
たいかく「太閤」名●其子に關白の職を
讓れる時、其父を指していふ稱。●豊臣秀
吉の特稱。「甲士」
たいかく「帶甲」名よろひをおひたるもの。
たいかん「大旱」名甚しき旱魃。おほひでり
―のうんげい「雲霓」名物事の到來を
切望するにたとへいふ。
たいかん「耐寒」名さむさにたふること。
たいかん「大賊」名大なるさげび。又多くの
とき、の。●し。
たいかん「對岸」名むかうぎし。むかうが
―のくわさい「火災」名●對岸にある火
事。●轉じて自家に少しも痛痒を感ぜざる物
事にいふ語。
たいかん「對顔」名對面に同じ。
たいかん「台顔」名尊顔に同じ。
たいかん「大寒」名●甚しきさむさ。●二十

四氣の一。陽曆一月二十日頃に當る。
たいかんてう「大潮」名一日二回の干
潮中低き方。
―へいきんめん「平均面」名新月及満
月の前後一週間に於ける毎日の最低潮位
の平均を取りたるもの。
たいき「大氣」名●地球を包む氣體の總稱。
空氣。「一の波浪」●心のひろきこと。大度量。
たいき「大器」名●大なるうづは。●勝れた
る器量。又其器量ある人。
―せうよう「小用」名大なる才器あ
る人を小役人に用ゐるに喩ふ。
―ばんせい「晩成」名大なる人才は早熟
せず年長じて後始めて其眞價を顯はすとの意
たいき「體氣」名身體の精氣。からだのちか
たいき「隊旗」名其隊のしるしの旗。「ら。
たいき「對機」名佛説法する人の對手となり
て教化を受くる機類。
たいき「大義」名義の最も重きもの。君主又は
國家に對する臣民の義理。
―めいぶん「名分」名人の行ふべき大な
る義理および分限をいふ。
たいき「大儀」名●臣下などに對して其骨折
を慰勞するにいふ語。御苦勞といふ程の意。
つかること。おつクフ。●大なる儀式。
たいき「臺木」名●接木の臺にする木。砧木。
●すべて物の臺とする木。

たいきう「耐久」名久しきにたふること。久しく
もつこと。
たいきえん「大氣焰」名意氣のさかんなること
談論のさかんなること。
たいきけふ「大企業」名●企業家が多
數の雇人を使役して己れはたゞ其全般の指
揮監督のみをつかさどること。
たいきさ「大氣差」名天、光線の大氣中に於
ける屈折によりて起る天體の視ゆる方面と其
眞の位置との差。蒙氣差。
たいぎ「し」代議士。●公選議會の議員。全國
の衆民を代表して立法に參預し政事を論議
する人。但し重に衆議院議員の別名として用
ゐらる。
たいぎせいたい「代議政體」名代議士をして
國家の政務に與からしむる政體。
たいぎせいち「代議政治」名代議制度によ
りて行はるる政治。
たいぎせいど「代議制度」名議會を設け代
議士をして政事にあづからしむる制度。
たいきち「大吉」名非常に吉なること。無上の
たいきふふ「逮及」名おひつくこと。「吉」
たいきふふ「大急」名おほいそぎ。大至急
たいきぼたん「臺木牡丹」名種いろはぼた
んの一名。
たいきん「大禁」名重き禁制。禁令。「一を犯
たいきん「大金」名多くの金錢。多額の金錢。

たいきん「代金」名あたひのかわれ。しる。價
―ひきかへ「引換」名代金を受取る
と同時に其の品物を渡すこと。
―いゆうびん「郵便」名郵便局が差出
人の委託により其郵便物を到着郵便局に
て代金引換に受取人に交付し其代金を
差出人に交付する手續のもの。
たいきやう「大饗」名●大なる饗宴の義
二宮の大饗。大臣の大饗あり。二宮の大饗と
は東宮。中宮二宮の饗宴にて正月二日に行
はる。大臣の大饗とは大臣に任せられたる人、
其翌年正月に官人を招きて饗應するをいふ。
たいきやう「滯郷」名故郷に滞在すること。
たいきやうじ「大經師」名●禁裏御
用の經師の稱。今は一般に經師屋の稱。「と。
たいきやく「退却」名うしろへひくと。しりぞく
―ざっしゆ「雜種」名一回雜種の牝に在
來種の牡を配する如く牝より劣れる牡を用ゐ
て得たる雜種。
―せん「戰」名●守勢を取り退却しつゝ、
戰ふものをいふ。「こと」
たいきやく「對客」名客に出會ひてあへしらふ
こと。
たいぎやく「大逆」名古の律に定めたる罪名。
謀大逆として八虐罪中謀反に亞げる重罪。
君父を弑する類。「無道」。「通の弓をいふ。
たいきゆう「大弓」名中弓。楊弓に對して普
たいきよ「退去」名しりぞくこと。たちのこと。

たいきよ「大舉」名●大におこすこと。おほし
ごと。●多人數こそり向ふこと。總掛り。「一
して敵を伐つ」
―てんだう「傳道」名一團の宣教師
が此處彼處の教會などに順次に傳道しま
はること。
たいきよ「大虚」名●そら。おほざら。虚空。
●支那宋の張橫渠の哲説學に於ける宇宙の
本體。●大鹽中齋の哲學説に於ける宇宙
こと。隱居。「上の凶」●大なる罪惡。
たいきよう「大凶」名●非常に凶なること。無
たいきよく「對局」名●碁盤に向ふこと。●
當面の事局。
たいきよく「太極」名天地未だ開けず混沌と
して分れざる前、萬物の根元たるもの。無極。
易學の宇宙根本原理。「互に相接すること。
たいきよく「對曲」名地、方向の異なる山脈が
たいきよく「大局」名全體の事局。
たいきよく「大極」名天子の御位。天位。
―てん「殿」名だいでんに同じ。
たいきり「大切」名●齒のあらき齧。おほが。
●動いたうまるチヤホの一種。とさかの形
大切に似たり。「せらるる議院衆議院。
たいきみん「代議院」名代議士を以て組織
たいく「體軀」名からだ。身體。
たいく「胎宮」名佛眞宗にて立つる彌陀の化

だいげんする(大元帥)名軍事上の最高統帥者。現時我國にては天皇陛下躬親ら當らせらる。●(佛)大元帥明王の略。
 ーみやうわう(明王)名佛密教の外金剛部に屬する曠野鬼神の一種にして大日如来が降伏の三昧に入れるもの。其像四面八臂にして黒青色なり。
 だいげんほふ(大元法)名佛國家鎮護の神なる大元帥明王を本尊として修する法。
 たいこ(太古)名おほむかし。
 たいこ(太鼓)名●桴にて撃ちてならす樂器の總稱。多く中空の木を造り兩面を革にて張る。●●たいこむすびの略。●●たいこむすびの略。
 ーいしや(一醫者)名●術は拙くして只患者の機嫌のみを醫者。●●問醫者。
 ーうち(一打)名●太鼓をうつ人。●●鼓手。●(勳)永田に棲む褐色扁平の昆蟲。紅娘華。
 ーおとし(一落)名●丸太の兩側をけり落したる断面の稱。
 ーたき(一叩)名●太鼓を打つ鳴らす人。●●轉じて甘言を以て人にこひつらふ人。
 ーだる(一樽)名●形太鼓に似て脚の添はれる一種の酒樽。●●婚禮に用ゐる一種の樽。
 ーぢよらう(一女郎)名●遊里にて歌舞を以て遊興を助けたる女郎。二枚鑑札。
 ーばし(一橋)名●殆ど中圓形をなせるそりたる橋の稱。

けし。●「でたる腹。」
 ーばら(一腹)名●太鼓の胴の如く張り出たり張りになると太鼓の如く中を空にして張り上げたもの。
 ーびやう(一餅)名●足細く頭笠の如き形したる餅。主にさざりに用ゐる。
 ーむし(一蟲)名●幼蟲やんまの幼蟲。水中に棲み蚊の幼蟲を食ふ。頭は三角にして三對の脚あり。みづむし。えびむし。
 ーむすび(一結)名●おほむかしむすびに同し。●●男にて宴席に侍し客の機嫌を取る人。おほむかし。●●轉じて人にへつらひて機嫌をとるもの。
 たいこ(大月)名●中古入戸を分ちて四等とせしが其内の第一等の家。●●金持の家。●●家。
 たいこ(大呼)名●大聲にてよびかけよ。●●「家。」
 たいこ(隊伍)名●隊列の組。●●「るこ。」
 たいこ(大悟)名●迷妄を破りて真理を洞見する。●●「徹底」名●大にさとりを開き何等の煩惱をも懐かざるこ。
 たいこ(對晤)名●いであふこと。●●對面すること。
 たいこ(對碁)名●圍碁に於て技の互に相等し。●●「きこ。」
 たいこ(大根)名●だいこんの訛。●●「きこ。」
 ーおろし(一卸)名●だいこんおろし。
 だいこ(大語)名●高慢なる語。●●仰山なる語。●●大言。●●推論式の斷案中、實辭となる語。

例へば(金屬は元素なり、鐵は金屬なり、故に鐵は元素なり)に於ける「元素」の如し。
 だいこ(醍醐)名●牛乳を最も好く精製したるもの。其味甘美にして藥用などに供せらる。
 ーほふみ(一法味)名●佛法を賞讃し。●●「いふ語。」
 ーみ(一味)名●前に同じ。●●「いふ語。」
 たいこう(太后)名●皇太后に同じ。
 たいこう(大功)名●大なるいさを。●●大勳。
 たいこう(退紅)名●中世以後下官の服。淡紅色の布にて作りたる狩衣。●●古桃色の狩衣をきて傘履などを持つ人の着たるより轉じて仕丁をいふ。
 たいこう(大嬪)名●大砲。●●「仕丁をいふ。」
 たいこう(大公)名●君主の御一門なる御男子の稱。●●或小國の君主の稱。
 たいこう(乃公)名●目下の者に對して自己を稱する語。われ。おのれ。●●適公。
 たいこう(口魚)名●大口魚。●●たらに同じ。
 たいこう(太公主)名●天子の伯母の稱。
 たいこう(太公)名●佛教保護の神。青色にして三面六臂前左右手に横に劍を執り左右手に象皮を背後に張りて觸體を以て環珞となすといふ。●●日本にて福神として崇敬す。其像は右手に槌をとり左手に大袋をとりて之を背後に負ひ頭巾を冠り足下に米俵を踏むを常とす。●●僧の妻の稱。
 ーづきん(一頭巾)名●大黒天のかぶり居る名づけたるもの。此の方向に向ひて吉事をなさは福來るといふ。●●「一神」
 たいさい(大祭)名●皇室に於ける祭祀の一。天皇親ら皇族及官僚を率ゐて祭典を行はせらるもの。●●規模大なる祭典。おほまつり。
 ーじつ(一日)名●大祭のある日。
 たいさい(大才)名●大なる才能。●●大なる器量。
 たいさい(滞在)名●旅にて久しく同一の處に宿り居ること。●●逗留。
 たいさい(待罪)名●罪ありて處罰を待ち居ること。
 たいさい(大罪)名●大なる罪。●●重罪。
 たいさい(體操)名●身體の各機關の發育を完全ならしむるため特に規定せられたる法式を以て行ふ運動。
 たいさう(大相)名●調々甚だ多く。●●大層。
 たいさう(大棗)名●なつめの果實を乾したるもの。●●藥用とす。
 たいさう(體相)名●すがた。●●かたち。
 ーゆう(一用)名●佛眞如の三大。●●即ち眞如は一切に通じて平等普遍の法なれば迷悟染淨一切を網羅して能く諸法の本體となるものなれば其體大なり。●●又眞如は本來の徳性として過恆沙の萬徳を具して一として缺くる所なき義相あり之を相大といふ。●●又眞如の業用はあらゆる境界に互りて善の因果を出生する作用あり之を用大といふ。
 たいさう(大葬)名●天皇又は太皇太后、

如き頭巾。圓形にして低く、縁のふくれたるもの。
 ーてん(一天)名●大黒●に同じ。
 ーぼしら(一柱)名●家の中央なる最も太き柱。●●一家の中心となりて支持する人。
 ーのまひ(一舞)名●昔、正月より二月の初まで、大黒天の如き姿を装ひて、吉原の遊廓内を物真似して錢を乞ひあるまじもの。
 だいこく(大獄)名●多人數の犯罪者を出すこと。●●又重大なる犯罪事件の生ずること。
 だいこく(大極殿)名●朝堂院の正殿にして即位などの大典を行はせられし所。
 だいごしゆ(い)びんぶつ(第一種郵便物)名●郵便法にて、農産物の種子。
 たいこせき(太湖石)名●石の名。斷崖絶壁の形をなし几上庭園の珍とすべし。●●多く支那の産なり。我國にては美濃に産す。
 たいこつ(一腿骨)名●もとほぎとの骨。
 (だいごてん)わう(醍醐天皇)第六十六代
 の天皇。御名は眞仁。在位卅三年。壽四十六。
 だいご(大婚)名●人形つかひの術の一。
 だいご(大婚)名●天子などの御婚禮。
 だいご(大根)名●葉は大きく羽状に分裂し、花は黄又は白、根は紡錘形をなして太く食せらる。●●冬期最も味よし。●●蘿蔔。菜菔。
 ーおろし(一卸)名●大根をおろしておろしたるもの。●●食用とす。
 ーづけ(一漬)名●大根を鹽漬となしたるもの。

ーのさうむし(一象鼻蟲)名●五月頃より出で、大根並に其他農作物を害す。●●體は光澤ある黒色に灰白色の短毛を密生し口吻趾に脚は赤褐色、觸角は黒し。
 だいご(大權)名●佛菩薩の衆生救済の爲に假に人となりて現れたりといふもの。●●「同じ。」
 ーのしやう(一垂迹)名●佛菩薩の本地より變身して現れたりといふもの。
 だいご(水楊梅)名●山野に自生する草。莖は二三尺の高さに達す。●●下部の葉は不整の羽状複葉にて其狀大根の葉に類す。●●花は綠色なり。●●果實は瘦果にして鉤形の先端を有す。●●地下部に藥用に供し若き莖葉を食用とす。
 たいさ(大佐)名●陸海軍の佐官の最上級。
 たいさ(大差)名●大なるちがひ。●●「なし」
 たいさ(對座)名●向き合ひてすわること。●●偶坐。
 たいさ(胎座)名●雌蕊の部分にして胚珠の着生する所。●●單子房に於ては胎座は通常葉縁に匹敵する部分に位置するを以て之を邊縁胎座といふ。
 だいさ(臺座)名●佛像器物など載する臺。
 たいさい(大災)名●大なるわざはひ。
 たいさい(體裁)名●ていさいに同じ。
 たいさい(太歳)名●木星の異名。●●陰陽家の語。●●八將神の一にして木星即ち歳星の精に

名づけたるもの。此の方向に向ひて吉事をなさは福來るといふ。●●「一神」
 たいさい(大祭)名●皇室に於ける祭祀の一。天皇親ら皇族及官僚を率ゐて祭典を行はせらるもの。●●規模大なる祭典。おほまつり。
 ーじつ(一日)名●大祭のある日。
 たいさい(大才)名●大なる才能。●●大なる器量。
 たいさい(滞在)名●旅にて久しく同一の處に宿り居ること。●●逗留。
 たいさい(待罪)名●罪ありて處罰を待ち居ること。
 たいさい(大罪)名●大なる罪。●●重罪。
 たいさい(體操)名●身體の各機關の發育を完全ならしむるため特に規定せられたる法式を以て行ふ運動。
 たいさう(大相)名●調々甚だ多く。●●大層。
 たいさう(大棗)名●なつめの果實を乾したるもの。●●藥用とす。
 たいさう(體相)名●すがた。●●かたち。
 ーゆう(一用)名●佛眞如の三大。●●即ち眞如は一切に通じて平等普遍の法なれば迷悟染淨一切を網羅して能く諸法の本體となるものなれば其體大なり。●●又眞如は本來の徳性として過恆沙の萬徳を具して一として缺くる所なき義相あり之を相大といふ。●●又眞如の業用はあらゆる境界に互りて善の因果を出生する作用あり之を用大といふ。
 たいさう(大葬)名●天皇又は太皇太后、

ざること。「に抵抗すべき建設物の構造。
—こうさう(一)構造」名地震の破壊力
たいじん(大人)名●成長したる人。おとな
●大徳の人。君子。小人の對。●うし。●父
母の稱。漢書「王遇—益懈」●身體の大なる人。

たいしん(太甚)名はなはだしきこと。
たいしん(代診)名醫師の家にありて其醫師
に代りて診察をなすもの代脈。

たいしん(大盡)名●田舎などにて財産の
豐なる豪家。●遊里にて財を散らす遊客。
たいしん(大臣)名●古、太政官の長官。おほ
まうちぎみ。おほまぢぎみ。●國務大臣
及各省大臣の汎稱。

—くわんばう(一)官房」名各省に於け
る職務分掌の一部。主に機密に關する事項
を掌る。

—け(一)家」名古、近衛大將を兼任せずして
大臣に任ぜらるゝを先途とせし家筋。中院正
親町三條三條西の稱。

—けち(一)關」名大臣の位置のあきてある
—ばしら(一)柱」名芝居の舞臺の右方にある
柱。左方を見付柱と云ふ。「召されしと。
—めし(一)召」名古、大臣に任ぜらるるため
たいじん(大神宮)名伊勢神宮の特稱。
たいじん(對人權)名法、特定の人に對
抗し得る權利。即ち債權の如きもの。

たいじやう(一)體狀」名ありさま。かたち
たいしやう(一)代償」名●他人に代りてあ
がなふと。●他人に及ぼしたる損害に對して其
の代價を拂ふと。
たいしやう(一)大聖)名佛、佛號に冠する語
「釋尊—不動明王—歡喜天」
たいしやう(一)大將軍)名●征伐に
派遣せらるゝ官軍の總大將。●かしら。を
さ。巨魁。●陰陽家にて祭る八將神の一。此
の神の居る方角は、三年塞るとて、百事をなす
を思ふ。
たいじやう(一)わう(一)太上皇)名太上皇
たいじやう(一)わん(一)太政官)名●古、八
省百官及諸國を統轄せし最高官府。●明
治維新後、諸省を統轄せし最高官府。
たいしやう(一)こく(一)大相國)名太政大臣
の唐名。
たいじやう(一)さい(一)大嘗祭)名だいじや
たいしやう(一)じ(一)大床子)名●古、天皇の
御膳をのするに用ひし机。
たいじやう(一)ぜんじ(一)太政禪師)名古、出家に
して太政大臣に任ぜられたるものに特に授け
し官名。

「政官の最高官。
たいじやう(一)だいじん(一)太政大臣)名太
たいじやう(一)てんわう(一)太上天皇)名天
皇の御位をゆづりたまひし後の尊號。太上天皇。
たいじやう(一)ふたう(一)太政入道)名出

たいじん(しんよう)「對人信用」名債務者の
品性、徳望又は地位等に對する債權者の信
用。少しも擔保なき信用。對物信用の對。
たいしん(ぞめ)「太申染」名江戸三十間堀の
材木屋和泉屋其助の染め出したる染模様。
徳川時代に流行せしもの。
たいじん(たんぼ)「對人擔保」名法、簡人の人
物才幹を信用の對象とする擔保保證の如き
もの。
「人、偉大なる性格を有せる人。
たいしん(ぶつ)「大人物」名器量のすぐれたる
たいしん(めん)「大審院」名最高の裁判所に
して控訴院の判決に對する上告、控訴院の
決定及命令に對する抗告、其他特別權限に
屬する事件等を裁判す。其長は敕任の判事
中より天皇これを親任し給ふ。
たいしや(一)大赦)名或犯罪の刑事法上の效
果を除する大權作用。朝廷にて大なる慶
弔の事ある時に行はる。
「退きやむること。
たいしや(一)退社)名社員が其社員たる身分を
たいしや(一)預舎)名やぶれたる家、破屋。
たいしや(一)代赀)名繪具に供する赤鐵鑛の稱
色赤黒く質堅し。
—せき(一)石)名たいしやに同じ。
たいしや(一)代謝)名ふるきもの去り新しきもの
これに代り相交代すること。「新陳—」
—きのう(一)機能)名動、細胞内の原形質
が消耗して生じたる汚廢物を排除し更に滋

家にして太政大臣に任ぜられたるもの。
たいじやう(一)みやく(一)大靜脈)名頭部四
肢、臟腑等の小靜脈の集りて、心耳に入る主
要なる靜脈。
たいしやう(一)りう(一)代將旗)名海軍旗章
の一。司令官たる大佐が指揮權を帯び乘艦
したる時に大橋頂に掲ぐる旗章。代將旗。
たいしや(一)れう(一)はふ(一)對症療法)名
「醫」患者の身神に苦痛を與へ又は直接生命
に危險を及ぼすが如き症狀を發したるとき藥
物を用ひて其苦痛を去り直接、間接に治癒
輕快に赴かしむる方法の總稱。
たいじやう(一)たい(一)大嘗會)名天皇即位の
初めに新穀を捧げて天神地祇を祭らせ給ふ
一世一度の大典。古くは大嘗また新嘗ともい
ひて其別なかりしが天武帝以來は代毎に行
はるゝを大嘗とし年毎に行はるゝを新嘗とせ
り。其祭儀は十一月中の卯の日より申の日
に亙りて行はるる定めにして、悠紀主基の國
を卜定し又悠紀主基の祭殿を作り設けて
其卜定の國より獻れる米穀をもて酒饌を作
り祭祀を行はせらるるなり。

たいしや(一)やく(一)對酌)名向きあひて酒を飲むこと
たいしや(一)やく(一)貸借)名●かすとと。かし
かり。●法、當事者の一方が物の使用收益
をなしたる後之を返還することを約して相手
方より物を受取ることを目的とする契約にて

養分を攝取して其の補缺をなす作用。
たいしや(一)養樹)名うてな。たかどの。
たいしや(一)乃者)名このころ。
たいじや(一)大蛇)名をろち。うはばみ。
たいしや(一)對象)名吾人の心意活動の
向ふ目的物。例へば今余一の机を知覺したる
時は其の机は余の意識の對象と云ふが如し。
たいしや(一)體性)名本性。實體。
たいしや(一)大將)名●古、近衛府の長官
●現時陸海軍の最高級の將官。●一家の
主人。一羣の首長。をさ。かしら。
—だい(一)代)名古、即位式の時、儀式にあ
づかるためにかりに設けらるる大將。
たいしや(一)胎生)名たいせいと同じ。
たいしや(一)隊商)名砂漠草原地帯の
人口稀なる地方を通過するに當りて、悍猛な
る深泊的土人の襲撃を防ぎ、飲食、宿舎を自
給する便宜を計らんとす多人數團體を組
みて相往來するもの。「たる對稱の人代名詞。
たいしや(一)大將)名●冷笑の意味を含み
たいじや(一)怠狀)名●王朝時代より鎌
倉時代に亙りて自己の怠慢より生じたる過
失を詫ぐる爲に人に送りし書狀。●あやまる
こと。屈服すること。
たいじや(一)太上)名●最もすぐれたるも
の。極めて善なるもの。●天子。「ゆづると。
たいじや(一)退讓)名自らへりくだり人に

消費貸借、使用貸借、貸借等の別あり。
—たいせう(一)へう(一)對照表)名法
貸方と借方とを對照せしめて作りたる表。
たいしや(一)てん(一)帝釋天)名●十二天の一
須彌山頂に居るといふ。帝釋。天主。天帝。
たいしや(一)ヤモン(一)大沙門)名●如來の別稱。
たいしや(一)りん(一)大車輪)名●大なるくるま。
●(漢)俳優などが大に精を出してつとめ働く
こと。「—になる」
たいしゆ(一)大守)名●古、上野・上總常陸の三
國は親王を以て國守となす例にして之を大
守と稱す。但し其場合は遙任にて親王は任
地に赴かず次官たる介が代りて任務を行ふ。
●武家時代大國の大名の稱。「加賀の—」
支那にて郡の長官。「分。—家」
たいしゆ(一)大酒)名大に酒をのむこと。大酒の
たいしゆ(一)對手)名あひて。敵手。
たいじゆ(一)大儒)名博學なる儒者。大學者。
碩儒。鴻儒。
たいじゆ(一)大樹)名●大なる木。大木。●將
たいじゆ(一)大綬)名勳一等級以上の勳章及功
一級金鷄勳章を帶ぶる綬。
たいしゆ(一)大衆)名●一堂に集れる衆僧
の總稱。又一座の説法を聽聞せる僧尼善
男善女の總稱。
たいしゆ(一)退縮)名ちぢまること。「でると。
たいしゆ(一)退田)名しりぞきつと。まかり

たい
たい

たい
たい

たいじゆつ(體術)名柔術に同じ。
たいしよ(大暑)名烈しき暑さ。酷暑。二十四氣の一。陽曆七月二十三日頃にあたる。

たいしよ(太初)名天地の開けはじめ。このたいしよ(代書)名他人に代り物を書くこと。代書人の略。

たいしよ(代序)名かほる。めくり來ること。たいしよ(大序)名演説居狂言の序幕。

たいしよ(對稱)名(文法)自己と相對するものと。第三人稱。あななきみ等。

たいしよ(對證)名相對して互に證據をたたいしよ(大乘)名佛の教法中一切智

と。一を總攬す。
—ほうくわん(奉還)名慶應三年十月徳川慶喜征夷大將軍の職を辭し政權を奉還し天皇親ら大政をしろしめすに至りしと。

たいせい(體制)名生物の體內に行はるる制度ともいふべきもの。生物の體は全體として統一あると共に其各部分に分業的動作をなす。かたちづくり。かたち。

たいせい(體製)名文章各部の整理組織法。修辭學中最も重要な部面の一。古來多行はれたるものは二段説・三段説・四段説・五段説・六段説・七段説・八段説等なり。

たいせい(胎生)名人類及獸類の如く母の胎内に於て形をなし適當の發育を遂げて後出生するもの。胎内にあるときは母體の乳腺より分泌する乳汁によりて哺育せらる。

—どうぶつ(動物)名卵が其母體內にありて受精し且發育を續けて親に似たる形態をなして産出せらるる動物。

たいせい(大勢)名世の自然のいきほひ。世の上のなりゆき。おほよその趨勢。天下の—

たいせい(大青)名種染料植物。葉は帯白綠色花は小形黄色なり。果實は扁平楕狀長橢圓形の乾果にして裂開せず。往時藍を造るために栽培せしもの。

たいせい(對生)名種莖幹の節毎に二枚の葉が互に反對の側に生ずること。互生の對。

たいせい(對生)名種莖幹の節毎に二枚の葉が互に反對の側に生ずること。互生の對。

たいせい(對生)名種莖幹の節毎に二枚の葉が互に反對の側に生ずること。互生の對。

たいせい(對生)名種莖幹の節毎に二枚の葉が互に反對の側に生ずること。互生の對。

を求め如來の智見を開き其力用を以て無量無數の衆生を救済して安樂を得しむる教法をいふ。小乗の對。

—かい(戒)名佛菩薩戒に同じ。
だいじようきやう(大乘經)名佛五部の大乘經即ち華嚴經・大集經・般若經・法華經・涅槃經の併稱。

たいしよく(退色)名色のさむること。又さめたいしよく(退職)名自分の職を退きやむること。たいしよく(對食)名相向ひて食事をなすこと。相伴。

たいしよく(大食)名多く物を喰ふこと。健啖。たいしよく(大織冠)名孝徳天皇の時より位につきて授けられし冠。織物にて作る。後の正一位に當れり。

たいしよく(大織冠)名孝徳天皇の時より位につきて授けられし冠。織物にて作る。後の正一位に當れり。

たいしよく(大織冠)名孝徳天皇の時より位につきて授けられし冠。織物にて作る。後の正一位に當れり。

たいしよく(大織冠)名孝徳天皇の時より位につきて授けられし冠。織物にて作る。後の正一位に當れり。

たいしよく(大織冠)名孝徳天皇の時より位につきて授けられし冠。織物にて作る。後の正一位に當れり。

たいしよく(大織冠)名孝徳天皇の時より位につきて授けられし冠。織物にて作る。後の正一位に當れり。

たいしよく(大織冠)名孝徳天皇の時より位につきて授けられし冠。織物にて作る。後の正一位に當れり。

たいしよく(大織冠)名孝徳天皇の時より位につきて授けられし冠。織物にて作る。後の正一位に當れり。

たいしよく(大織冠)名孝徳天皇の時より位につきて授けられし冠。織物にて作る。後の正一位に當れり。

たいしよく(大織冠)名孝徳天皇の時より位につきて授けられし冠。織物にて作る。後の正一位に當れり。

たいしよく(大織冠)名孝徳天皇の時より位につきて授けられし冠。織物にて作る。後の正一位に當れり。

たいしよく(大織冠)名孝徳天皇の時より位につきて授けられし冠。織物にて作る。後の正一位に當れり。

たいしよく(大織冠)名孝徳天皇の時より位につきて授けられし冠。織物にて作る。後の正一位に當れり。

たいす(大衆)名だいにしゆうに同じ。色二だいす(臺子)名茶の湯に用ゐる四本柱の棚。風爐茶碗・茶入等を置く。

だいす(題)名勅書物のはじめに題字。題だいす(大呪)名佛ガラニの敬稱。

たいす(大數)名おほよその數。概數。たいす(對數)名乙數を得んがため甲數を若干羅すべきとき、其の羅の指數の稱。aに於てはbのaに對する對數なり。

—へう(表)名數の常用對數を掲ぐ。たいす(代數)名繼續したる代の數。世數。代數學の略。

—がく(學)名數のみを用ゐず、數字を代表したる文字をも混用して計算する學。—さ(差)名數的數即ち符號を有する數の差。「字及數字を結びつけたるもの。

—しき(式)名數演算の符號を以て文たいする(大水)名おほみず。洪水。「醉ふ」とたいする(滯水)名とどほりて流れざる水。

たいする(耐水)名水氣にたふると。水に損ぜず濕とはらさるること。「にして水を含みたる層。

たいする(帶水層)名地下にありて粗鬆たいせい(大政)名天下を治むるまつり。

たいせい(泰西)名西洋に同じ。
—の(學)名歐米諸國の學問。

たいせい(大聲)名大なるこゑ。おほごゑ。高尚なる音樂。古樂。

—不(入)名二里耳。高尚なる言は俗人の耳に解し得ざるに喩ふ。

たいせい(大成)名多くのものを集めて組織し作成すること。おほいに成り上ると。大成。

たいせい(體性)名たいしやうに同じ。「功たいせい(大勢)名多くの人だち。多人數。

たいせい(大姓)名豪族。大家。財產家。

たいせい(大成殿)名神道教派の一に對抗し得る權利。物權人格權の如きもの。

たいせい(大成殿)名神道教派の一に對抗し得る權利。物權人格權の如きもの。

たいせい(大成殿)名神道教派の一に對抗し得る權利。物權人格權の如きもの。

たいせい(大成殿)名神道教派の一に對抗し得る權利。物權人格權の如きもの。

判決。「にすること。必要。肝要。」
 たいせち「大切」名。大事にすること。丁寧。
 たいせつ「大切」名。たいせちに同じ。
 たいせつ「類雪」名。なだれ。ゆきくづれ。
 たいせつ「大雪」名。多く積りたる雪。おほゆき。
 たいせつ「二十四氣の」陽曆十二月七日頃に當る。
 たいせつ「大節」名。大なる節操。すぐれたる操。
 たいせん「菩薩」名。種。け。
 たいせん「大船」名。大なる船。おやぶね。
 たいせん「大仙」名。すぐれたる仙人。佛。如來の別名。
 たいせん「大川」名。おほかけ。大河。
 たいせん「大戦」名。大なるたたかひ。大軍の烈しき戦。「沙河の」
 たいせん「對戦」名。兩軍相對して戦ふこと。
 たいせん「大漸」名。帝王の御病の劇しく危篤なるに似ふ。
 たいせん「大全」名。或物に關して多くのものをたいせん「退然」名。副よわくしきさまに似ふ語。
 たいせん「泰然」名。副ゆつたりとして動かさる語。
 たいせん「代錢」名。代金。だい。
 たいせん「大栓」名。木材延長の繼手を固定するに用ゐる樑又は樑の如き堅木にて造りた「だいせん」(大山)伯耆國にある山。「栓」
 たいせん「きよく」(大選舉區)名。せんきよく

を見よ。
 だいせん「しき」(大膳職)名。宮内省に屬し御膳部を調進することを掌る所。だいせんしよく。
 だいせん「せかい」(大千世界)名。佛。三千大千。だいせん「てい」(大前提)名。論。推論式の前提。中大語を含めるもの。
 だいせん「の」(大膳大夫)名。大膳職の長官。
 たいそ「太宗」名。王朝初代の帝王。
 たいそ「太」名。帝王の祖先中其功德の太祖に比すべき帝王の稱。「月の異稱」
 たいそ「大」名。十二律の「陰曆正」
 たいそ「大層」名。副たいさう大相に同じ。
 だいそ「うし」(大宗師)名。多くのもの、仰ぎて師となす先生。「なるもの」
 だいそ「うじやう」(大僧正)名。僧侶の最高。たいそ「大息」名。ためいき。ためいきして嘆くこと。「深呼吸をなすこと」
 たいそ「胎息」名。臍下にまで徹するが如き。たいそ「大則」名。大なるのり。おほもとの。だいぞく「大俗」名。極めて俗なると。「のり」
 だいぞく「大賊」名。大悪事をなす賊。大盜。たいぞく「大孫」名。天皇の御孫。皇孫。たいだ「怠惰」名。おこたること。なまけ。だいた「大多」名。數の非常に多きこと。だいた「對對」名。對等なること。ごぶごぶ。だいた「大體」名。副あらまし。大凡。大略。

だいた「大隊」名。兵。陸軍部隊の一。本部並に二乃至四中隊より成る。歩兵。砲兵にありては戰術單位をなす。大隊長は普通少佐にて時には中佐を任ずることもあり。
 一旗「旗」名。軍旗の一。歩兵の各大隊に一基を備ふ。常備軍の第一大隊は白絹地に赤色の山形一條。第二大隊は赤黒の山形二條。第三大隊は赤黒赤の山形三條を染め出せり。後備軍は黒赤の順を以てし國民軍は青色を以て之を表す。
 だいた「橙」名。種。幹に刺ありて高し。夏小白花を開き。實はくねんぼに似て味酸く。皮は香氣あり。料理に用ゐられ又新年の祝儀などに用ゐる。回青橙。
 いろ「色」名。赤と黄との間色即ち赤みを帯びたる黄色。蜜柑色。麴色。薄色。橙色。
 だいた「一代」名。副世に同じ。
 だいた「かぐら」(太神樂)名。伊勢大神宮の神樂所にて行ふ神樂。
 だいた「こつ」(大腸骨)名。股の中軸をなす骨。強大にして管状をなし上方は無名骨。下方は脛骨及膝蓋骨と聯接す。「がまし」
 だいた「いし」(怠意)名。なほざりなり。怠り。だいた「いぶつ」(代替物)名。同種類の物を以て相互に代用し得らるる物。米穀。酒油等の類。
 だいた「いり」(大内裏)名。古の平城京又は平

安京の宮城の稱。南北十町。東西八町。四方に各三門あり。内に大極殿。八省院等の諸殿あり。
 たいたう「胎蕩」名。春の景色ののどかなる。たいたう「大盜」名。おほむすびと。大賊。たいたう「對當」名。むかひあふこと。對りあふこと。相當。たいたう「主辭及賓辭を有して互に質と量とを異にすること」
 たいたう「額」名。或ものに相當する額。
 たいたう「御免」名。徳川時代。町人又は農民にして特に帯刀を許されたること。
 たいたう「大蕪」名。羽毛にて飾れる軍中の大旗。天子の乘輿の御旗。「を進む」
 たいたう「大道」名。道路の幅ひろきもの。たいたう「宇宙を支配する大なるさまり。又人のさまにふまざるべき大本。根本道義」
 たいたう「易者」名。大道に出てゐる下等の易者。
 たいたう「店」名。大道の路傍に張りたる店。たいたう「唐米」名。稻の一種。葉細く短く普通のものより早く熟し粘質少なく消化し易し。病人の食するに適す。あかごめ。
 たいだん「對談」名。向ひあひてはなす。對話。だいたん「大膽」名。きよものふとこと。物に恐れぬこと。づぶとこと。横着なること。

だいたん「大團圓」名。物のをはり。大尾。たいち「大智」名。すぐれて大なる智慧。たいち「大痴」名。おほバカもの。たいち「退治」名。妖怪又は仇敵などを打ち取る。うち平ぐること。「對抗を持續すること」
 たいち「對持」名。戦ふととに拘らず敵とせん「線」名。兵。敵に對し攻勢又は守勢を執り戰を持續するもの。
 たいち「對峙」名。相向ひて並び立つこと。峙立。だいち「駄市」名。牛馬を賣買する市。
 だいち「大地」名。地球の表面。地を廣く言ひなしたる語。「る表面一般に平坦なる山地」
 だいち「臺地」名。近接の地より急激に崛起せたいち「對陣」名。兩軍相向ひ合ひて陣すること。
 たいちん「退陣」名。軍を後にひくこと。陣をひき拂ふこと。退軍。たいちん「陣」名。一所にながく陣取り居るとたいちやう「臺聽」名。貴人の聞き入ることの敬語。
 たいちやう「隊長」名。一隊のかしら。たいちやう「退聽」名。役所より退出すること。たいちやう「大腸」名。腸の一部にして小腸の下部にあり。
 だいちやう「臺帳」名。賣買の高を記し置く元帳。大福帳。芝居の脚本。臺本。たいちやう「かく」(對頂角)名。二直線が相交はりて作る角の相對するもの。

だいちやう「大丈夫」名。ますらを。男子。
 だいちやう「大丈夫」名。身體の健全なること。物體の堅固なること。
 だいちやう「胎中」名。はらごもり。胎内。
 だいちやう「大著」名。大なる著述。「く」
 たいちん「退治」名。他動タ上。討ち退く。討ち平尺に達す。花は小くして白く秋開く。實は味噌醬油・豆腐などを造るに用ゐる。
 いかす「粕」名。大豆油粕。偏質の窒素肥料にして我國全肥料中最も多量に用ゐる。
 だいつう「大通」名。つうじんに同じ。
 たいづき「隊附」名。軍隊につき勤務に服すること。たいてい「台鼎」名。三台星と三脚の鼎との義。三公の異稱。
 たいてい「太弟」名。天子の御弟。皇弟。
 たいてい「退廷」名。朝廷又法廷より退出すること。たいてい「大抵」名。副おほかた。大概。
 たいてう「退朝」名。朝廷又は役所より退すこと。たいてう「退潮」名。ひきしほ。「出すること」
 たいてき「大敵」名。多人數の敵。
 たいてき「對敵」名。あひて。敵に對すること。たいてん「大典」名。大なる典禮。重大なる儀式。たいてん「退轉」名。佛。佛道の修行を疎にして心の他の物に奪はると。破産して他に轉ずること。

だいてん(大篆)名漢字書體の一。周宣王の時、史籀のつくれるもの。
 たいてん(帯電)名理、物體の電氣を得たるを
 だいてんさんばい(大辰三拜)名佛、禪家に
 て大に座具を展べて禮拜すること。
 [だいてんぼふん]名(大傳法院)紀伊國
 にある真言宗新義派の總本山。根來寺。
 たいと(泰斗)名泰山北斗の略。勝れたもの。
 たいと(大部)名大なる部。「文學の一」
 たいど(態度)名やうす。身ぶり。身がまへ。
 たいど(大度)名度量の大なること。大量。「寛
 仁」
 たいとう(大統)名天子の御系統。あまつひ
 たいとう(擡頭)名文章中にて敬語を前
 の行よりは次の行を上げて字をかきこと。頭
 をもたぐること。「の間に優劣なきと。同等」
 たいとう(對等)名同じ程度。等しきと。雙方
 一てうやく(対約)名彼我の國際
 關係に於て、互に權利義務の對等なる條約。
 だいでう(大同)名おほよそ同一なること。
 ①些細の差違は顧みずして合同すること。「一
 團結」
 一せうい(少異)名大體は同じくし
 たいとうさい(大頭菜)名種かぶらに同じ。
 だいでうみやく(大動脈)名心臓の左心室
 より出で上は頭部・上肢下は腹部より分れ
 て下肢に至る主要なる動脈。

だいでうりやう(大統領)名共和國の首
 長。其就任に期限あり。選舉によりて改選す。
 たいとく(大徳)名大なる徳行のあること。
 たいとく(胎毒)名生兒の胎内にあるときに受
 けたる所の毒。
 一くだし(下毒)名小兒の胎毒を除く藥劑。
 だいでくとく(大徳)名徳の高き僧。轉じて一
 般の僧をもいふ。富豪。かれもち。
 [だいでくとく]名(大徳寺)山城國にある臨濟宗
 大徳寺派の本山。
 だいでいとこ(大徳)名だいでいとくに同じ。
 だいでいご(臺所)名だいでいごころの訛。
 だいでいごころ(臺所)名人家にて飲食物の煮炊
 きをなす所。くりや。かつて。庖厨。
 一がしら(頭)名徳川幕府の職名。膳所
 臺所頭ともいふ。飲食の調理を掌りしもの。
 一とじ(刀自)名徳川時代、臺所に關し
 たることを取扱ひし人。
 一ぶぎやう(奉行)名足利時代の中
 葉以後幕府其他諸家にて食膳調理等の事
 を掌りし職名。
 一ぶね(槽)名料理を乗せ置く槽。
 たいとくとく(大都督)名總軍を統へ率ふる人
 たいない(胎内)名はらのうち。
 一くぐり(賢)名大徳の時、神社にて
 鳥居の所にちがや等に於て大なる輪をつくり
 參詣人をしてまたがりくぐらしむること。甲

斐國吉田口の途中、鈴原の内にある岩洞。こ
 こに入りたるもの、澤を懐胎の婦人の腹帯に
 用ゐれば安産すといひ傳ふ。
 だいないき(大内記)名古の官名。内記を見
 たいなう(胎囊)名動。爬虫類及鳥類の
 卵殻内に在る胚。若くは哺乳類の胎兒の被
 る囊狀物。
 だいなう(大脳)名腦の一部。即ち前腦に
 して精神作用を營む主要機關なり。後下部
 に延髄を出し小腦に接す。
 だいなごん(大納言)名古の官名。太政官
 の次官。内に奏し外に宣することを掌り又太
 政に參與せしもの。①(徳)大納言小豆の略。
 一あつき(小豆)名種。小豆の一種。粒大
 く色殊に赤く味最も美なり。
 だいなし(臺無)名甚しく物の破れ損じ汚
 れたるにいふ。「おくらし滞りすること」
 たいなふ(滯納)名上納すべき公期限を
 一しよぶん(處分)名國家又は公共團
 體が納税の義務を怠るものに對して課する處
 分をいふ。
 だいなふ(代納)名他人に代りて納付する
 ダイナマイト(Dynamite)名ニトログリ
 セリンを珪藻土に吸收せしめたるものにして
 爆發藥として使用せらる。
 だいなん(大難)名大なる災難。
 ダイナモ(Dynamo)名理。發電機に同じ。

だいに(大貳)名古、太宰府の次官。少貳の上
 に位す。

だいにきむ(第二義務)名法。第二權利上に
 對する義務にして、他人の權利を侵害したる
 事より生ずる賠償の義務の如きもの。
 だいにけんり(第二權利)名法。第一權利の
 侵害を受け、これを救済するために生ずる權利
 にして、自己の權利を損害せるものに對して其
 の賠償を求むる權利の如き類。
 だいにしん(第二審)名法。或事件が二回若
 くは二回以上の審判を経たるとき、其第二回
 目の審判、即ち控訴によりて受けたる審判。
 だいにしゆい(第二種郵便物)名
 名郵便法にて郵便葉書をいふ。「略」
 だいにち(大日)名佛。だいにちによらいの
 一によらい(如來)名密教の本尊。寂光
 土の教主たる法身の如來。毘盧遮那。これに
 金剛界の大日と胎藏界の大日との二種あり
 「だいにちだけ」名(大日嶽)名。越前國にある
 山。①大和國にある山。
 だいにしん(第二人稱)名文法。自己
 の對話の相手たる人に用ゐる人代名詞。對
 稱。なんぢ。足下等。「を見よ」
 だいにほじゆう(第二補充)名補充兵の條
 だいにほんし(大日本史)名神武帝より後小
 松帝に至るまでの漢文の歴史。本紀・列傳及
 史類より成る。三百四十六卷。水戸徳川家

の編纂に係る。
 たいにん(大任)名重大なる役目。
 たいにん(體認)名よく心にのみこむこと。
 たいにん(耐忍)名こらへしむること。辛抱する
 こと。忍耐。
 一りよく(力)名物事に辛抱する意思の
 たいにん(退任)名務をひくる。任務を退くと
 だいにん(代任)名他人に代りて任務をとり
 扱ふこと。
 だいによびきん(第二豫備金)名豫算外に
 生じたる費途に對して必要とする支出に充つ
 るための豫備金。
 だいにねつ(大熱)名高き體溫熱。
 だいにんぶつ(大念佛)名佛。大念佛宗の略
 一しゆう(宗)名ゆうづうねんぶつし
 ゆうに同じ。
 たいのう(大農)名資産の豊なる農夫。豪農
 一そしき(組織)名耕作地が大農地に區
 劃せられ一般の農業が大農によりて行はるゝ
 たいは(大破)名甚しく破れたること。「もの」
 だいは(臺場)名大砲を据ゑて敵に備ふる要
 害の地。砲臺。
 たいはい(大旗)名天皇の御旗。又は將軍の
 たいはい(頽敗)名すたれやぶること。頽廢。

たいはい(大盃)名大なる盃。
 たいはい(大敗)名甚しく敗るゝこと。おほまけ
 たいはい(退廢)名勢の衰へたること。
 たいはい(帶佩)名大刀などを帶ぶること。
 たいはう(大方)名度量の大なる人。
 ①學問見識の高き人。賢人。②世上一般の
 人。③おほかた。あらし。
 たいはう(大砲)名數人の力を以て使用し
 得る大なる火器。おほづつ。
 たいはう(大邦)名大なる國。
 たいはう(大寶)名天子の御位。②文
 武天皇の御宇の年號。
 一りつ(律)名大寶年間に制定せられし律
 一りやう(令)名大寶年間に制定せら
 れし令。
 たいばう(大望)名たいまうに同じ。
 だいはかり(臺衡)名臺のつきたる重き荷物
 の重量をはかるはかり。荷物を其の臺に載せ
 秤秤の目盛を讀みて其の重さを知る。
 たいはく(太白)名金星の異名。①白砂糖
 の純白なるもの。上白。②色白き固飴。③大き
 絹絲。④おほさかづき。
 たいはく(戴白)名頭髮の白きこと。轉
 じて老人をいふ。
 たいはく(頽魄)名陰曆十五日後の月の稱。
 だいはち(大八)名大八車の略。
 一ぐるま(車)名荷物などを乗する大なる

車。車の力八人に代るといふ意より代八車と
 たいはつ(胎髪)名うぶげ。「も書く」
 たいはつ(體罰)名身體に苦痛を與ふる罰。
 たいはつ(題跋)名書物などの題辭と跋辭と。
 たいはふ(大法)名國の重きおきて。
 たいはん(天半)名十中八九分まで。おほひ
 た。過半。大凡。
 たいはん(胎盤)名胎兒の身體の一部の母
 體の一部と密に癒合したるもの。胎
 兒これにより養分を母體より受く。
 えな。胎衣。
 たいはん(臺盤)名古貴人の家等に
 て食器を載せし具。膳の横長きもの。
 一どころ(一)所名食物を調理する所。
 臺所。大臣大將の妻室。みだいどころ。
 たいはんじやく(大磐石)名大なる磐石。
 物の堅固にして動かさるにふ。
 たいひ(對比)名二つあること。①(哲)相異
 なるか或は相反せる性質若くは分量が時間
 上又は空間上接近して存在し爲に其一方
 或は兩方の特徴が一層著しく現出すること。
 ②(對照)同じ。「雜質肥料。積肥」
 たいひ(堆肥)名廢物を積みて腐熟せしめたる
 たいひ(貸費)名費用を貸し與ふること。
 一せし(一生)名官又は學校にて費用を貸
 與して修學せしむる生徒。
 たいひ(退避)名からだをひくと。退きさくこと。



たいび(大尾)名文章小説などの最終。をは
 だいひ(大悲)名大なる慈悲。「り。終結」
 一じや(一)者名慈悲深き人。
 一ボサツ(菩薩)名佛。觀世音菩薩の異
 稱。
 たいひしよ(待避所)名長大なる橋梁上及
 隧道内に線路工夫線路看守者が通過列
 車を待避する爲に設くる所。
 たいひせん(待避線)名單線鐵道等にて前
 方より來る列車を待て一時避くる爲設けた
 たいひつ(大弼)名弼の條を見よ。「線路」
 だいひつ(代筆)名他人に代りて字を書くと。
 たいびやう(大病)名おもき病氣。大患。
 だいひやう(大拍子)名體格の大なる。
 だいひやう(大拍子)名演。鳴物に大
 太鼓を入れてうつこと。
 たいふ(大傳)名天子の未だ成年に達し給
 はざる時保育の任にあたる職名。支那古代
 の官名。三公の一。
 たいふ(大夫)名支那周代の官名。卿の下
 士の上に位せり。大名の家老。
 たいふ(大夫)名古。五位の通稱。①淨
 瑠璃など語る藝人の稱。②高等なる遊女。
 一くるひ(狂)名遊女買にふけること。
 一ご(一)子名若手の俳優。
 一もと(一元)名演藝の興行人。
 たいふ(大輔)名省の次官。「中務」
 たいふ(大部)名書籍の冊数の多きこと。

およその部分。おほかた。「活字」
 タイプ(Type)名しるし。記號。かた。
 たいふ(内府)名内大臣の異稱。
 たいふ(大夫)名職の長官。「東宮」
 たいふ(大分)名すこぶる。おほかた。
 たいふう(大風)名烈しき風。おほかた。
 たいふう(颶風)名我國支那。フイリッピン
 諸島附近に來る猛烈なる低氣壓。
 たいふう(泰風)名西風。「くもちの略」
 たいふく(大福)名大なる幸福。①だいふ
 一ちやうじや(帳)名商家の元帳。臺帳。
 一ちやうじや(長者)名多く資産あ
 る人。おほかた。
 一もち(餅)名餡を包みて圓くしたる餅。
 だいふけい(大不敬)名大なる不敬。特に天
 皇皇后其他皇室に對する不敬をいふ。
 たいふせん(大府宣)名中古。太宰府の長官
 より其管下なる諸國の在廳官人に下し。公
 だいぶつ(大佛)名大なる佛像。「文書」
 だいぶつ(代物)名或物に代ふる物。
 一べんさい(辨濟)名債務者が債權
 者の承諾を得て負擔したる給付に代へて他
 の給付をなし以て債務を辨濟すること。
 たいぶつ(ぶん)名「對物信用」名買物又は
 抵當物に對する信用。
 たいぶつ(レンズ)名「對物」名顯微鏡又は
 望遠鏡に於て物體に向はしむるレンズ。

たいふん(堆糞)名堆肥に同じ。「おきき」
 たいふん(台聞)名高貴の人の耳に入ること。
 たいふん(大分)名よほど。おほかた。だい
 ぶ。「とより成る數」
 たいぶんすう(帶分數)名數。整數と眞分數
 タイプライター(Typewriter)名通信文又
 は原稿等を記するに筆墨を以てせず明瞭簡
 單に活字にて自由自在に印刷し得る器械。
 これに二種ありて其の一は前方に記號等を
 配置したるボタン様のものを並列し、之を指
 頭にて押せば槓杆作用によりて後方に挾める
 紙面に順次に文字を印刷する装置。他は押
 鈕を並列せず單に印字を圓盤の周圍に配列
 し其圓盤上の文字を適宜の位置に廻し來り
 て上より押す装置なり。
 たいへい(太平)名世の中の無事なること。泰平
 たいへい(大兵)名多數の兵士。
 たいへいかう(對平行)名數。線又は邊の
 相平行すること。
 たいへいき(太平記)花園天皇の文保二年
 より後村上天皇の正平廿二年までの戦亂の
 狀を記したる軍記。四十一卷。著者詳ならず。
 一よみ(讀)名昔。路傍に座して太平記を
 讀みて錢を乞ひしもの。今の講釋師。
 たいへいらく(太平樂)名雅樂の曲名。太
 平破陣樂の略。暢氣に氣樂なること。
 たいべう(太廟)名天子の祖先の靈廟

①我國にて伊勢神宮の稱。
 だいへう(代表)名或物に代りて其物全
 體をあらはして代理すること。
 一しや(者)名或物を代表するもの。
 たいへき(大辟)名支那にて死刑をいふ。
 たいべつ(大別)名おほまかにわくこと。おほ
 わけ。
 たいへん(大變)名大なる變事。①非常
 たいへん(胎便)名か。にばげに同じ。
 たいへん(大辨)名古の官名。べんを見よ。
 たいへん(大便)名人類の肛門より出づる排
 泄物。糞。「と。又其人。代理すると」
 たいへん(代辨)名他人に代りて事を辨す
 一げ(業)名他人の代理をなす營業
 たいほ(大保)名支那古代の官名。三公の一。
 たいほ(逮捕)名犯罪者及犯罪の嫌疑ある
 者を公力にて追捕し其自由を制限し束縛す
 る法律の執行。罪人を召し捕ること。
 一ざい(罪)名法。不法に現在實力の下に
 他人の身體の自由を束縛することによりて成立
 する罪。
 一じやう(狀)名法。所在地の知れざ
 る禁錮以上の刑事被告人を逮捕するため發
 する檢事の命令書。
 たいほ(退歩)名あともどりすること。しりぞくと。
 たいほ(大母)名祖母。李太后平王之上
 たいほう(大封)名大なる封土。大なる領分。

たいぼく(大木)名大なる樹木。巨木。
 「だいぼさつ。たうげ」大菩薩嶺。甲斐國
 にある山。「中最も秘重せらるるもの」
 たいほふ(大法)名佛。眞言密教の修法
 一ひふ(秘法)名佛。密法は大法の
 一階下れる修法。大法及秘法の總稱。又凡
 て密教の修法をいふ。「國を治むる」
 たいほん(大本)名おほもと。大なる根本。
 たいほんえい(大本營)名戦時に大元帥陸
 下の大營の下に在る最高の統帥部。
 たいほんげじよう(退凡下乘)名佛。釋迦の
 靈鷲山にて説法せし時。摩訶陀國王これを
 開かため通路を開き中間に二箇の率都
 婆を建つ。一は下乗と云ひ王の所より徒歩
 し。一は退凡と云ひて一切の凡人をしてこれ
 より内に入らしめず。この二箇の率都婆を云
 ふ。一の率都婆。
 たいま(大麻)名おほほき。伊勢神宮
 及諸社より授與する神符。①種。あきと同じ
 一ゆ(油)名大麻の種子より得たる油。多
 少乾燥性なる故。ヘンキ及ロニス用に供し
 又軟石鹼の製造に用ゐる。「ききさすこと」
 たいま(對馬)名將基にて雙方同數の駒を置
 たいまい(玳瑁)名動。熱帯
 の海に産する龜の類。甲
 は魚の鱗の如く重り黄
 褐色にして美しく黒斑あり。



べつかふと云ひ櫛笄など造るに用ゐる。瑤瑨
 たいまい(大枚)名金額の多きこと。多額。
 たいまう(大望)名大なる望。高き希望。
 たいまく(胎膜)名脊椎動物中爬虫類鳥
 類及哺乳類の胚體を被包する膜状物。極めて柔軟なる胚體を保護し或は之がため呼吸若くは營養の作用を司るものなり。
 たいまつ(松明)名(焼松の音便)松の脂の多き部分又は竹草などを束ねて火を點するやうにしたるもの。しようみやう。
 たいまん(怠慢)名おこたること。なまくること。
 たいミン(大明竹)名種々だけだけの一種葉短くして細かく高さ丈餘に達し雅趣あり。
 たいミン(大明頭巾)名寶曆の頃女方便優中村富十郎の製したる一種の防寒用頭巾。
 だいまやう(大名)名 鎌倉時代、名田を多く所有せる者の稱。徳川時代、一萬石以上の封土を有する者の稱。
 一あづけ(預)名徳川幕府の時、罪人を大名に託して禁錮せしめしこと。
 一ぎやうれつ(行列)名徳川時代に於ける大名の行列は其家格祿高官位等に依りて夫々制度あり。其格式によりて供連の多少器仗の増減あり。又在府の時の行列入在ても式日の登城・私の往來等其時によりて異なる。殊に參府・入部等に至つては在府の

行列入比して最も盛装を極む。「うすぢ」
 一じま(縞)名細き縋縋の稱。だいまや
 一ばつた(飛蝗)名動。蝗蟲の一種。體色は種々なれど、褐若くは綠色のもの多し。往大軍をなして害をなす。とのさまばつた。
 だいまやう(大明)名大明日の略。
 一だけ(竹)名種々たいミンちくに同じ。
 一にち(一日)名曆にて最上の吉日。
 だいまやく(代脈)名代診に同じ。
 たいむ(隊務)名軍隊の事務。
 だいま(代務)名他人に代りて務むること。
 一にん(一人)名代務する人。
 だいまむげんさん(大無間山)駿河・遠江・信濃三國に跨る山。「なること。多姓」
 たいん(多淫)名色慾のさかんなること。みだら
 ダイ(力)名(名)理)力の單位。一瓦の物體に毎秒一種の加速度を與ふる力。
 だいま(對面)名たいめんと同じ。
 だいま(代目)名古田一町につき其の四分の一を去りし。茶室の疊を一疊の四分の一だけ板間にし若くは爐を設くる。臺目。
 一たみ(臺)名茶室に敷く疊の名稱。
 疊一枚を四つに割り其一つ分を切り捨てたるもの。即ち一疊臺目とは本疊一枚に臺目疊の附きたるもの。
 たいめい(待命)名命令の下のまぢ居る。上
 たいめい(台命)名三公又は將軍の命令。上

「前」
 たいめい(大名)名大なる名譽。立派なる名
 だいまい(代名詞)名(文法)名詞に代ふるものにて事物を間接に指示する詞。我汝あれ、それ等の如きもの。
 だいまい(對面)名相見ること。面會。
 一しよ(所)名來客と應接する間、應接室
 たいめん(體面)名ていさい。面目。
 たいめん(題目)名表題即ち書物の内容を表せし題號。問題。佛)日蓮宗にて法華經の題。即ち南無妙法蓮華經の稱。
 一かう(講)名法華宗信徒の講中。
 一ソウ(僧)名たいめいソウに同じ。
 一をどり(踊)名山城國松ヶ崎にて老嫗相集り題目を唱へて踊るをどり。
 だいま(代物)名代價。代金。
 だいまん(大門)名大なる門。正門。總門。
 だいまん(大紋)名直垂の一種。布製にして家紋を五つ處に大く染め出し、下にも合引と膝上とに紋を染出したる長袴を着す。武家時代の正服。
 だいまんじ(大文字)名大といふ文字。陰曆七月十六日の夜今は八月京都如意獄の頂近く大の字形に大火をとすこと。猶此夜は松崎山に妙法、金閣寺山に大文字(左大文字)西加茂に船形などを點火す。

たいや(連夜)名送葬の前夜。宿忌。追夜。宿夜。贈別夜。大夜。
 たいや(對屋)名たいのやと同じ。
 タイヤ(Tire tyre)名乗客貨物運搬車の車輪の外周を包む環。金屬タイヤ・ゴムタイヤの二種あり。鐵道を走る車輪には鋼製を用ゐる普通鑄(Tillage)を有し輪(Rim)に燒はめす。人力車等の木製の車輪には鐵製を用ゐる向釘を打ちて拔げざる装置をなす。ゴムタイヤは乗客用道路運搬車輛に用ゐられこれに無汚漏團空氣の三種あり。それに又各別あり。而して現時多く用ゐらるゝは空氣タイヤなり。
 たいやう(太陽)名天)太陽系の中心たる恆星の稱。生物に直接に熱と光とを與へ間接に食物と動力とを供給す。日。日輪。
 一ぎ(儀)名望遠鏡の筒先玉を半圓形に二等分し、同じ面の内にて切口に沿ひて兩者を滑動せしめ、一つの相近き目標の像を一點に集合せしめて其間の角距離を測る器械。
 一きやう(鏡)名望遠鏡にて太陽を觀測するに強烈なる光を防ぐため目許玉の内測に設くる装置。
 一けい(系)名太陽を中心として運行する總ての天體の稱。遊星・衛星及彗星より成る。
 一さつ(殺)名藪を日光に晒して太陽熱により蛹を殺すこと。

一じ(時)名太陽の南中を基準として測定する時間。
 一しやしんぎ(寫眞儀)名太陽面を撮影するに用ゐる寫眞器械。特別に焦點距離の長きレンズを用ゐて直接に寫すものと普通のレンズを用ゐて造りたる像を更に擴大して寫すものとの別あり。
 一しゆうはい(崇拜)名太陽を宗教上の客體即ち神として崇拜するもの。これに太陽其物を崇拜すると太陽の背後に其靈の潛在を認めて其れを崇拜するとの二あり。
 一せき(石)名長石の一種。光彩ありて裝飾品に用ゐらる。
 一へう(表)名任意の時に於ける太陽の黃經黃緯及視差等を計算するに必要なる諸表を集めたるもの。
 一れき(曆)名月の盈虧に關係なく地球が太陽の周圍を公轉する時間を一年としたる曆。一年を三百六十五日四分の一とし十二箇月に割り四年毎に閏一日を生ず。新曆。
 たいやう(大洋)名地球の表面に於て大陸と大陸との間にありて水を以て蔽はるゝ廣闊なる所。大海。國際法上にては何れの國にも屬せざるものとす。
 一しう(洲)名オーストラリア大陸と太平洋上の大部の島嶼との總名。
 たいやう(類陽)名いりひ。夕日。

「前」
 たいやう(體樣)名ありさま。やうす。
 たいやく(退役)名役をやめて退くこと。退職。
 たいやく(大役)名重き役目。重役。
 ダイヤモンド(Diamond)名金剛石に同じ。西洋骨牌の菱形の赤色の模様ある札の名。
 一しき(式)名夫婦結婚してより六十年さると。大事に臨みて誓ひ勇むと。
 たいゆう(貸與)名かしたるること。
 たいゆう(體用)名本體と運用と。
 だいやう(大用)名大便に同じ。
 だいやう(代用)名或物の代りに用ゐること。
 一がく(校)名(學校)名私立小學校にして公立の小學校に代用し得らるゝ資格あるもの。代用私立小學校。
 一けう(教員)名小學校教員の免許狀を有せずして小學校教員の代用をなすもの。
 一しやうけん(證券)名租稅其他の歳入金の代用として納付することを得る證券。
 だいやく(大慾)名極めて慾望の大なること。
 たいらう(大牢)名支那の天子が社稷を祭る時に用ゐる牛羊豕の稱。美味。
 たいらう(大老)名徳川時代に將軍幼少の時などに置く幕府執政官の首位。老中の上にあり。

専ら槍の稱。武道第一の具としていふ。槍。●
 轉じて人家に用ゐる一切の器具の稱。一家財
 一(經)人の手足に装ひ又は直接に手足
 にて使用しその及ばざる所を補助するもの、
 稱。例へば鉄鍔等の類。●他人のために利用
 せらるゝ人。●陰莖。
 一かた(一方)名芝居其他興行物等にて道
 具に關することを擔當するもの。
 一しゆう(一衆)名戰國時代に諸侯の家々
 に設けし職名。戰に臨み主として長柄槍を以
 て接戰する騎馬の侍をいふ。長柄組。
 一だて(一立)名必用なる器具を整へ置
 くと。●諸種の準備。
 一ばこ(一箱)名道具を入れ置く箱。
 一もち(一持)名武家にて槍持の稱。●消
 防夫にてまとひもちの稱。
 一や(一屋)名古道具を商ふ家。又其人。
 たうぐし(一唐櫛)名すきぐし(梳櫛)の一
 種。齒の甚だ細かきもの。
 たうぐは(一唐鍔)名鍔の一種。金鍔の幅狭
 く且つ厚く堅牢なるもの。
 たうくらげ(一唐水母)名動物。形大なるくら
 げ。
 たうくるみ(一唐胡桃)名種くるみの一種
 核大きくして一寸餘あるもの。
 たうくわ(一桃花)名もものはな。
 一せつ(一節)名三月三日の節句。
 たうくわ(一陶化)名●さだてつくると。●を

しへみちくと。教化。前漢書「一ニ一八紘二」
 たうくわ(一倒戈)名鋒をさかさまにする義
 味方に背きて敵に通ずると。うらざり。
 たうぐわ(一唐畫)名カラ系。一やきもの。
 たうぐわ(一陶瓦)名●軸をかけた瓦。●
 たうくわ(一導火)名●火薬を炸發せしむる
 ために點する火。みちび。くちび。●事件を
 惹起す動機。おこり。
 一せん(一線)名●みちびを點するに裝置
 したる線。又電氣を用ゐずして地雷。水雷其
 他一般に坑道爆發等の作業に於ける裝藥の
 點火に使用する線。導火索。●事件を惹起す
 動機の原因。一て世にかくれ、あとをくらますと
 たうくわ(一船睡)名自ら思なる風をなし
 たうくわ(一湯鑊)名鼎鑊
 中にて煮らるゝほどの大罪。
 たうくわ(一陶棺)名赭色又は灰白色を
 呈せる素燒製の棺。
 たうくわ(一導管)名●ものをみちびき出す
 くだ。●(種)植物體の根より滋養分を吸收
 してこれを莖におくるくだ。
 たうくわ(一道灌草)名●石竹の
 一種。春に莖を出し夏の頃すす鐸の如き五
 瓣紅白色の小花を開く。王不留行。
 たうけ(一當家)名この家。わが家。
 たうけ(一時)名たむけの音便。●阪路の頂
 上。●はて。きはみ。極度。

たうけ(一道家)名だうけに同じ。
 たうけ(一道化)名戲を行ひ、人をして笑はし
 むること。おどけ。滑稽。
 一がた(一形)名芝居にて滑稽の役をするも
 一しはる(一芝居)名滑稽を演ずる芝居。
 たうけい(一倒景)名夕日の影。いりひ。
 たうけい(一刀圭)名薬を盛る匙。轉じて醫
 一か(一家)名醫者。一術又は醫家をいふ。
 一じゆつ(一術)名醫術。
 たうけ(一道教)名支那に行はるゝ一種
 の教義。老子を祖とし其道德教によりて欲を
 制し心を養ふを以て法とす。後世に至り新儒
 又は呪詛等を行ふ。
 たうけつ(一當月)名このつき。本月。今月
 たうけん(一刀劍)名かたなとつるぎと
 又身に帶ぶる兵器の稱。
 たうけん(一唐犬)名犬の一種。おもに獵に
 使用するもの。性質勇猛且敏捷なり。
 たうげん(一譚言)名正直の言。直言。
 たうげん(一套言)名平凡又は陳腐なる言。
 たうげん(一桃源)名陶淵明の桃花源記
 に晉の太元中、武陵の漁人、溪に緣ひて行く、
 忽にして桃花林に逢ふ。林盡きて水源に一山
 あり、小口より入りて行くこと數十歩、豁然と
 して開明なり、其處に男女怡然として樂居せ
 り、自らて、先世秦の亂を避けてここにあり、
 今は何れの世ぞと問ふ、乃ち漢魏の世ありし

を知らず、漁人辭し去りて太守に告ぐ、即ち
 人を遣して求めしめしに迷ひて路を得ざりき
 といふ故事に出づ。世間をはなれたる別天地。
 幽遠なる仙境。
 たうけんぐわ(一陶犬瓦雞)名(やき
 もの)犬と雞との義。無心にして用ゐる所なき
 に喩へていふ語。
 たうける(一道化)自動カ下一●だうけをなす。
 たうご(一套語)名套言に同じ。
 たうこう(一陶工)名やきものし。陶人。
 たうこう(一刀工)名刀を造る職人。かた
 な。ち。
 たうこぎ(一田五加木)名種。濕地に生ずる草。
 莖は方形にして葉細長なり、節毎に輪生す。
 秋の頃黄色の花を開く。狼把草。「ぐに」。
 たうこく(一島國)名四方環海の國。しま
 たうこく(一當國)名●此の國。我が住む
 國。●國事に任ずると。史記「周公且代行」政
 一レ一。
 たうこつ(一機骨)名前膊の外側に位する
 骨。三角管状をなし上方は上膊骨及尺骨、
 下方は腕骨の舟狀骨及半月骨と聯接す。
 たうごばう(一唐牛蒡)名種。やまごばう
 に同じ。
 たうごま(一唐胡麻)名種。莖は中空にして
 節あり高さ丈餘に達す。葉は掌狀に分裂し、
 秋の頃卵色の花簇り開く。種子豆の如し。こ

れよりひましの油を採取し藥用及其他の用
 に供す。カラ。カラがしは。蓖麻。
 たうごま(一唐獨樂)名一種の獨樂。竹に
 て作り胴は中空にして孔あり中央に軸を貫く
 これに絲を纏ひて廻せば音を發す。
 たうこん(一當今)名いま。ま。如今
 たうこん(一刀痕)名かたなきず。
 たうさ(一當座)名●席上。一の興
 ●和歌の題の其會の席上にて出すもの。●其
 場かぎり。又暫時のあひだ。●當座預金の略。
 一あづかり(一預)名あづかり主の方より當
 座預金を見ての稱。
 一あづけ(一預)名あづけ主の方より當座預
 金を見ての稱。
 一かし(一貸)名暫時の間だけかしおくこと。
 一かしこし(一貸越)名●銀行が當座預
 金主に對し一定期間内は何時にも一定の
 金額を限り當座預金の殘額を超過して小
 切手を振出すことを許すこと。
 一かしのつ(一貸付)名何時にも要求次
 第返済すべき約束にてなしたる貸付。
 一かんぢやう(一勘定)名何時にも
 請求次第支拂ふ約束にて銀行に預金をなし
 隨時小切手を振出しては預金を引出し現金
 又は他より受入れたる小切手、手形を預入れ
 ては預金を増加し銀行との間に預金の出入
 を行ふ取引。

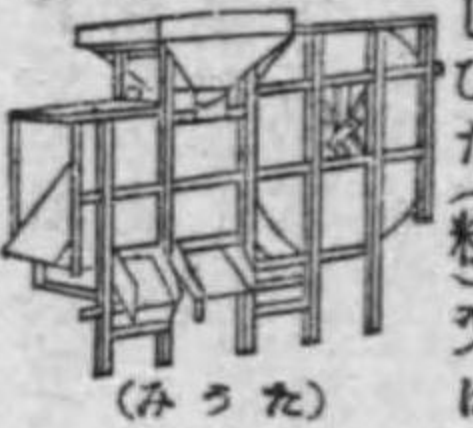
一がり(一借)名當座の間だけ借りおくこと。
 一くみあひ(一組合)名二人以上のもの
 のが共通の計算を以て、一時箇々の商行為
 をなすを目的として組織したる組合。
 一こぎつて(一小切手)名小切手に同じ。
 一ちやう(一帳)名つけこみの日記帳。
 一よきん(一預金)名預金の一。期限を定
 めず何時にもあづけ主の請求に應じて支拂
 ふもの。●
 たうさい(一當歳)名生れたる其年。一の
 一し(一兒)名其年に生れたるもの。
 たうさい(一盜罪)名竊盜又は強盜の犯罪
 たうさう(一盜賊)名盜みたる品。即ち強
 竊盜の贓物。
 たうさう(一倒裝法)名詞姿の一。文
 法上の普通の順序を轉換するものにして組
 織上の詞姿に屬す。
 たうささげ(一唐紅)名種。いんげんささ
 たうさん(一倒産)名●身代を傾け費すと。
 破産。●さか。逆産。
 たうさん(一唐山)名もろこし。カラ。唐
 たうさん(一當山)名●この山。●當寺。
 たうさん(一唐棧)名サントメじま。
 たうし(一唐詩)名●カラうた。漢詩。和
 歌の對。●唐時代の詩。
 たうし(一島司)名鳥籠の長官。
 たうし(一唐紙)名支那製の一種の紙。新

たうは(一)塘陵(一)名つつみ。たうは(一)徒黨(一)名。徒黨、團結。黨の分派。
 たうは(一)別(一)名。黨派によりて區別を設くる。たうは(一)濤波(一)名。大濤、小波。なみ。
 たうは(一)湯婆(一)名。ユタンボ。湯婆子。
 たうは(一)道破(一)名。いひやぶると。いひはると。
 たうは(一)刀背(一)名。かたなのみね。
 たうは(一)黨輩(一)名。同じなま。黨儕、黨類。
 たうは(一)當方(一)名。こちらのほう。こなた。
 たうは(一)逃亡(一)名。逃げたこと。出奔。
 たうは(一)罪(一)名。軍人が故なく職務に就かず又は職役を離るゝに因りて成立する罪。
 たうは(一)にんひきわた(一)しうれい(一)。「一」犯罪人引渡條例。名。外國にて罪を犯し逃亡して我國に來れる者を逮捕し之を外國政府に引渡す事に關し規定したる法規。
 たうは(一)刀銃(一)名。かたなのきつさき。
 たうは(一)道傍(一)名。みちばた。みちべり。
 たうは(一)唐鏡(一)名。一種のはさみ。二つの刀を打違へ向ひ合はせて中央を釘にて留め下の兩端に指を差し入るゝ孔あるもの。
 たうは(一)討伐(一)名。軍をつかはして謀反者を討つこと。せいばつ。
 たうは(一)黨閥(一)名。同一黨派のもの、相願結して、他黨に屬するもの、進路を妨ぐる。

たうは(一)盜伐(一)名。他人の所有に屬する竹木をぬすみること。
 たうは(一)道法(一)名。みちのり。道程。
 たうは(一)刀殺(一)名。かたなきず。
 たうは(一)盜犯(一)名。たうざい(盜罪)に同じ。
 たうは(一)當番(一)名。順番にあたること。又其人。とのみ。宿直。非番の對。
 たうは(一)賜(一)名。たうはること。又たうはるもの。
 たうは(一)賜(一)名。他動ラ四(たばるの延)たうはる(一)名。たうはること。
 たうは(一)當否(一)名。あたれるとしからざるとよるしきにかたふとしからざると。
 たうは(一)唐筆(一)名。支那より舶來したる筆。たうは(一)刀筆(一)名。支那の上代に竹簡に字を記すに用ひし小刀。小官吏の仕事。のり(一)吏(一)名。書記。寫字生。ひくき役人。小官吏。
 たうは(一)湯瓶(一)名。ゆわかし。名。たうは(一)せん(一)名。當百錢(名。天保錢)の異。たうは(一)當否(一)名。たうひに同じ。
 たうは(一)踏舞(一)名。拍子をととりてまふこと。なとり。まひ。
 たうは(一)賜(一)名。他動ハ四(たぶの延)たまふ。酒(一)びける(一)に。他人の動作に添へていふ敬語。たまふ。

たうは(一)給(一)自動ハ下二(自己の動作に添へていふ語)。「を」へて。たうは(一)食(一)他動ハ下二(くらふ)のむ。酒。たうは(一)唐風(一)名。カラやう。
 たうは(一)當腹(一)名。今の妻の腹に生れたること。又其人。先腹の對。
 たうは(一)道服(一)名。中古貴人などが外出の際に塵のかゝるを避けんが爲に着せし服。袖開くして形羽織の如く腰より下にひだあり。今日の羽織は其遺制なりといふ。道士の着る服。
 たうは(一)唐物(一)名。外國よりわたりたる品。一や(一)屋(一)名。唐物をあきなふ家又は其人。
 たうは(一)當分(一)名。割合。當座。
 たうは(一)糖分(一)名。砂糖質の成分。
 たうは(一)唐紅(一)名。支那より舶來のべに。アニリンより製するものにして光澤ある結晶。
 たうは(一)唐墨(一)名。カラザミ。體なり。
 たうは(一)唐法師(一)名。大唐米の一名。
 たうは(一)唐本(一)名。支那より舶來せる書物。
 たうは(一)唐馬(一)名。荷物をつくる馬。乗馬とならぬ馬より轉じて力劣れる下等なる馬。牝馬。
 たうは(一)稻麻竹葦(一)名。物の繁く入たるマンヂユウ。唐饅頭。餅菓子の一。種。カスターラの製の如くにて固きものを皮とし内に餡を包み圓くひらしたし。

たうは(一)唐豆(一)名。ふぢまめに同じ。たうは(一)唐丸(一)名。雞の一種。形大にして九斤に似たるも、趾に羽毛なく肉冠は單一にして直立す。たうは(一)かご(一)名。とうまるを入れて飼ふ圓形の籠。昔平民にて重罪を犯したる者を護送するに用ひし。外面を綱にて被ふ。一やぶ(一)破(一)名。昔時唐丸籠にて送らるる罪人の籠を破りてぬけ出したること。又唐丸籠を破りて其中の罪人をのがれしめたること。たうは(一)唐箕(一)名。穀物のしひな(枇)又はもみから(糠殼)を吹きまくる具。箱の上部に漏斗状のものありてこれに穀物を投じ箱の内部に設けたる風車様のものを廻轉して風を生ぜしめ枇又は糠殼と精米とを分つもの。扇車。
 たうは(一)唐蓑(一)名。蓑の一種。肩に掛けて背を覆ひ、おもに耕耘の際日光をしのぎ或は雨具として使用する。
 たうは(一)唐名(一)支那にてのとなへたうみやうじ(唐名)「カラな」道明寺糖(一)名。もと河内國道明寺より製せしより名とす。今も其近村より盛に産出す。
 たうは(一)采雲(一)名。他人の手紙の敬稱。
 たうは(一)専女(一)名。老女。老いたる狐。たうは(一)專(一)もつばらに同じ。



たうは(一)唐弓(一)名。わたゆみ。たうは(一)唐名(一)名。たうみやうに同じ。たうは(一)當面(一)名。面前に存在すること。目前に現出すること。まのあたり。現前。たうは(一)湯沐(一)名。湯にてからだを洗ふこと。ゆあみ。「浴の料に備ふる直轄の領地。一のいふ(一)邑(一)名。天子諸侯等の沐浴。綿布。絲細く織幅廣し。たうは(一)唐木綿(一)名。西洋より舶來の綿布。絲細く織幅廣し。たうは(一)堂守(一)名。堂宇を守ること。又其たうは(一)玉蜀黍(一)名。華は直立して高さ五六尺に至る。葉は大形、花は單性花にして雄花は莖の頂端に生じ、雌花は葉腋に生じて果實を結ぶ。果實は苞ありて端に紫色絲狀の毛あり。栽培して種子を食用とす。なんばんきび。たうは(一)陶治(一)名。陶器を造ると金を鑄ると。又陶工と金工と。人材を仕立つこと。たうは(一)當夜(一)名。そのよ。又今夜。たうは(一)湯藥(一)名。せんじやくすり。たうは(一)當藥(一)名。よく病に當る藥。せんじやくすり。たうは(一)當役(一)名。この役。當番の役。其か。り。たうは(一)唐弓(一)名。わたゆみ。

たうは(一)黨與(一)名。なま。徒黨。たうは(一)盜用(一)名。ぬすみて使用すること。たうは(一)當用(一)名。さしあたりたる用事。一につき(一)日記(一)名。さしあたりたる用事をしるしおく日記。似て大きくして厚し。蘆竹。たうは(一)唐蘆(一)名。竹の一種。形蘆にたうは(一)當來(一)名。未來。「異稱。一だうし(一)到來(一)名。いたり來ること。其の時となること。一時節(一)他より贈物を受くること。外より贈り來ること。「音物」。一もの(一)物(一)名。もらひもの。たうは(一)蠟燭(一)名。かまきり。一のをの(一)之(一)名。齊の莊公出獵のとき、蠟燭の前脚をあげて其車輪に向ひたりとの故事に出づ。自己の才力を顧みず軽々しく大敵に抗するに喩ふ。文選「欲以二一禦」隆車之隣と。たうは(一)道樂(一)名。其道を味ひて樂み耽ること。好事。ものずき。よからぬ遊興に耽ること。放蕩。放埒。遊蕩。一ばうず(一)坊主(一)名。墮落破戒の僧。一むすこ(一)息子(一)名。道樂なる少年。蕩子。たうは(一)蠟燭(一)名。うごきみだるること。又うごかしみだること。たうは(一)棠梨(一)名。こりんごに同じ。たうは(一)桃李(一)名。ももとすももと。

たけ

たけし「猛」形一強し。勇まし。はげし。あらし健。
たけす「竹簀」名竹にて作りたるすのこ。
たけすがき「竹簀垣」名竹のすがき。
たけすがた「丈姿」名身のたけとすがたと。
たけすだれ「竹簾」名竹を細く割き編みて作れる簾。湘簾。
たけすのこ「竹簀」名たけすに同じ。
たけそかに「適」副。たまさかにに同じ。
たけだ「いづも」竹田出雲一名は清定。千前軒と號す。元祿の頃、近松に次ける院本作者にして、大阪操芝居竹本座の座主たり。寶曆六年歿。年六十六。
たけだ「かうんさい」武田耕雲齋。水戸齊昭に任へ、夙に勤王を主張す。元治元年幕府の爲に刑せらる。年六十一。
「はるのぶ」晴信。信玄と號す。戰國時代の驍雄たり。天文十六年上杉謙信と河中国に兵を交へて久しく解けず。後徳川氏と争ひ、天正元年三河に入り野田城を圍むに及び、銃丸に中りて歿す。年五十三。
「びし」菱。名紋所の名。四つの菱形を菱形に組合せたるもの。甲斐の武田氏の紋所なるより名づく。
たけたかゆび「丈高拵」名なかつゆびに同じ。
たけだけし「形」二甚だ猛し。しぶとし。ぶぶとし。ぶうぶうし。

たけ

たけだち「丈立」名立てるときの身の高さ。
丈の高き程合。
たけたば「竹束」名竹を束ねたるもの。竹を束ねたる桶。銃丸矢石などを防ぐに用ゐる。
たけつ「多血」名体内に血の多きこと。感動し易きこと。激昂し易きこと。同情深く、獻身的性質に富むこと。
「かん」漢。名多血質の男子。
「しつ」質。名性質の一。快活にして活潑なれども性急軽躁にして、忽ち熱し忽ち冷め、忍耐力に乏しきもの。
たけつ「竹筒」名竹を切りてつくりたる筒。
たけつ「ばう」竹筒。名竹筒前に同じ。
たけつ「な」竹筒。名たけなはに同じ。
たけな「が」丈長。名紙の名。奉書紙の類にして厚く糊氣なくして丈長し。丈長を疊みて作れる根がけ。少女の髪飾に用ゐる。
たけながし「竹流」名昔時金銀を溶して竹筒に鑄込み、適宜にきりて通貨とせしもの。
たけなは「竹繩」名竹を薄くへきて摧き、繩に編みたるもの。火繩などに用ゐる。
たけなは「閉」酒宴の最中に。
「物事の盛にして未だ衰へざる時。さいちゅう。もな。物事の盛り過ぎて、更たけて。
たけのこぎり「竹鋸」名竹にてつくりたる鋸。昔たけのこびきの刑に用ゐたるもの。
たけのこびき「竹鋸」名昔の極刑の一。たけ

たけ

のこぎりにて罪人の首をひき切りたるもの。
たけばうき「竹帚」名たかばうきに同じ。
たけはしご「竹梯子」名梯子の兩側の材を竹とし横のきを木材にて造りたるもの。
たけはしら「竹柱」名竹のはしら。
たけはやし「竹林」名たかばやしに同じ。
たけぶ「嗟」自動。八四。猛く叫ぶ。たけりさげぶ。
たけぶ「安協」名おろちあひをつくること。和談の調ふこと。
たけぶん「が」武文蟹。名動。元弘の亂に尊真親王の臣、泰武文といふ人大物浦にて死し、化して此蟹となりたりとて名づく。へいけがに同じ。
たけべん「んじや」建部神社近江國にある官幣大社。大己貴命、天明玉命、日本武尊を祀り。
たけべら「竹篋」名竹にて作りたるへら。
たけみつ「竹光」名竹を削り刀身に擬して作りたるもの。
たけん「他見」名他人の見ること。「一を憚る」。
たけん「他言」名他人にはなすこと。たごん。
たけん「多言」名口數多きこと。しゃべること。
たけん「ちん」多元論。Pluralism。名哲。宇宙本源を多數の實在に歸する説。
たけ「竹屋」名竹を賣る人。又その家。
たけ「やうじ」竹楊子。名たかやうじに同じ。
たけ「やぶ」竹藪。名たかやぶ。たかばやし。

けけやまち「竹屋町」名織物の一種。粗き紗地に平金糸を以て模様を刺繡したるもの。多く掛物表装の文字、風帯に用ゐる。
たけ「やらい」竹矢來。名竹にて結へる矢來。
たけ「やり」竹槍。名竹幹の先端をそきて尖らせ油を塗り炙りて槍に代へ用ゐるもの。
たけり「猛」名漢方醫にて獸類の陰莖を藥用とする稱。
たけり「田島」名動。鳥の一種。嘴は黒く頭上に長き冠羽あり、往々羣をなして水田或は沼池に棲む。いぬけり。なべけり。
たける「梟師」名上古一羣の夷族の長を呼ぶし語。「川上」。
たける「猛」自動。四猛くなる。つよくなる。
たける「長」自動。力下。たくの轉。
たけを「丈夫」名ますらを。
たこ「蝸」名動。軟體動物。體短くして圓く八脚長大にして脚毎に二條の吸盤あり、又眼口は大きくして身と脚との間にあり、全身白くして赤みあり、煮れば深紅となる。いひくも「かひ」てなが一等の種類あり。鱈。章魚。鯨。割栗又は大玉地形などを突き固め又は杭打などに用ゐる具。形蝸に似たるよりいふ「のき」木。名種。熱帯地方に産する木。分枝し又は纏繞し太き氣根を簇生して其狀



蝸に似たり。葉は薄又は帽子を編むに用ゐる。榮蘭。
「のまくら」枕。名動。棘皮動物。海中に産す。形圓く扁くして大四五分より二三寸に至る。灰白色にして全面に短棘あり。海燕。
「肝」名手足などの皮膚の摩擦によりて。
「馬背」名馬の背上に生ずる瘡。
たこ「風」名いかのぼりに同じ。
たこ「橋桶」名水又は肥料などを入れ繩をつけて棒にて橋桶。たんご。田籠。
「のぼう」棒。名たごを擔ぶ棒。てんびんぼう。あふご。
たこ「田子」名田におり立ちて耕作する人。
「のかけなは」懸繩。名田植の時田の境に延ぶ繩。
「吹」。
たこ「唾壺」名唾を吐く壺。
「煙草盆」の灰だこ「打鼓」名太鼓を打つこと。
たこ「がしら」名かしがしらの轉。
たこ「からけ」蝸絡。名着物の裾のまはりを高くまくらるること。
「國。他郷」。
たこ「他國」名我が生國にあらざる國よそのたこ「し」手輿。名手にて昇く輿。てごし。腰輿。
たこ「づきん」蝸頭巾。名まるき頭巾。
たこ「つば」蝸壺。名蝸を捕ふる器。素焼の壺に桐の木のうちけ浮をつけ海中に沈め置き蝸の白ら其中に入るを捕ふ。

たこに「ふだう」蝸入道。名蝸をいふ。其頭の圓くして入道の頭に似たるより此名あり。
「轉じて坊主頭のものに嘲りいふ。
たこ「ぼうず」蝸坊主。名前に同じ。
たこ「ぶね」蝸船。名動。軟體動物。暖國の海に多し。身は蝸に似て自在に海面に游泳し又海底に匍匐す。雌は別に薄き殻あり、殻の形はあうむがひの如く黄白にして文理あり、背部の二觸手は蹠狀をなし雄は介殻なく其一觸手は變形して交尾の用をなす。紅魚。
たこ「まくら」蝸枕。名たこのまくらに同じ。
たこ「むら」手排。名うでに同じ。
たこ「ん」多恨。名うらみおほき。甚だのこりをたごん「他言」名たげんに同じ。
「しごと」。
たさい「多才」名才多きこと。心智のはたらき多きこと。「博學」。
たさい「多妻」名一人の男子にして二人以上の妻を有すること。「一夫一」。
「しを乞ふ語。
たさい「多罪」名罪おほき。過失無禮の計たさい「佗傑」名失望する。
「大に誇る。とださい「打碎」名うろくなくこと。
たさい「はうどうぶつ」多細胞動物。名(動)アミューバの如き單獨なる細胞よりなるものに對する語にして多くの細胞よりなる動物。即ち動物の多くの種類はこれに屬す。
たさい「ふ」太宰府。名古筑紫に置かれ、西海の九國二島を總管し兼て外交の衝に當りし

たた

たたみさし(一) 疊刺 名 疊を造る職人。
たたみさん(一) 疊算 名 占の遊戯。疊に指にて横に一線を引きて其疊の目数又は簪などを疊に投げ其落ちたる處より縁に至る目数の丁半によりて吉凶を定む。
たたみぼし(一) 疊梯子 名 折りたゝみの自由なる梯子。
たたみぼり(一) 疊針 名 疊を造るに用ゐる太きたたみぶぎやう(一) 疊奉行 名 徳川幕府の職名。殿中及諸役邸の疊の修繕及調製吟味等を掌りしもの。
たたみべり(一) 疊縁 名 疊のふち又は其ふちのたたみめ(一) 疊目 名 畳みたる折目。
布又は昆布をたゝみたるもの。酒の肴とす。疊布。
たたみものさし(一) 疊尺 名 折りたゝみをなし得たたみや(一) 疊屋 名 たたみを造る家。又造るたたむき(一) 腕 名 うで。
たたん(一) 多端 名 しことおほきと。
たたん(一) 多難 名 たんに同じ。
たため(一) 直目 名 目前に。眞向に。
たたよはし(一) 漂 名 形二 漂へる如く寄るべなし。落ちつかず。
ただよはす(一) 漂 名 他動サ四 ただよはしむ。ただよはす(一) 漂 名 自動ハ四 浮びて定まらず。
浮びたる如く迷ふ。

たた

たたら(一) 踏鞴 名 ふいご。
たたらあそび(一) 駄駄羅遊 名 勢金錢を惜まず遊蕩に消費すること。
たたらかす(一) 爛 名 他動サ四 たたらしむ。
たたらす(一) 爛 名 他動サ四 前に同じ。
たたらだいじん(一) 駄駄羅大盡 名 遊蕩にふたたらぼし(一) 婁宿 名 二十八宿の一。
たたらめ(一) 爛目 名 ただれめに同じ。
たたり(一) 絡塚 名 方形の木に柱を立てたるものを適宜ならべて縁をかくる具。縁臺。
たたり(一) 形 名 句欄の柱の上の肘木の上に置く料。
たたり(一) 祟 名 神佛又は怨靈及禽獸の精靈が人間に及ぼすといふ殃禍。
たたる(一) 祟 自動ラ四 たたりをなす。
ただる(一) 爛 自動ラ下二 ただれを生ず。
ただれ(一) 爛 名 病 上皮の炎症を起し發赤し分泌物を以て濕ふにより上皮剝奪を起し遂には潰瘍を生じ膿汁液の附着せる状態。
ただれめ(一) 爛目 名 眼などの皮肉破れたる眼。
たた(一) 太刀 名 一人又は物を断ち切るに用ゐる刃物。兩刃なり。
た(一) 魚 名 海に産する魚。ほかに似て長く刀身の如く薄く扁し。鱗なくして脊淡青く腹白し。長きは五尺に至る。
(をうのちた)



たち

する家。旅館。
貴人豪家の屋敷。
城の小なるもの。
たち(一) 立 名 立つこと。
旅立。かどて。
経過すること。
一月日の一。
消盡すること。
燭の。
たち(一) 質 名 ちまへ。性質。
たち(一) 質 名 智慧多きこと。
「一まさる」
たち(一) 立 接頭 或語に冠して語勢を添ふる語。
たち(一) 達 接頭 人数の多きを表す語。
「公一」
「皇子」
「語」
「二頭」
「の馬車」
たち(一) 立 接尾 或語に添へて己の意を表す。
たちあかし(一) 炬火 名 たてあかしに同じ。
たちあがる(一) 立上 自動ラ四 座を立つ。
互に争はんとするとき又は相撲などとりとする時。腰を起す。
たちあひ(一) 立會 名 たちあふこと。
たちあふ(一) 立會 名 たちあふこと。
「あけてつくりたる垣あふ人。
「がき」
「垣」
名 丸竹を數本づ、並べ間を「くわんり」
「官吏」
名 或場に立會をなす役人。
「さいばん」
「裁判」
名 特定人の立會にて「にん」
「一人」
名 立會をなす人。
たちあふ(一) 立會 自動ハ四 敵す。抗す。
事を檢閲せんが爲に二人以上會す。
互に出合ふ。立合ふ。
たちあふ(一) 立會 名 通はなあふひとも云ふ。枝なく葉に皺あり。花は形大にして紅紫白等あり。莖の皮の纖維を用いて供し又

たち

觀賞用として培養す。
賀茂葵の葉及花の象を以てせる紋所の名。
たちいづ(一) 立出 自動タ下二 出で行く。
たちいへ(一) 建家 名 たてや。いへ。
たちいり(一) 立入 名 はひること。
堂上の方方の家に親しく出入すること。
たちいる(一) 立入 自動ラ四 入りこむ。
關係たちいを(一) 太刀魚 名 動 たちのうをに同じ。
たちうち(一) 立打 名 立ち居て小銃をうつこと。
たちうち(一) 太刀打 名 太刀にて闘ふこと。
たちうち(一) 裁賣 名 きりうりに同じ。
たちうち(一) 立賣 名 路傍に立ちて賣ること。
たちうち(一) 太刀魚 名 動 たちのうをに同じ。
たちえ(一) 立枝 名 高く延びて立てる枝。
たちおくる(一) 立後 自動ラ下二 立つに時の後。
おかれて事をなす。
たちおくれ(一) 立後 名 おくれたること。
たちおと(一) 太刀音 名 互に打あふ太刀の音。
たちおよぎ(一) 立泳 名 水中に身を立つる一種の泳ぎ方。
たちかかり(一) 立掛 名 將に立たんとすること。
たちかかる(一) 立掛 自動ラ四 將に立たんとす。
たちかき(一) 太刀掻 名 たちにてうつと。撃刀。
たちかく(一) 立樂 名 庭上に伶人の立ちながら奏する樂。
たちかせ(一) 太刀風 名 太刀を振るにつれて起る風。

たち

たちかづき(一) 太刀撥 名 左の肩の中程の處の稱。
たちかはり(一) 立代 名 いかはり。交替。
「いりかはり」
「立代」
名 幾度も幾度も續きて變ること。
「さてあとにもどると。
たちかへり(一) 立返 名 返事。返歌。
行たちかへる(一) 立返 自動ラ四 へるに同じ。
たちかみ(一) 鬘 名 たてがみに同じ。
「じ。
たちから(一) 田税 名 田地の收穫に課せらるたちから(一) 手力 名 うでのちから。
「る税。
たちがらし(一) 立枯 名 たちかれ。
たちがらみ(一) 太刀絡 名 革又は藤蔓などにて環につくり鎖に附して太刀をしぼりつくるもの。
たちかれ(一) 立枯 名 木が立てるまゝにて枯ること。又其木。
たちき(一) 立木 名 土地に生ひたる木。
たちきえ(一) 立消 名 火の消ゆること。
事のなかにしてやむこと。
たちきき(一) 立聞 名 立ちて話を聞くこと。
物陰にて人の話を盗み聞きすること。
たちきく(一) 立聞 他動カ四 話をぬきききす。
たちきび(一) 立黍 名 種 たうもろこしに同じ。
たちきみ(一) 立君 名 つじぎみに同じ。
たちきる(一) 断切 他動ラ四 せきりはなす。
間をしきる。限る。
たちく(一) 立潜 自動カ四 ぐるに同じ。
たちくだる(一) 立下 自動ラ四 くだるに同じ。

たち

たちぐ(一) 立食 名 立ちながら物を食ふこと。
たちぐらみ(一) 立暗 名 急に立上りたる時めまひのこと。
「れざるもの。
たちけ(一) 立毛 名 圍場の作物の未だ收穫せらたちこす(一) 立越 自動サ四 たちこゆに同じ。
たちこむ(一) 立籠 自動マ四 すべて物のさばいになれるをいふ。いりこみ。
たちこゆ(一) 立越 自動ヤ下二 こゆに同じ。
たちさかゆ(一) 立榮 自動ヤ下二 さかゆに同じ。
たちさや(一) 太刀鞘 名 たちのさや。鞘。
たちさる(一) 立去 自動ラ四 さるに同じ。
たちさわぐ(一) 立騒 自動カ四 さわぐに同じ。
たちしのみち(一) 縦道 名 たてのみち。南北に通ずる道。
たちすくみ(一) 立疎 名 立ちすくむこと。
「ホトケ(齋宮の忌詞)
「すくむ。
たちすくむ(一) 立疎 自動マ四 立ちたるまゝにてたちそばの(一) 立爪 名 爪をなして冠する語。
たちつかひ(一) 太刀遣 名 太刀を自由につかふこと。又其人。
たちつけ(一) 裁着 名 たつつけに同じ。
たちど(一) 立處 名 立ちたること。
たちどころ(一) 立所 自動ラ四 進むく足を踏みとむ。とまる。
たちとり(一) 太刀取 自動カ四 切腹の介錯人。
罪囚の首を切る人。
横綱力士の土俵入りの

紅色の花を開き小にして總をなす。葉の圓きを藍細きを柳といひ、共に辛味ありて食用に供す。種類によりて眞木一の別あり。食ふ蟲も好き好き。人により好みの異なるを云ふ。

たて(伊達)名 へでにふるまひ意氣を競ふこと。みえを張ること。飾り粧ふこと。はて。華美。模様。かざり。裝飾。大小をいふ。

たて(着)名 はれのきもの。派手なるもの。たて(接尾)他語に添はりて名詞とし其物の風體あるを示す語。隠し。上手。

たて(あかし)炬火(立明)名 たいまつの類。たて(あき)帯刀名 たちはきの音便。

たて(あひ)立合名 たてあふ。はりあふ。たて(あふ)立合名 たてあふ。はりあふ。たて(あみ)立網名 ぢあみに同じ。つく。

たて(ある)蓼藍名 種あみに同じ。たて(い)安定名 やすらかに定まると。たて(い)立石名 庭園に立てたる石。しるべ石。道程又は方向を示したる路傍の碑。

たて(いた)立板名 立てたる板。云々。たて(い)水。水。辯舌に澀りなす。たて(いと)経糸名 織物の一半を形成する糸。即ち織物の兩側にある耳と平行して並列せる糸。

たて(う)駝鳥(名動)外形鶴に似たる鳥にせる様。

たて(さん)堅棧名 唐戸の左右の堅框に平行せる様。

たて(し)立師(名)或劇中にて最も藝に長じたる役者。

たて(し)伊達師(名)運だてなる藝に長じたるたて(し)とみ(立部)名 板塀の類。柱を立てた間に部格子二枚づゝ立つるもの。但し外構の垣には用ゐず。中古殿舎の簀子の前、坪内などに立て外より室内の見えすかためたにせり。

たて(し)なやま(立科山)信濃國にあり。たて(しま)堅縞名 色糸の堅に入れてあるもの。たて(し)や(伊達者)名 華美を好む人。みえを張る人。

たて(し)ゆう(伊達衆)名 華麗を好む人々。又たて(ず)蓼醉名 蓼の葉をすりて酔に混じたるものにして食物に注ぎて食す。

たて(ず)な(立砂)名 葬儀又は貴賓の送迎に門側などに盛る砂にして編笠の形とし、轆轤をもたせ掛くるものなりといふ。今は形式のみとなれり。もりすな。たて(た)し(建足)名 母屋に添へて建てたる部分。たて(た)し(形)名 二かどかどし。すなはたらす。心はなほ昔に變らずかりけるなり。

して翼を使用する能はず。脚太く且つ強くして走ること速なり。指は二本のみ。丈は七八尺に至り草又は蟲を食す。熱帯地方の沙漠に棲息す。人は運送又は乗用に供す。羽は黒と白とを混へて長し。裝飾用に供す。



たて(う)す(立白)名 大なる据置き臼。米などをたて(えい)さう(堅詠草)名 和歌書式の一料紙は檀紙小奉書等を用ゐる。紙を二つに折りたるを又五つに内へ折り、初めの行に名を記し次の行に歌題を一行に書き次に上の句を一行に下の句を一行にかく。

たて(かく)立掛(自動)カ下二立て、他の物に寄りかゝらしむ。もたらす。たて(か)ける(立掛)他動カ下二立て、たて(か)くのたて(が)さ(立傘)名 長柄の傘。中古は貴人馬上の時さしかけたるものを徳川時代大名は多く駕籠に乗りたれば之をすぼめて袋に入れて供の小者に擔がせたり。又笠笠とて笠を棒の先端につけ袋を覆ひたるものあり、貴人の行列の飾りとす。

たて(か)ら(ガ)堅瓦名 面のひらたき瓦。壁のたて(か)ふ(立替)他動カ下二他人に代りて物品を出し錢を支拂ひ置く。たて(か)ふ(建替)他動カ下二家など建てたは

間なきやうに閉づ。かたくとどす。つづけざまに行ふ。しつづく。たて(つけ)立付(名)月障子のとどされて柱と合ふ工合。つづけざまに行ふこと。たて(つ)ば(建坪)名 家の建てる部分のみの坪たて(て)立(副)おもに。ことに。好ませたて(と)ど(立處)名 たる場所。たて(と)ど(立)堅樋名 屋根より雨水を導くため地に流れ落ちるやう設けたるとひ、又は土管にて排水溝に導くもの。

たて(と)ほ(立通)名 たてとほすこと。たて(と)ほ(立)立通(他動)カ四終りまで立て、居る。休みなく立つ。初めの主張を變ぜず貫く。おしとほす。たて(な)が(立)蓼流名 蓼を春きて水に温じ汁を川に流し、弱りて浮きたる魚を捕ふること。たて(な)む(立竝)他動カ下二立ちならはしむ。たて(ぬ)き(経緯)名 縦糸と横糸と。たて(よ)こ(立場)名 驛路の中にて人夫が杖を立て駕籠長持等をとめて休む場所。古物商等が日々買ひ集めたる物品を賣る問屋。[層屋の]

たて(ち)や(茶屋)名 立場にある休息所。たて(は)き(帯刀)名 たちはきの音便。たて(は)て(立)立羽蝶(名動)赤褐色の羽に黒點ある蝶。たて(は)な(立花)名 佛に供ふる花。

たて(か)ふ(立飼)他動カ下二大切に飼養す。たて(か)へ(立替)名 たてかふる。又たてかへたる財物。たて(か)へ(建替)名 建築しなほすと。又改たて(が)ま(堅框)名 月障子等の左右兩側に在る堅の木。

たて(が)み(鬣)名 馬獅子等の首の上縁。項より鬣甲の前方に達する部にある長毛。たて(ぎ)伊達着(名) はてなる衣服。はれぎ。はてに見ゆる服装。

たて(き)立切(他動)カ四立てとほす。おしとほす。尻せず貫く。しきる。へだつ。たて(き)る(閉切)他動カ四全くとどす。しめきる。とどして開かぬ様にする。

たて(く)建具名 戸障子襖などの如き家屋内に於ける室々のしきりのもの。たて(く)伊達釘(名) 飾り釘。

たて(く)び(項)名 うなじに同じ。たて(こ)み(立込)名 こみあひ。たて(こ)む(立込)自動カ四こみあひ。たて(こ)む(閉込)他動カ四戸障子等をしめこたて(こ)も(閉籠)自動カ四城中にありて防ぎ守る。籠城す。中にて首位にあるもの。たて(さ)く(立作者)名 座附の作者のたて(さ)ま(縦様)名 たてのありさま。

たて(ひ)き(立引)名 意地づくにて立替ふると。意地張ること。たて(ひ)く(立引)他動カ四立引をなす。たて(ひ)やう(立兵庫)名 専ら遊女の結ぶ髪のかみ形。

たて(ひ)わ(蓼鷲)名 普通ひわより稍大にして全身の處々に黄色の部分あり、麻の實を好みて食ふ。たて(ふ)蓼斑(名) 鷹の羽にて青味あるもの。たて(ふ)堅筥(名) 横笛に對する語にして尺八の如く堅にして吹くものを云ふ。

たて(ふ)だ(立札)名 衆人に示すべき事を板などに書きしるして路傍に立つるもの。たて(ぶ)み(立文)名 ひれりぶみともいひ杉原紙鳥の子紙又は薄葉などの全紙に認め細く巻きたるを包紙にて堅に包むより名づく。

たて(へ)う(立表)名 軸物などのたて長き表装。たて(は)し(立乾)名 遠淺の海岸の水中に簀又は綱を張り廻し魚の逃げざる様装置して潮干の後魚を取り集むる法。建干綱。

たて(ま)い(建米)名 米穀取引所にて賣買取引の標準として定められたる米。標準米。たて(ま)だ(奉)自動カ四たてまつるに同じ。たて(ま)つ(上書)名 じやうしよに同たてまつる(奉)他動カ四物を贈るときに敬

の頃支那より傳はりたることなるが我が國の神代に傍幡姫などいふ神ありしより織女の文字を其の神に附會して兒女等の紙絲を獻りて裁縫の上達を祈りしものなり。乞巧奠。
 一をどり(一踊)名 棚旗祭に少女の集りて行ふをどり。
 たなびく(一棚引)自動カ四横に長く引く。
 たなひち(一手舩)名 ひち。
 たなぶるまひ(一店振舞)名 商家などの移轉祝ひの宴會。
 たなまた(一手股)名 指の間を云ふ。
 たなん(一多難)名 災難困難等多きと。
 たなもの(一店者)名 番頭手代など商家に勤たならし(田均)名 田を平にすると。「むる者たなれ(一手馴)名 物のあつかひなれたる。「一の道具(一練熟)名 飼ひ馴れたる。「一の駒」たなる(一種井)名 稻の種を浸す爲に田の側に掘る井戸。
 たに(一谷)名 兩分水嶺間の凹地帯。山と山との間の低き土地。たにがは。連(一連)屋根にて二流れの會する所。又瓦の面の反りたる。「の」と「一」月名 谷に同じ。「所」の」とぼそ(一扉)名 谷間の家。
 たに(一藪)名 叢中に生じ牛馬又は犬に着きて皮膚に食ひ入る小蟲。足は八肢あり黒白の斑を有す。寄生生活を營み、唯宿主の血液によりてのみ生活す。今多くたにと訛る。

たに(一商布)名 貨幣なき時代に物品の交換の媒として用ゐたる布。
 たに(一ぶん)てう(一谷文晁)畫家。寫山樓畫學齋の別號あり。天保十二年歿。年七十八。
 だに(一荷駄)名 馬に負せて送る荷物。
 だに(一助)輕き例を擧げて重きに比ぶるてにをば。古今集「深山には松の雪消えなくに都は野邊の若菜摘みけり」
 たにあひ(一谷間)名 たにに同じ。
 たにうづぎ(一楊楯)名 山地に自生す。葉は對生し楕圓形にて尖り下面に毛を密生す。花冠は五裂し赤色を呈す。觀賞用として栽培せらる。へにうづぎ。
 たにうづぎ(一谷間)名 屋根の谷に用ゐる特種 Daniell's battery 名 湿度計の一種。英人 Daniell の發明に係るを以て此名あり。兩脚の長さ異なる風曲せる硝子管あり其兩端球状をなし管は柱上に支へらるるものとす。管内にはエーテル液を少しく入れ空氣を排除し長脚内及支柱には寒暖計を備ふるものとす。
 ダニエル電池(Daniel's cell)名 (一電池)名 硝子器中に濃厚なる硫酸銅の液を入れ内に圓筒形の銅板を立て其中央に稀硫酸の液を入れたる素燒の器に亜鉛棒を挿入したるを置きたる電池にして銅を陽極、亜鉛を陰極とす。

たにおろし(一谷風)名 谷風に同じ。
 たにかぜ(一谷風)名 谷より吹き出づる風。
 (一地)日中山腹の空氣暖くなるに隨て稀薄となりたるを谷間の冷き空氣これを補ふために山に向ひて起る風。
 たにかは(一谷川)名 谷間の流水。溪流。
 たにかは(一谷川)名 谷川土清名は昇。淡齋と號す。伊勢の人。山崎派の神道を學びまた和歌をよくす。安永五年歿。年七十。
 たにぎる(一手握)名 他動ラ四手にて握り持つたに(一多内)名 肉厚く多くつけると。
 たにく(一多内)名 肉厚く多くつけると。
 一(一えふ)名 一葉(一葉)名 養分を葉に貯へ肉あつきもの。即ち百合の地下莖につける鱗片の如きこれなり。
 一(一くわ)名 一果(一果)名 肉質なる果皮を有する果實。櫻又は梨の實の如き是なり。
 たにく(一谷臺)名 谷口燕村(俳人にして畫をよくせり。名は信章。字は春屋。夜半亭と號す。天明三年歿。
 たに(一田螺)名 水田に棲息する貝。介殼は稍圓錐状をなせる螺。旋形を呈し外面黒色にして内面は蒼紫色なり。殻口廣くして角質の唇を有す。たに(一谷底)名 谷の底。「肉は食ふべし。たに(一そば)名 谷のかけ。



たにぶところ(一谷懷)名 山間の谷深く凹まりたに(一谷邊)名 谷のあたり。「たる處」
 たにま(一谷間)名 山間の低き處。
 たにみづ(一谷水)名 谷底を流るる水。溪水。
 たにん(一人)名 己れ以外の人。血族關係なき人。事に關係なき人。
 一のそらに(一空似)名 血族關係なきに容顔のよく似て居ること。
 たにんず(一人)名 多人数。おほいの人。人かず多たに(一谷渡)名 山野に生ず。一根本より叢生し高さ二三尺に及ぶ。葉は萩に似たり。夏期に紅紫色の小花を開く。
 たぬき(一手貫)名 手の類。手にはむるもの。
 (一魔)名 臂端。
 たぬき(一狸)名 (一動)形狐の如くにしてやゝ小さく毛色は暗灰色にして黒褐なる長毛を混生す。口尖り尾太く四足犬の如し。肉を食して生く。頭鬣は肉臭氣ありて食ふべからざるも頭瘦せたるは食用とするを得。古來傳へて人をばかすと云ふ。欺き伴る人を云ふ。
 たぬき(一狸汁)名 甘露の皮を剥きておろし水氣を去り少許の葛粉をまぜて油揚として別に茹蕪牛蒡豆腐を入れて味噌汁としたるもの。
 たぬき(一狸寐)名 狸寐。伴睡。
 たぬき(一狸婆)名 老婦を罵りて云ふ語。(昔噺に狸化けて老婆となれりと云ふに出づ)

たぬき(一狸豆)名 原野に自在する草。葉は互生し披針形をなし下面に短き絹様の毛を具ふ。花冠は蝶形にして淡碧色を呈す。近年觀賞用として栽培せらる。
 たぬし(一田主)名 田地の持主。
 たぬ(一樂)名 形たのしに同じ。
 たぬ(一胤)名 動物發生のもと。血統。
 たぬ(一種)名 俗に核。植物の發生する原となるもの。種子。物を作成するものと。パンの「一」名 事の起り。思ひの「一」名 設備。手品の「一」名 油。
 たぬあぶら(一油)名 菜種を搾りて取りたるたぬいた(一板)名 寫眞に於て事物を撮影すべき原板。又陰畫を得たる硝子板、或はセルロイド板。
 たぬおろし(一種卸)名 種下。たぬまき。
 たぬかうち(一糖)名 清酒醬油味噌等の醸造に於て麴を製造するに當りこれに加ふる原種。麴菌と稱する微菌を蒸米の表面に播種せしめ十分に其芽胞を生成せしめたるもの。もやし。
 たぬがき(一種柿)名 賭事の一。柿の中にある種の數の奇數又は偶數を豫め云ひあつる事によりて勝負を競ふ遊。
 たぬがし(一種子島)名 鳥銃の異稱。(天文年中葡萄牙人初めて大隅種子島に來りて傳へしより云ふ)

たぬがは(一胤)名 胤變。名 母同じくして父の異なる兄弟姉妹。異父。
 たぬがみ(一紙)名 蠶蛾の卵を産みつけたる紙。蠶卵紙。
 たぬせん(一錢)名 錢の鑄型を作るに用ゐるたぬちがひ(一胤)名 たぬがはりに同じたぬとり(一種取)名 子を生ましむる爲に飼養するもの。新聞雜誌の材料を探りあつむると。又其人。探訪者。
 たぬどり(一胤鳥)名 子を生ましむる爲に飼養たぬぼん(一種版)名 たぬいたに同じ。
 たぬぼん(一種本)名 著作講義書畫の根據となす書物。
 たぬまき(一種時)名 種をまき付くること。八十八夜前後に稻の種を苗代に蒔くこと。
 たぬん(一多年)名 久しき年月。年數の多きと。
 一(一こん)名 一草(一草)名 宿根草に同じ。
 一(一せい)名 一生(一生)名 宿根に同じ。松柏などの如く幾多の年月を費して生を了るもの。
 たぬん(一他年)名 後年。またの年。
 たぬん(一他念)名 外心。餘念。ほかごころ。
 たぬもの(一種物)名 蔬菜及び穀類の草木の種子。玉子とち又は天鉄羅蔞蔞其他菜物を加へ汁を多くしたる蔞蔞の總稱。
 一(一や)名 一屋(一屋)名 種子物を賣る家。
 たぬわた(一種綿)名 綿線にかけずして種子

たひ(手火)名たいまつの類。
 たひ(躲避)名兵同一の火兵を用ひ同一の
 状況によりて多数の弾丸を發射する時各射
 彈と平均彈道との間に生ずる偏差。
 だ・び(茶毘)名(佛)梵。閩鼻多の略。焚燒と譯す
 火葬をいふ。一。一片の煙。
 一しよ(一)所。名火葬場。
 たひあきうど(旅商人)名旅をして商ふ人。
 行商人。たひあきんど。
 たひあきなひ(旅商人)名商品を持ち諸國
 を巡りて商ひすること。行商。
 たひありき(旅行)名諸國をめぐり歩くこと。
 たひうど(旅人)名たびびとの音便。
 たひかさなる(度重)自動ラ四度數重る。
 たひかず(度數)名どすう。回数。「出稼。
 たひかせぎ(旅稼)名他國にゆきて稼ぐこと。
 たひがらす(旅鳥)名他の地より飛び來りた
 る鳥。轉じて他所より他所へと常に移りかはり
 て生活せる人を嘲りて言ふ。「つけたる玩具。
 たひぐるま(綱車)名はり。この綱に車
 たひけいしや(旅藝者)名旅稼の藝者。
 たひけいにん(旅藝人)名旅稼の藝人。
 たひこうぎやう(旅興行)名他國を巡り
 する興行。
 たひごち(旅心地)名たひにあるごち。
 たひごろも(旅衣)名旅行する時に着る衣服。
 たひさき(旅先)名旅行せる場所。「客衣。

たひしガハラ(石瓦の義)數にもあら
 め下賤の民の稱。
 たびしたく(旅仕度)名旅行に關する凡て
 の用意。旅行をなすみなり。旅装。
 だびしほ(旅芝居)名諸國を巡りてなす芝
 居。旅興行の芝居。
 たびしやうぞく(旅裝束)名旅行する時
 の衣服。
 たびしよ(旅所)名祭禮に神輿を暫く駐むる
 たびすがた(旅姿)名旅裝束をなせる姿。
 たびすずり(旅観)名旅行中携帶する観。
 たびすまひ(旅住)名旅先の住居。たび
 やどり。旅寓。
 たびすまふ(旅相撲)名旅興行の相撲。
 たびすみ(旅住)名たびすまひに同じ。
 たひせんべい(綱煎餅)名綱の肉にて煎
 餅の如く製したるもの。
 たびソウ(旅僧)名旅行せる僧侶。客僧。
 たびだち(旅立)名旅に出立すること。門出。
 出立。首途。
 たびだつ(旅立)自動ラ四立をなす。門出す
 たびたび(度度)名同じしばしば。毎度。
 たびたまふ(賜給)他動ハ四たまふに同
 じ。
 たびぢ(旅路)名旅行する路。旅中。旅
 たびづかれ(旅疲)名旅行中のつかれ。
 たびづと(旅苞)名旅行して得たるみやげも

の。旅行みやげ。
 たびと(旅人)名たびびとに同じ。
 たびと(田人)名田を作る人。たご(田子)。
 たびどころ(旅所)名旅のやどり。旅宿。
 たびね(旅寢)名旅路に寝ること。露宿。
 たひのむこげんばち(海産)名(動)海底岩石
 の間に産する魚。形小鯛に似て圓くして肥り
 皮を剥きて食ふ肉硬く味美ならず。おにだひ
 たひはだし(足袋跳足)名履物をはかず足袋
 のまゝにて地を歩む。
 たひばり(田雲雀)名(動)雲雀よりやゝ小さく
 全身灰色にして胸部のみ卵色なる鳥。いな
 び。いぬひばり。
 たびびと(旅人)名旅路にある人。旅行せる
 人。旅客。たびうど。「る半製の袋。
 たびぶくろ(旅囊)名馬の鞍の左右につけた
 たびま(度間)名あひだ。ひま。
 たびまくら(旅枕)名たびねに同じ。
 たひみそ(綱味噌)名鯛の肉を碎きて味
 噌とすり交したるもの。
 たひめん(綱麵)名鯛の肉を索麵に交へ
 て煮たるもの。「ため火をたく小屋。
 たびや(鹿火屋)名秋、獸の田圃を荒らすを防ぐ
 たびやう(多病)名よく病氣になると。病
 がちなると。「才子」。「やどや。旅宿。
 たびやかた(旅館)名旅人の止宿する家。
 たびやくしや(旅役者)名旅興行せる俳優。

たひやつれ(旅囊)名旅行中の疲勞による顔
 貌のやせ衰へ。
 たひやどり(旅宿)名旅のやどり。旅館。
 たひゆき(旅行)名旅をなす。一。ごころも
 たひよそほひ(旅装)名たびびと。
 たひら(綱)名高低なきこと。たひらかなる
 こと。ひらなきこと。山間にある平地の稱。建
 除十二辰の一。此日は婚禮。移徙。道路を
 修め。壁を塗る等に吉にして溝を掘り種を蒔
 く等に凶なりといふ。
 たひら(綱)名桓武天皇の皇子葛原親王
 より出でたる姓。
 (一)のきよもり(清盛)忠盛の子。保元平
 治の亂に功あり累進して太政大臣に任ぜら
 る。仁安三年出家し。名を淨海と改む。治承
 四年安德天皇を擁立し都を攝津の福原に
 移し。が。幾もなくして京都に復せり。後源頼
 朝東國にて兵を擧ぐるや憂懼病に瘡る。
 (一)のしげもり(重盛)清盛の長子。資性
 忠謹にして温厚。戦功により累進し治承元
 年左近衛大將に任じ。尋で内大臣に拜す。父
 の後白河法皇を幽せんとするを諫めて聽かれ
 ず遂に疾をなして薨す。年四十二。世に小松
 殿と稱す。
 (一)のただもり(忠盛)正盛の子。白河。
 堀河。鳥羽の三朝に歴仕して院昇殿を許さ
 るるに至る。仁平三年卒。年五十八。

(一)のまさかど(將門)鎮守府將軍平良
 將の三子。攝政忠平に仕へ檢非違使たらん
 と欲して得ず。關東に下りて兵を擧げ。偽宮を
 下總猿島郡石井郷に造り自ら新皇と稱し
 たありしが。天慶三年。伯父國香の子貞盛の
 爲に射殺せられたり。
 (一)のむねもり(宗盛)清盛の子。安德
 帝即位後。外戚を恃みて威權を逞うす。壽永
 二年源氏の軍將に京師に入らんとするや。乃
 ち劍璽を收め。帝及建禮門院皇弟守貞を
 奉じて。一族と共に西奔し遂に壇浦に漂泊す
 るに至りしが。子清宗と共に捕はれて鎌倉に
 送られ後。近江國藤原に斬らる。年三十九。
 たひらか(綱)名高低なきこと。ひらたき
 こと。たひら。おだや。やすら。ひら
 としきこと。おなじきこと。満足すること。こ
 ちよきこと。公平なること。
 たひらぎ(玉珮)名(成)名なかなほり。和睦。
 たひらぎ(玉珮)名(動)海産の貝。形どぶ
 がひに似て大きく長さ一尺餘。殼薄くして黒
 く。其中央に肉柱あり。白く圓く味美なり。た
 ひらがひ。あはし。かひ。
 たひら(綱)名(動)自動カ四。たひらかに
 をさまる。おだやかに。和睦す。他動カ
 下二。謀叛の軍を鎮定す。退治す。食ひつ
 ぐす。
 たひらけし(綱)名(動)自動カ四。たひらかに
 たり。

たひらこ(田平子)名(種)カハラけなに同
 じ。(動)たなこの一名。
 たひらに(綱)名(動)高低なく。ひらたく。
 たひら(旅居)名旅のすまひ。「織りたる布。
 たふ(太布)名しなのき或は楮の皮を紡ぎて
 たふ(答)名。こたへ。へんじ。返報。い
 しゆがへし。返禮。「人のなす答禮。
 (一)のはい(一)拜。名拜賀に來る人に對し主
 (一)のや(一)矢。名敵に射かへす矢。
 タフ(塔)名。佛教建築物の一。佛舍利を
 藏する爲のもの。死者を埋めたる處の標とし
 て建つるもの。率塔婆。
 たふ(綱)名。狭長なる狀。こしかけ。ねだ
 い。ゆか。しらぬの。
 たふ(地)自動ハ下二。當り得。なしあたふ
 任。しのぐ。こらふ。耐。勝。支へ能ふ。
 負擔し得。
 たふ(聾)名耳の下部のふくれたる所。みみたふ
 たふ(種)名種。たぶのきに同じ。
 (一)のき(種)名種。いぬくすに同じ。
 たふ(賜)他動ハ四。たまふに同じ。
 たふ(給)自動ハ四。たまふに同じ。
 たふ(食)他動ハ四。たふに同じ。
 たふ(備天)名氣の弱くして臆病なる人。なま
 けもの。孟。頑大廉。一有。所。立志。
 たふ(墮婦)名淫奔なる婦人。
 たふあん(答案)名問題に答へたる案文。

たふい(一)〔答意〕名 答への意味。
 たふおろ(一)〔答應〕名 ことへ。返事。
 たふく(一)〔多福〕名 幸福の多きこと。多幸。
 たふさ(一)〔腕〕名 手の先。即ち手首。「一の血をさしあやして」。「どり。」を取りて」
 たふさ(一)〔鬢〕名 髪を頂に束ね結ひたる處もと
 たふさい(一)〔搭載〕名 船に物をのせつむと。
 たふさぎ(一)〔贖身〕名 今の股引の如きものに古昔、陰部を掩ひしもの。下帯。
 たふし(一)〔手節〕名 手のふし。
 たふし(一)〔答辭〕名 返答のこと。挨拶のこと。式場等にて長上の式辭に對して答ふることは。
 たふし(一)〔答酬〕名 返禮。むくい。
 たふしん(一)〔答信〕名 答書。返信。
 たふしや(一)〔答射〕名 古、戦の手始めに敵より射たる矢に返しすること。
 たふじよう(一)〔搭乘〕名 船舶にのりこむと。
 たふす(一)〔倒〕名 他動サ四。立てるを横になす。ひかす。ころばす。殺す。死なす。他人に金銭上の損害を蒙らしむ。
 たふせん(一)〔搭船〕名 船に乗ること。
 たふだぶ(一)〔水〕名 水中にて動くさま。衣服などの大きく身にあはぬさま。
 たぶつ(一)〔駄物〕名 價値なきもの。つまらぬもの。ダブツ〔陀佛〕名 阿彌陀佛の略。

たぶつく(一)自動カ四 だぶだぶす。
 たぶけん(一)〔他物權〕名 他人の所有に屬する物の上に存する物權。我民法上認むるものは地上權、永小作權、地役權、留權、先取特權、質權及抵當權是れなり。
 たぶてん(一)〔飛機〕名 つぶての古言。
 たぶてん(一)〔答電〕名 返事の電報。
 たぶとさ(一)〔貴〕名 返事の電報。合。くらむ。
 たぶとし(一)〔貴〕名 形一。めでたく好したのし。よろこばし。品位高し。たぶとぶべし。價値高し。同じ。
 たぶとぶ(一)〔貴〕名 他動ハ上。たぶとぶにたぶとむ。貴尊。他動マ四。あがむ。おもたぶね(一)〔田舟〕名 田に用ゐる舟。「んす。敬ふ。タフバ(一)〔塔婆〕名 佛(梵)ソトバ。
 たぶはい(一)〔答拜〕名 他人より受けし拜禮にこたへてなす拜禮。
 たぶはう(一)〔答報〕名 ことへのしらせ。返事。たぶはう(一)〔答砲〕名 先方よりなせし禮砲にこたへて發砲すること。(軍艦等にて行ふ)
 たぶふ(一)〔答舞〕名 左方の舞に答ふる義舞。樂にて右方の舞の稱。
 たぶぶん(一)〔揚文〕名 石ずりなどの文字。
 たぶぶん(一)〔答文〕名 ことへの文章又は文書。
 たぶべん(一)〔答辯〕名 他人の問に對していひ返すこと。敵艦をいす。
 たばく(一)〔打撲〕名 うちたたくこと。毆打。しやう(一)〔傷〕名 打撲して生ぜざるたばさし(一)〔襠差〕名 婦人の襠を張り出すため其内に入る紙にてはたるもの。つとさし。つとはり。
 たばとめ(一)〔襠止〕名 襠の倒れぬやうに挟み置く又狀をなせる金屬製のもの。つとばさみ。
 たばはせ(一)〔魚〕名 體狹長にして長さ五六寸、背部に褐色及淡黑色の斑點あり。ちかばり。
 たばみの(一)〔襠〕名 たばに入る、毛のみの。たばめかし(一)〔襠〕名 たをやかなり。たわわしてあり。
 たばめく(一)〔撓〕自動カ四。たわわす。たばら(一)〔法螺〕名 無益なる誇大の言。
 たま(一)〔玉〕名 眞珠の特稱。古來裝飾の具として賞用せられたる寶石類の總稱。すべて物事をほめて言ふ語。一の顔二一の臺三一の形のもの、總稱。露の二一の眼の二一の銃砲の彈丸。卵の二一人を醜弄することに云ふ。一につかふ。
 一のあせ(一)〔汗〕名 汗の烈しく出で、玉の二のうてな(一)〔臺〕名 美はしきうてな。一のかうぶり(一)〔冠〕名 御即位の時

一しよ(一)〔書〕名 いひらきの旨を記したる文書。法口答辯論にて答辯せんとする事項を記載したる準備の、さきもの。
 たふほん(一)〔揚本〕名 いしすりにしたる本。
 たふみ(一)〔田文〕名 昔、田島の段別、山川、墓原等の地勢など記して施政に資する官府の文書。田籍。
 たふん(一)〔多聞〕名 物事を多く聞き知りて居るたふん(一)〔他聞〕名 他人の聞くこと。ひときき。外聞。一を憚る。
 たふん(一)〔多分〕名 數の多きこと。おほだふん(一)〔打扮〕名 姿をやつし装ふこと。
 たぶらかす(一)〔誑〕他動サ四。欺き惑はす。だますたぶる(一)〔倒〕自動ラ下二。立てるもの横になる。ふす。仆。死ぬ。斃。財産など損耗破産す。さうかひになる。
 たぶる(一)〔狂〕自動ラ下二。精神亂る。心くるふ。たぶる(一)〔魔振〕名 魔の身ふるひをなすこと。たぶる(一)〔手振〕名 手を振ふこと。
 たふれ(一)〔倒〕名 たぶること。
 一じに(一)〔死〕名 道路などに倒れて死ぬること。
 たふれい(一)〔答禮〕名 他人より受けし禮に對して挨拶すること。
 一はう(一)〔砲〕名 他よりの祝砲に對して返禮する爲に發する空砲。ひるせる心。たふれ(一)〔狂心〕名 亂れたる心。ものぐ

たふわ(一)〔答和〕名 ことへ。へんじ。返答。
 たふわ(一)〔答話〕名 他人のなしたる話に對してする話。
 たへ(一)〔梓〕名 多くかぢの木皮にて織りたたへ(一)〔妙〕名 極めて巧なる。又不思議なるたへ(一)〔田部〕名 古、諸國の御領の田を耕作する爲に置かれたる部民。
 たへかす(一)〔食滓〕名 くひのこし。たへがら。
 たへがたし(一)〔難堪〕名 忍びがたし。
 たへこもる(一)〔堪籠〕自動ラ四。堪へ忍びて籠り居る。今はと思ひは難きわざなり。
 たへしのぶ(一)〔堪忍〕自動ハ四。難き事にこらへしお。ひまんす。
 たへに(一)〔妙〕副すぐれて美はしく、すぐれてめでたく。音調の一。
 たべすぎ(一)〔食過〕名 くひすぎ。
 たべのこし(一)〔食殘〕名 食ひのこしたるもの。食たべん(一)〔多辯〕名 よく物言ふ。口數の多きこと。
 たべん(一)〔安辨〕名 をりあふ。安協。
 たべもの(一)〔食物〕名 くひもの。しよくもつ。
 たへる(一)〔堪〕自動ハ下二。たぶの轉。
 たへる(一)〔食〕他動ハ下二。たぶの轉。
 たへん(一)〔多邊形〕名 多角形に同じ。
 たへん(一)〔食醉〕自動ハ四。酒を多く飲みて酔ふ。
 たば(一)〔髻〕名 婦人の結髪にて髪を撓めて後方にたば(一)〔拿捕〕名 敵船又は中立國船舶にして封

鎖違反、戦時禁制品の輸送若くは戦時禁制品の海運に従事せるものを差押ふこと。捕へつかまふこと。敵艦をいす。
 たばく(一)〔打撲〕名 うちたたくこと。毆打。しやう(一)〔傷〕名 打撲して生ぜざるたばさし(一)〔襠差〕名 婦人の襠を張り出すため其内に入る紙にてはたるもの。つとさし。つとはり。
 たばとめ(一)〔襠止〕名 襠の倒れぬやうに挟み置く又狀をなせる金屬製のもの。つとばさみ。
 たばはせ(一)〔魚〕名 體狹長にして長さ五六寸、背部に褐色及淡黑色の斑點あり。ちかばり。
 たばみの(一)〔襠〕名 たばに入る、毛のみの。たばめかし(一)〔襠〕名 たをやかなり。たわわしてあり。
 たばめく(一)〔撓〕自動カ四。たわわす。たばら(一)〔法螺〕名 無益なる誇大の言。
 たま(一)〔玉〕名 眞珠の特稱。古來裝飾の具として賞用せられたる寶石類の總稱。すべて物事をほめて言ふ語。一の顔二一の臺三一の形のもの、總稱。露の二一の眼の二一の銃砲の彈丸。卵の二一人を醜弄することに云ふ。一につかふ。
 一のあせ(一)〔汗〕名 汗の烈しく出で、玉の二のうてな(一)〔臺〕名 美はしきうてな。一のかうぶり(一)〔冠〕名 御即位の時

天子の召さるる御冠。金を打延てつくり環路をつけたるもの。
 一のかほばせ(一)〔顔〕名 美しき顔。
 一のかんばせ(一)〔顔〕名 前に同じ。に同じ。
 一のかんむり(一)〔冠〕名 たまのかうぶり一のこし(一)〔輿〕名 貴人の乗る立派なる輿。富貴なる地位。氏なくして一のこゑ(一)〔音〕名 美はしくよき聲。
 一のさかづき(一)〔盃〕名 玉にてつくりたる杯。立派なる杯。一底なきが如し。
 一のすがた(一)〔姿〕名 うつくしき姿。
 一のちり(一)〔塵〕名 雪の美稱。
 一のとぼそ(一)〔福〕名 美しきとびら。又は美しき住居。たる如き石疊。立派なる庭。
 一のみぎり(一)〔砌〕名 美しき玉を敷きつめ一のみどの(一)〔御殿〕名 美はしき殿。
 一のみやこ(一)〔都〕名 美しき都。
 一のよどこ(一)〔夜床〕名 玉床に同じ。
 たま(一)〔魂〕名 たましひ。
 一のよどの(一)〔夜殿〕名 たまやに同じ。
 たま(一)〔適偶〕名 副助。たまたま。たまさか。
 たま(一)〔魂合〕自動ハ四。心よく合ふ。心意よく投合す。
 たま(一)〔玉編〕名 鎖編又は長編の編方を以て適宜に玉を作りつ、編むこと。帽子肩掛等の飾に用ゐる。
 たま(一)〔玉籠〕名 籠を玉の如く見たて

をさがし調ぶこと。又其役の人。探偵。
 一がかり(一掛)名物事を探索するかかり
 たんざく(短冊)名紙を細く裁ちて字を記し、物のしるしにつけたるもの。たんじやく。箋。和歌をしるす料紙。其表面に繪模様、金銀箔等を施し、一尺一寸五分幅一寸八分なるを常とす。たんじやく。
 一いし(一石)名短冊形のきりいし。「具」
 一かけ(一掛)名和歌を記せる短冊を懸くる
 一がた(一形)名短冊の如き細長き形。
 一どうふ(一豆腐)名短冊形に切れる豆腐
 たんさん(炭酸)名炭素と酸素との化合物。酸性反應ありて無水炭酸と水とに分解し易し。「金屬と置換せられたる化合物」
 一えん(一鹽)名炭酸を組成する水素の
 一かう(一坑)名炭酸瓦斯を噴出する坑。「瓦斯。即ち無水炭酸」
 一ガス(一瓦斯)名炭素と酸素との化合した
 一カリ(一加里)名炭酸カリウムに同じ。
 一カリウム(Potassium Carbonate)名カリウムの炭酸鹽にして溶解し易き白色の粉末なり。植物の灰中に多量に存在し、其水溶液はアルカリ性に富み、薬用に供せられ、其灰汁を洗濯用とす。
 一カルシウム(Calcium Carbonate)名カルシウムの炭酸鹽にして大理石方解石などとなりて天然に多く存在す。水には溶解せ

されども炭酸の溶液には溶解す。沈澱性のカルシウム末は齒磨粉を製する等に用ゐらる。
 一クレオソート(一結晶阿曹篤)名黄色透明粘稠の油状液。殆ど無味無臭無刺戟性にして吸収せられ易きが故にクレオソートの代用品として需用廣し。
 一し(一紙)名複寫用に供する紙。脂肪石蠟、母等と油煙とを混じて融合したるものを日本紙によく浸み込ませたるもの。
 一すゐ(一水)名清涼劑の一。炭酸瓦斯を多量に水に溶かしたるもの。「泉」
 一せん(一泉)名炭酸を多量に含有する鐵
 一ソーダ(一曹達)名ソーダに同じ。
 一ちゆうどく(一中毒)名空氣中の炭酸瓦斯量の増加せる爲に起る中毒。
 一ていりやう(一定量法)名空氣中の炭酸量の多少を計る法。
 一ナトリウム(名魚化)ソーダに同じ。
 たんざん(炭山)名石炭の出づる山。
 一だんざん(丹山)名山神社(大和國)にある別格官幣社。藤原鎌足を祀る。
 たんし(單子)名物質組成の本となる單一にして分つべからざる箇體。
 たんし(單思)名考へこむこと。
 たんし(短視)名ちりめに同じ。「ある語」
 たんし(食食)名食をむさぼること。「ある語」
 たんじ(嘆辭)名文法。感嘆の意を表はすに用

だんし(檀紙)名奉書紙の面に菱形又は横縦の皺を附したる紙。紙質柔く且つ白し。其面に皺あるを高檀紙といひ、大高、小高等の種類あり。みちのくがみ。
 たんし(彈子)名霰彈の中に裝填するたま。
 たんし(彈指)名つまはじきすること。
 たんし(男子)名をのこ。をとこのこ。
 たんじ(男兒)名前に同じ。
 たんじ(談次)名はなしのついで。
 たんし(短袖)名みじかき袖。
 たんし(男囚)名男の囚人。女囚の對。
 たんし(えふ)名單子葉(名種)一枚の子葉。
 一しよくぶつ(一植物)名種。種子より芽を出すときに單子葉を生ずる植物。
 たんじかん(短時間)名時間の短きこと。
 たんし(單式)名簿記にて貸借の意義を人名勘定にのみ用ひ、又取引につき貸借何れか一方のみを記入するもの。複式の對。「一簿記」
 一かうくわんき(一交換機)名交換機に設備せる加入者の電話回線裝置が唯一箇のジャック及表示器を成る單純なる回線にして交換手一人にて取扱ひ得る容量小なる交換機。
 たんじ(斷食)名佛。だんじきぎやうの略
 一ぎやう(一行)名佛。祈願などするに

日數を限りて食をたちて居ること。絶食すること。「一室」
 だんじ(擄食)名佛。飲食營養などをいふ。
 たんし(こしやう)名單食壺漿。名單は竹器にて辨當を盛るもの。漿を壺に容れて之に添ふるは旅行に携ふるものなり。旅行の準備をいふ。孟子「以迎王師」

だんし(すゐちく)名彈絲吹竹。名音曲を弄す
 たんし(炭質)名炭。右炭などの質。
 たんじ(短日)名冬の短き日。
 たんじ(旦日)名あす。あした。
 たんじ(誕日)名うまれたる日。誕生日。
 たんし(斷室)名むろ。
 たんじ(斷)名むろ。決して。
 たんじ(騰汁)名肝臓より分泌する消化液。色黄緑にして臭あり。甚だにがし。
 一しつ(一質)名哲。氣質の種別。興奮感動は遲緩なれども思慮に富み忍耐力強く倦怠せざる性質をいふ。されど動もすれば傲慢にして人を遇するに殘忍酷薄に失するを免れず。
 たんし(へういん)名單食瓢飲。名(單は竹器。食は飯なり)少量の飲食をいふ。まづしきことに喰ふ。前漢書「顔淵一在二於陋巷」
 たんし(丹心)名まごころ。赤心。
 たんし(誕辰)名生れたる日。誕生日。誕生日
 たんし(單身)名ただひとり。ひとり身。
 たんし(丹砂)名しんしやくに同じ。

たんし(やう)名嘆賞。名ほめそやすこと。感心してほむること。感賞。
 たんし(淡粧)名たんざうに同じ。
 たんし(端莊)名たんざうに同じ。
 たんじ(誕日)名うまれたる當日。誕辰。
 一び(一會)名佛。滿佛會に同じ。「稱」
 だんじ(彈正)名彈正臺の官人の總
 一だい(一臺)名大寶令の制にて國の刑憲儀法を掌り、風俗を矯正し百官の罪惡内外の非違を糾す。尹弼忠疏四章の官あり。其の彈奏は太政官を経して直ちに陛下に奏聞することを得るを以て最も勢力ある官なり。仁明帝の承和六年檢非違使獨立して糾彈の事に預かることとなりてより彈正臺の權は遂に悉く使廳に移るに至れり。明治の初年にも一時設置せられたり。ただすのつかさ。

たんじ(やく)名短冊。名たんざくを見よ。
 たんし(やく)名華族の五爵中の最下位
 たんし(ヤリベツ)名舍利別。名白砂糖六十
 五分を蒸溜水三十五分に溶解せしめたる液
 矯味藥として合劑又は紙劑等に附加し或は
 舍利別劑を製するに用ゐる。
 たんじ(丹朱)名あか。しゆ。
 たんじ(短銃)名ピストル。拳銃。
 たんし(短縮)名短く縮むること。みじかくなること。「時日」

たんじ(單純)名ひとすぢなること。まじりけのなきこと。單調に同じ。條件なきこと。制限なきこと。
 一かいほう(一解放)名捕虜國が何等の條件をも附せずして任意に釋放。
 一こくか(一國家)名一國にて一國をなせるもの。複合國家の對。
 一しようにん(一承認)名法。相續人が無制限に被相續人の權利義務を繼承すること。承認すること。限定承認の對。
 たんし(端書)名はしがき。はがき。
 たんし(端緒)名はじめ。いとぐち。ち。
 たんし(短所)名不得意とすること。あやまること。缺點。短處。長所の對。
 たんじ(澹如)名さつぱりとして物事に拘泥せざること。「一心」淡如。「るくこと」
 たんし(探勝)名山水の勝地をさぐりあ
 たんし(嘆稱)名たへはむること。歎稱。
 たんし(單稱)名特に一箇のみをいひあらはすこと。「辭とせる命題」
 一めいだい(一命題)名論。單稱名辭を主
 たんし(食色)名度に過ぎて色を好むこと。色をまさること。「愛すること」
 たんし(男色)名男子が男子の容色を
 たんじ(斷法)名詞姿の一。接續語を省き文句と文句との關係を斷ちて想

像の餘地あらしめ文勢を強からしむる修飾法
 たんじり(山車)名だしに同じ。
 たんす(簞笥)名横に口ある大なる籠にして抽
 斗あり。又中に棚あるもあり。「茶」「書」「厨
 櫃。又ひきだしありて専ら衣服を収むるを小
 袖」といふ。衣厨。
 たんす(歎)自動サ変。なげく。かなしむ。い
 きとほる。憤慨す。是れ「子胥仰天曰」
 うめく。呻吟す。④いたむ。哀戚す。⑤ほ
 む。賞美す。禮記「孔子屢」之。⑥たすけう
 たふ。讃和す。
 たんす(彈)自動サ変ひく。かなづ。
 ダンス[Dance]名西洋風の舞踏をいふ。
 たんす(談)自動サ変。かたる。はなす。とく。
 ①かたらふ。はなしあふ。②かけあふ。談
 判す。③なじる。詰問す。
 たんす(斷)自動サ變。きむ。決定す。④さば
 く。裁決す。⑤おしきりてなす。決行す。
 たんす(單數)名數。單位の數。
 たんす(淡水)名みづ。しほけなき水。
 ①こ(湖)名淡水のみづうみ。
 ①さう(藻)名藻。淡水に生ずる藻類。
 ①せい(棲)名動。淡水の中にすむこと。
 たんす(斷水)名水の通はぬやうになること。
 たんす(炭水)名炭水化合物。炭素と
 水素と酸素とが恰も水をなす比にて化合せ
 るもの。

ダンセ(禮施)名佛。ダンナに同じ。
 たんせい(丹誠)名信實に事をすること。赤
 心。まごころ。②心を盡して面倒を見ること。
 たんせい(丹青)名あかとあまとの義。③彩
 色。④轉じて繪畫。
 たんせい(端正)名ただしきこと。「品行」
 たんせい(歎聲)名ためいき。「一をもらす」
 たんせい(男性)名をとこのうまれ。な
 とこのたち。②をとこ。
 たんせい(男生)名男の生徒。
 たんせい(彈性)名理。物體に力を加へて其
 物體の體積又は形狀を變せしめたる後其力
 をゆるむるとき、原體積又は原形に復せんとす
 る性質。
 ①こむ(護謨)名ゴム。②を見よ。「る性質」
 ①たい(一體)名理。彈性を有する物體。護
 謨象牙等の類。
 たんせい(單性花)名雄蕊を有して
 雌蕊を具へず雌蕊を有して雄蕊を具へざる
 花。異株花。
 たんせい(單性生殖)名動。或種
 の動物の雌性が單獨にて仔蟲を生殖すること。
 たんせい(男生徒)名男子の生徒。
 たんせい(短小)名みじかく小さき。「驅
 幹」
 たんせい(談笑)名物語りし且つ笑ふこと
 たんせい(探照燈)名一箇の反射
 鏡の焦點に出來得るだけ集中せる光源を置

きこれより發する光線を反射鏡によりて射出
 せしめて遠距離を照射する装置。探海燈。
 たんせい(租務)名はたぬぎ。
 たんせい(痰咳)名痰の出づるせき。
 たんせい(旦夕)名あさゆふ。あけくれ。
 ③事の切迫したるにいふ語。「命」に迫る。
 たんせい(短折)名わかじに。はやじに。天
 たんせい(斷截)名たちきること。「折
 たんせい(斷絶)名きれてたゆること。繼續せぬ
 こと。「御家」
 ①はぶ(法)名詞彙の一。所思を言ふ
 を好まず或は言ひ得ざるが如く説話の中途に
 て俄然停止するものにして言はずして言ふにま
 ざる餘意を残さんとするもの。
 たんせい(短箋)名料紙の短きもの。②文
 書の簡單なるもの。
 たんせい(單線)名線路の一筋なること。複線
 ①しき(式)名電信又は電話の往復線と
 して二本の金屬線を使用する代りに一本の
 金屬線と大地とを使用する方法。
 たんせい(段錢)名昔皇室の大禮造内裏
 將軍宣下等あるに當り臨時諸國の田畠に
 段別に課せし錢。
 ①ぶぎやう(奉行)名足利時代、段
 錢の收納を掌りし武家の職。
 たんせい(丹前)名たんぜんすがたの略。
 ②(演)俳優の頭むらばう(六方)③どて

らの異稱。
 ①おび(帶)名丹前姿の人の用のし帯。普
 通のものより稍長し。
 ①すがた(姿)名徳川時代、江戸に流行
 せし一種の遊治遊俠の風俗の稱。
 ①ふう(風)名前に同じ。
 ①ぶし(節)名丹前姿の人の誦ひし一種
 の小唄。
 たんせい(湛然)名副水のたたへたるさま。
 たんせい(端然)名副正しきありさま。とのひ
 たるさま。
 たんせい(赧然)名副恥ぢて顔のあかくなること。
 たんせい(團扇)名うち。
 たんせい(斷線)名きれたるすぢ。②線條又
 は其他電氣回線の一部の連絡の斷絶すること。
 ①しや(車)名眞鍮若くは鐵製の棒の一
 端に鋼鐵製の齒車様のものを装置しあるもの
 點線又は虚線を彫刻するに用ゐる。
 たんせい(斷然)名副きつぱり。と。はつきり
 と。おしきりて。又守りて變ぜざること。
 たんせい(炭素)Carbon)名(化)自然界にも工
 藝界にも最も重要な氣體元素の一。或は
 遊離し或は化合物となりて存在す。金剛石は
 其最も純粹なるものなり。高温度に於て窒素
 硫黄等と化合し殊に酸素と化合して二酸
 化炭素(炭酸)となる。
 ①ひらいき(避雷器)名炭素粉を壓搾

して板片を作り其二片の間に雲母の薄板を
 挿みて作りたる避雷器。「られたる層」
 たんせい(炭層)名石炭の岩石と共に生成せ
 たんせい(彈奏)名彈劾に同じ。琴。ピアノ
 ノなどの如く撥爪又は指などにて樂を奏する
 こと。
 ①がくき(樂器)名樂器。絃樂器の總稱。
 たんせい(斷層)名地層にひびわれを生
 じたる結果、地殼の一部が上下或は左右に移
 動したるをいふ。
 ①さん(山嶽)名地層の斷層によ
 り相互の連絡を絶たれるもの、又は一部若く
 は數部降下せず殘留して山嶽をなせるもの。
 ①ちしん(地震)名地すべり地震。
 たんせい(歎息)名歎きてためいきすること。
 ①し(詞)名文法。感動詞に同じ。
 たんせい(斷續)名きれたりつづきたりすること。
 ①き(器)名電池若くは發電機を含める
 電路中に挿入して之を自動的に急速に交
 交閉し直流を間歇的ならしむる装置。其
 簡單なるは電氣呼鈴に於て見るもの、如し。
 たんせい(男子)名男子を尊ひ
 女子をいやしむこと。即ち社會に於ける地位
 權力の男は女よりも高くして女の男に屈服す
 るをいふ。
 たんせい(單體)名(化)二種以上の他物質に
 分解すること能はざる組成單純なる質の稱。

①いろずる(雄蕊)名(五種)一花中の雄蕊
 が花絲によりて一體に結合せるもの。
 たんせい(探題)名僧徒相集まりて討論す
 る時其問題を選定し問答畢りて後其の可
 否を裁斷するものをいふ。②詩歌の會に多くの
 題を出し、くじ引等にて其中より各々採り取
 らしむるをいふ。③鎌倉幕府の時の職名。遠隔
 重要な地方に置き其の地方を奉行判判し、
 又外寇などの鎮とす。六波羅。長門。九
 州。などあり。
 たんせい(團體)名集まりて一團をなしたる
 人。①むれ。一羣。
 たんせい(擔當)名業務などを受け持つこと。
 たんせい(探討)名さぐりたづぬること。きは
 むること。しらぶること。
 たんせい(短刀)名刀の短く小なるもの。短
 たんせい(坦道)名平かなる道。
 たんせい(彈道)名彈丸の空中を通過する
 道。拋物線。
 たんせい(直入)名(一
 刀にて直に敵陣に斬り込む義)文章言論など
 の直に本論に説き入ること。喩へいふ語。
 たんせい(坦坦)名副。道などの平かなる有
 様をいふ語。②心のひろくゆるやかなること。
 たんせい(湛湛)名副。たかなるさまをいふ語。
 ③(羣生)一
 たんせい(湛湛)名副。重厚の貌。羣辭「忠」

而願進分(水)の深くたたる貌。江水平(露)けき貌。

たんたん(淡)淡名副。やすらかに流れ平に満つるさまにいふ語。執着なきさまにいふ語。

たんたん(潜)潜名副。あはき貌。月影などのあはきさまにいふ語。

たんたん(團)團名副。多くまるくたまるる状態にいふ語。露(まじ)かなる状態にいふ語。

だんだん(段)段名副。多き多きだ。だん。

だんだん(段)段名副。次第をおひて進むさまにいふ語。しだいに。やうやう。漸次。

たんたん(根)根名副。根根然(根)はちらふさまにだんだん(段)段名だんだん(段)段。又、だんだん(段)段の略。

たんたん(筋)筋名副。筋筋に縦りたる筋。異なる色に染めたるもの。或は暮を一布つづ異なる色の布にて縫ひ列ねたるもの。

たんたん(丹)丹名副。丹殿の階下(漢)代に皇宮の階下は一面丹を以てかためりしよりいふ。

たんたん(探)探名副。名さぐりて知ること。

たんたん(膽)胆名副。名さぐりて知ること。智勇。

だんち(暖)地名。あたかき土地。

だんち(丹)頂名。いただき赤きこと。鶴の一種。形大きくて白く、頭頂

深紅に、嘴黒色なり。仙鶴。たんちやう(短)短名。人の短所と長所と又善惡の意にも用ゐる。大家飛上梧桐樹、自有(旁)人説(二)。

たんちやう(探)探名。名さぐりてきくこと。

だんちやう(断)断名。はらわたを断つ義。切なるをいふ。

だんちやう(壇)壇名。一段高くなりたる處にて祭をなし、其他嚴かなる式を行ふ所。

だんちやう(彈)彈名。彈着距離(彈)丸の到着するへだたり。

たんちやう(炭)炭名。石炭層の採掘に於て地面及上層層の沈降崩落を防禦し坑内作業の安全を期するため、堅坑の周圍坑道等の側邊に採掘せずに残す所の石炭の部分。

だんち(男)男名。男子と女子と。なんに。どち(女)女名。男子と女子と。其權利に差別なしといふこと。

だんち(唐)唐名。唐音織物の一種。支那より舶來す。麻に羊毛又は絹絲等を雜へて織る。多くは敷物として用ゐる。

だんち(下)下名。下段にて且那の稱。

たんてい(探)探名。名さぐりうかがふこと。又その人。まはしもの。おんみつ。刑事。巡査。

たんてい(掛)掛名。探偵のことに當る人。もの(一)物名。小説又は講談、狂言の類にて犯罪事件の探偵を脚色したるもの。

たんてい(更)更名。探偵がかりの警吏。

たんてい(短)短名。はしげ。ポルト。

たんてい(探)探名。たんちやうに同じ。

だんてい(断)断名。判断してさだむること。

だんてい(陣)陣名。各艦互に斜前斜後に相連りて一線をなすもの。

だんてい(調)調名。単一なる調子、又は趣たんてい(端)端名。ただしきこと。まことなること。まのあたり。てきめん。

だんてい(軟)軟名。軟面に同じ。

だんてい(炭)炭名。炭素(三)以下を含む其質柔軟にして鍛錬し易き鐵。鐵をきたふこと。鑄鐵を爐中にて強く熱し夾雜物を除きて得たる鐵。

たんちやう(場)場名。鍛鐵の工場。

たんてん(丹)丹名。丹より一寸程下のところ體氣常に此に聚れば能く健康を保ち勇氣を持し得べしといふ。

たんてん(單)單名。其人にのみ傳ふること。心を以て心に傳ふること。

たんてん(炭)炭名。石炭層の存在する地域。たんてん(坦)坦名。坦道に同じ。

たんてん(檀)檀名。檀家の入々。檀家。だんとう(斷)頭名。くびをきること。

だんたい(臺)臺名。罪人の首をきる臺。

たんちやう(場)場名。罪人の首をきる場所。たんちやう(短)短名。みじかき手紙。

たんちやう(丹)丹名。一種の傳染病。創傷又は腫物に黴菌の侵入するによりて發生し、皮膚に紅色の斑紋を生じ、時には水泡を造り次第に全身に蔓延す。

たんちやう(海)海名。海損の一種。保險契約にて定められたる危険により船舶又は積荷に生じたる損失、損害又は費用等を其持主が各別々に負擔することをいふ。共同海損の對。

たんちやう(保)保名。共同海損の外に單獨海損をも擔保する保險契約。分擔。

たんちやう(不)不擔保名。單獨海損を擔保せざる保險契約。特擔分損不擔保。

たんちやう(概)概名。概念を種々の屬性にて限定し單獨の事物を表はすに至れるもの。

たんちやう(行)行名。民法。當事者一方の意思表示によりて成立する法律行為。

たんちやう(短)短名。人の短所と長所と又善惡の意にも用ゐる。大家飛上梧桐樹、自有(旁)人説(二)。

たんちやう(探)探名。名さぐりてきくこと。

だんちやう(断)断名。はらわたを断つ義。切なるをいふ。

だんちやう(壇)壇名。一段高くなりたる處にて祭をなし、其他嚴かなる式を行ふ所。

だんちやう(彈)彈名。彈着距離(彈)丸の到着するへだたり。

たんちやう(炭)炭名。石炭層の採掘に於て地面及上層層の沈降崩落を防禦し坑内作業の安全を期するため、堅坑の周圍坑道等の側邊に採掘せずに残す所の石炭の部分。

だんち(男)男名。男子と女子と。なんに。どち(女)女名。男子と女子と。其權利に差別なしといふこと。

だんち(唐)唐名。唐音織物の一種。支那より舶來す。麻に羊毛又は絹絲等を雜へて織る。多くは敷物として用ゐる。

だんち(下)下名。下段にて且那の稱。

たんてん(炭)炭名。石炭層の存在する地域。たんてん(坦)坦名。坦道に同じ。

たんてん(檀)檀名。檀家の入々。檀家。だんとう(斷)頭名。くびをきること。

だんたい(臺)臺名。罪人の首をきる臺。



●心をやること。満足すること。
 タンノピン名薬。褐色無味無臭の粉末。無刺戟性の腸收斂劑として應用せらる。タンノンタンノプロミン名薬。帶赤乃至帶黃褐色の粉末にして二五%の臭素を含有す。癩癩其他神經性疾患、興奮症、恐怖症、不眠症等に應用せらる。
 及兵庫縣の分轄に屬す。
 「たんば」(丹波)山陰道八國の一。全國京都府一(ぐり)「栗」名産。栗の一種。實すくれて大なるもの。
 「たんぼづき」(たんぼ)「酸漿」名産。たんぼづきに
 「たんばら」(たんば)「誕妄」名。いつはり。たんばら。又
 「たんばら」(たんば)「探訪」名。さぐりたづぬること。又
 其人。主に新聞記者の記事の材料を探りたづぬるにふ。
 「がかり」(たんば)「掛」名。探訪の事に當る人。
 「たんばら」(たんば)「暖飽」名。暖かに着、十分に食ふ。
 「たんばら」(たんば)「檀方」名。ダンケに同じ。「と」
 「たんばら」(たんば)「煖房會」名。引越視、又は座敷ひろめなどに催す宴。
 「たんばら」(たんば)「單胞動物」名。動物。單細胞動物に同じ。
 「たんばら」(たんば)「痰吐」名。痰を吐くに備ふる具。
 「たんばら」(たんば)「淡泊」名。あつさりとしたること。さつぱりしたること。●執着なきこと。食欲ならぬこと。●味のすくなきこと。趣に乏しきこと。
 「たんばら」(たんば)「蛋白」名。卵のしろみ。又、これと同

じ成分のもの。
 「しつ」(質)名。炭素、水素、窒素及硫黄より成る無定形の物質にして動物の主成分なり。卵のしろみは殆ど其純なるもの。
 「せき」(石)名。不定形にして含水珪酸にて石英と同質なり。色種々ありて玻璃光を有す。指輪、襟止などに嵌む。オパール。
 「てつえき」(鐵液)名。鐵劑の一。透射光にては澄明、落射光にては微に濁濁せる赤褐色の液にして弱き桂皮の味を有し殆ど鐵味を有せず。貧血症、萎黃病又は病後の恢復期に用ゐて消化機能を損せざるものとして汎く賞用せらる。
 「ねう」(尿)名。病的に蛋白質の交りて
 「たんばら」(たんば)「段梯子」名。木にて段をつくれる梯子。きざし。
 「たんばら」(たんば)「短髪」名。みじかきかみ。
 「たんばら」(たんば)「彈撥」名。はじくこと。
 「たんばら」(たんば)「斷髮」名。毛髪を切ること。●髪を切りて垂れおくもの。きりがみ。
 「たんばら」(たんば)「段鼻」名。鼻柱の段のつきたるもの。鼻筋に高低あるもの。
 「たんばら」(たんば)「丹礬」名。青色の結晶體。染色、鍍金等に使用せらる。毒性あり。銅山の坑中に垂れ生ず。硫酸銅。膽礬。
 「たんばら」(たんば)「酢」名。金工の着色薬。鑄造せる青銅を仕上げて後此液中に浸して着色せしむるもの。

酔煮汁。
 「たんばら」(たんば)「談判」名。或事件又はとりきめにつきて互に議し合ふこと。かけあひ。
 「たんばら」(たんば)「擔板漢」名。佛。板をになひたる人夫の一方のみは見るも他の一方は見えずる如く一を知りて二を知らざる愚人に喩ふ。
 「たんばら」(たんば)「嘆美」名。感心してほむること。歎美。
 「たんばら」(たんば)「度」名。たびの音便。●「行く」に「たんばら」(たんば)「單比」名。數。複比に對して比の稱。
 「たんばら」(たんば)「團匪」名。一團をなす賊徒。●往年北清に起りし賊徒の名。
 「たんばら」(たんば)「事件」名。北清事變の稱。義和團と稱する秘密結社の徒が愚民を煽動し清國に留外國人に迫害を加へ國安を害したるより此名あり。
 「たんばら」(たんば)「斷碑」名。折れこはれたる石碑。
 「たんばら」(たんば)「單被花」名。種。蓼と花冠とのいづれか一方の缺けたる花。くりあざの類。
 「たんばら」(たんば)「短評」名。詩歌、文章に對して下すみじかき批評。
 「たんばら」(たんば)「段平」名。太刀などの刃の幅廣きもの。剛刀。闊刀。
 「たんばら」(たんば)「物」名。だんびらに同じ。
 「たんばら」(たんば)「彈尾類」名。昆蟲類の一。一對の單眼を有し無翅にして變體をなす。或物は尾端を以て地を彈撥して飛躍し或物は長尾を引く。しみばねむしの如き此類なり。
 「たんばら」(たんば)「單比例」名。數。單比に同じ。

たんばら(擔夫)名。荷物をかつぐ人夫。にかつたんばら(擔負)名。かつぐこと。負擔。
 「たんばら」(たんば)「單復」名。單一なるを復雜なること。
 「たんばら」(たんば)「段袋」名。駄荷袋の詛。●布製の大きな袋。●まちだかの袴の甚だ細きもの。
 ●すぼんの異稱。
 「たんばら」(たんば)「探聞」名。さぐりきくこと。
 「たんばら」(たんば)「短文」名。短き文章。
 「たんばら」(たんば)「擔糞漢」名。こえかつぎ。こえたんばら(端平)名。たたくたひらかなること。
 「たんばら」(たんば)「短兵」名。みじかきまはもの。意。弓・槍・薙刀等に對して刀をいふ。
 「たんばら」(たんば)「急」名。兵士の肉迫して來れるが如く極めて急なると。迅速なると。至急なると。
 「たんばら」(たんば)「談柄」名。はなしのたね。話柄。
 「たんばら」(たんば)「段別」名。田を一段毎に別つこと。
 ●轉じて地積の名目。町・段・畝・歩等の稱。
 「たんばら」(たんば)「短篇」名。詩文小説などの短くして完結せるもの。●小説一。
 「たんばら」(たんば)「物」名。短き著作物。
 「たんばら」(たんば)「斷篇」名。きれんくの文書。
 「たんばら」(たんば)「斷片」名。きり分ちたる一ひら。きれダンベル名。あれいに同じ。「はし。きれ。
 「たんばら」(たんば)「旦暮」名。旦夕に同じ。
 「たんばら」(たんば)「田圃」名。田圃のある地。
 「たんばら」(たんば)「路」名。田圃を通じたる路。
 「たんばら」(たんば)「擔保」名。●法。義務者が、その義務を

履行せざる場合に於ける權利者の損害を補償するために、確實なる方法を設くること。契約を確實ならしむるために或方法を設くること。
 ●ひきあて。抵當。
 「たんばら」(たんば)「瑕疵」名。家畜の賣買に關して擔保を附すべき畜畜の瑕疵。
 「たんばら」(たんば)「貸付」名。擔保物を取りて金銭の貸附をなすこと。
 「たんばら」(たんば)「義務」名。法。契約遺産相續遺贈の目的たる物又は權利に欠缺の存する場合に之を補充し、又はこれと同等の満足を與ふべき契約當事者遺産相續人遺贈義務者の義務。
 「たんばら」(たんば)「しやさいしんたくはふ」(附社債信託法)名。擔保附社債を發行すること。に關して當事者及社債權者の權利義務を規定したる法律。
 「たんばら」(たんば)「うやく」(二)「條約」名。法。第三者が擔保者となり或事實又は條約の履行を確實ならしむる爲に締結する條約。
 「たんばら」(たんば)「品」名。●擔保として提供せる物品。●抵當物。
 「たんばら」(たんば)「物」名。たんばらひんに同じ。
 「たんばら」(たんば)「革」又は布に綿など丸くして包みたるもの。積古槍の頭につけ又石摺の墨を塗る用など。積古用とす。
 「たんばら」(たんば)「槍」名。先端にたんばらをつけたる槍

タン(湯婆)名。唐音。中に湯を入れ、冬日腰脚を暖むるに用ゐる器。大さ枕の如くして口あり。金屬又は陶器につくる。
 「たんばら」(たんば)「淡墨」名。うすすみ。
 「たんばら」(たんば)「蒲公英」名。根は多年生にして莖は一年生なり。葉はなづなに似て大きく、黄色若しくは白色の不整齊なる合瓣花を開く。後に絮となりて莖頭に玉をなし風に飛ぶ。
 「たんばら」(たんば)「單本位」名。單一のものを以て本位となすこと。複本位の對。
 「たんばら」(たんば)「單末」名。いつはり。うそ。妄。
 「たんばら」(たんば)「斷末」名。一命の終る時。しにぎは。●命。●臨命終時。多爲に苦受(所)逼。
 「たんばら」(たんば)「名」(たまりの音便)●無言なると。●告げざること。ことわりざると。●(選)顔見世。狂言の發端。俗に三立目といふ。又近年は顔見世狂言に限らず一幕物として暗争を出す。
 「たんばら」(たんば)「淡味」名。あつさりしたる味。又は趣。
 「たんばら」(たんば)「短命」名。みじかきいのち。わかじに。はやじに。●(選)有。顔回者。好學、不遷。怒不貳過。不幸一死矣。
 「たんばら」(たんば)「旦明」名。よあけ。あけがた。
 「たんばら」(たんば)「單名數」名。數。一つの單位の名稱によりて表はされたる名數。
 「たんばら」(たんば)「端面」名。角濤の境界面の中に

たよら

たよらに 剛ゆら／＼と動揺して。筑波根の岩もどろに落つる水世にも一舌がおもはな

たら

（種）幹の色青白く高さ二三丈に及ぶ。葉は長楕圓形にして鋸齒をなし、花は小形にして白く果實は冬熟して赤小豆の如し。觀賞用として栽培し材は挽物細工に用樹皮より糖を製し葉は茶の代用となす。

たら

たらす（誑惑）他動サ四。あざむく。だます。たらすけ（陀羅尼）名。たらすけに同じ。たらすま（不）不足前。不足を補ふ分。たしまへ。補充額。

たり

浴などに用ひて大なり。たらふ（足）自動ハ四。たるの延。たらふく（多羅福）副。腹いっぱい。十分に。ダラム（Daram）名。英國の重量の名。我が四分七厘一六七にあたる。

たり

（佛）彌陀如來の本願の力。一けう（一）一教（名佛）如來の願力によりて衆生の救済せらるゝとなす教法。一しゆう（一）宗（名佛）衆生凡夫の極樂往生は自己の作業得益にあらずし、彌陀如來の本願の力の回向によりて報土往生を遂げんとする宗派。即ち浄土・眞宗等はなり。

たる

れさがる。したたる。他動ラ下二。提ぐるやうにす。かけつるす。たらす。たるがき（椀椀）名。澀柿を空酒樽につめ置きて澀味を樽ぬきしたるもの。たるき（垂木）名。屋根の裏板、又は野木舞化粧木舞等を支へ棟より横へ互す細長き材たるし（一）形一たゆしの轉。たるし（一）形一前に同じ。

たれ

るポンプの一種。其外形達磨に似たるを以て此名あり。「を通常とす」

たるまる「樽丸」名酒樽用の木材。樽種は杉

たるみ「垂水」名たき瀧に同じ。

たるみ「弛」名たるむと。ゆるみ。

たるむ「弛」自動マ四「力弱りてたわむ」ゆるむ。他動マ下「たるましむ」ゆるむ。

だるる「墜涙」名涙のこぼるる。

たれ「垂」名たるると。又其のもの。垂駕籠のむしろ戸。蒲焼につくる汁。醬油に味醂を加へ、白胡椒をすり込みて煮つめたるもの。

たれ「誰」代「しかと知らぬ人の名に代へて用ゐる人代名詞。人の姓名を尋ね問ふときに用ゐる疑問代名詞。何人。」

だれ「誰」代「前の訛」

たれ「かご」垂駕籠「名籠、やや小さくして、左右の戸を席にてつくり垂れさげたるもの。」

たれ「かれ」誰「彼」名誰といひ彼と云ふ區別。「一なしに」

たれ「こむ」垂籠「自動マ下二戸帳又は簾などだれこむ自動マ四等甚しくつかる。」

たれ「さがる」垂下「自動マ四さがる。たる。」

たれ「つ」かふはんせん「甲板船」(Hull of vessel) 名西紀一八九一年頃より行はれたる貨物汽船の一種。主として材木及包装せざる石炭、鑽石等の運搬に用ゐる。

たれわ

たれどき「誰時」名かばたれどき。たれぬの「垂布」名とばり。のれん。

たれびと「誰人」代何と云ふ人。何人。たれ。たれミソ「垂味噌」名物を煮る時味をつくるに用ゐる汁。

たれみみ「垂耳」名獸などの耳のたれさがりたるもの。

たれむし「垂蒸」名とばりに同じ。

たれる「垂」自動マ下「たるの轉」

たれる「放」他動マ下「放屁す。脱糞す。だれる自動マ下「よわる。病み臥す。だるう「舵樓」名和船の舵を指圖するものなどの居るやぐら。ふれやぐら。

たわ「撓」名山頂の撓みて見ゆる所。たわり。髪のおさされて癖づきたる所。

たわいなし「形一思慮なし。とりとめなし。容易なり。張合なし。

たわする「忘」他動マ下「わするに同じ。たわに「撓」副「たわむばかりに。しなひてたわに。「枝も」

たわます「撓」他動マ四「たわむやうにす。たわみ「撓」名たわむ度合。

たわむ「撓」自動マ四「まがる。力なく心弱くなる。たゆむ。うむ。よわる。

たわやかに「副」たをやかに同じ。

たわやめ「手弱女」名「たをやかに同じ。たわらは「童」名「わらは。小兒。たわわに「撓」副「たわにに同じ。

たるを

たる「田井」名田に引く水を漕へたるころ。轉じて田の意に用ゐる。

たる「田居」名田の中の家。轉じてぬなか。たるな「田居中」名ぬなか。

だるん「橢圓」名平面上に二定點よりの距離の和が一定の長さに等しき點を連ぬる曲線。長圓形。こばんがた。

せきぶん「積分」名Zの三次又は四次の有理整函數を「(x)」とし二つの變數の有理函數を以て表はすと積分「(x)dx」の稱。

たい「體」名互に直交する二平面上にありて其交線を共通軸とする二つの橢圓上に頂點を有し、且つ共通軸に垂直に運動する橢圓の生ずる體。

はうぶつせんたい「拋物線體」名(數)定平面上の拋物線に頂點を保ち且其面に直交する平面中において原拋物線と同方向の軸を有する拋物線が其平面に垂直の方向に運動して生ずる體。

りつ「率」名離心率に同じ。

たを「嶺」名たうげに同じ。

たを「鬘」名たばに同じ。「動」ほととぎす。たを「田長」名田をつかさどるもの。長。どり「鳥」名動ほととぎすの異名。たを「たを」名副「たをめぐさまにいふ語。たをめかし「形二たをめぐさまに見ゆ。

たを

たを「めく」自動カ四「たをやかにあり。たわむやうになる。」

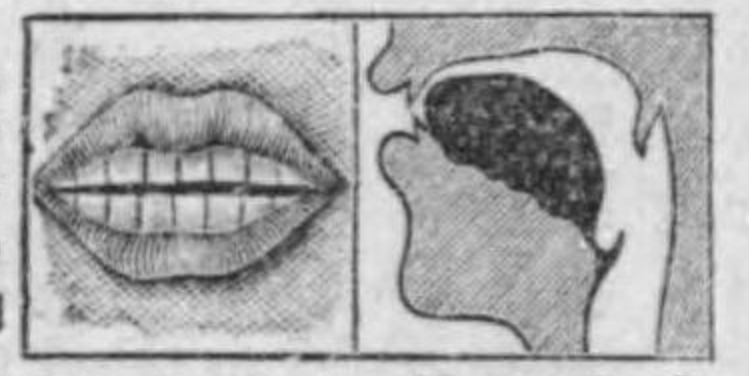
たを「やか」婀娜「名しなやか。しとやか。たを「やく」婀娜「自動カ四をやかになる。」

たを「やけし」婀娜「形一ををやかに。やさしたを「やめ」手弱女「名たをやかなる女。やさしき女。單に女の稱。」

たを「り」撓「名たわに同じ。

たを「る」手折「他動マ四手にて折る。

ち



ち「上圖の如く舌面(舌端より少しく後部)を硬口蓋に接する爲に起る氣息の閉鎖を急に破裂せしむるによりて生ずる破裂音と母韻「い」との緩音。五十音圖中「た」行の第二に位す。他の音の間にはさまる時は促音の如く轉呼することあり、うちて「ち」て(立)の如し。

ち「血」名動物の體中にありて常に心臓より動脈、靜脈に通じ全身を循環する紅色の營養液の總稱。血液。病ちのみちの略。

ち「あめ」一雨「名刀にてきりあひ、出血の甚しきまに云ふ。一を降らす」

ち「いけ」一池「名地獄にありて血を湛ふ」

ち「なみた」一涙「名血のまじりて出づる涙。甚しく泣く時の涙。又極めてつらくかなしきこと。

ち「みち」一道「名血液の通りゆく脈管。病血行の不順なるより起る婦人の病ちのやまひ。

ち「泣く」句大にかなしみなく。

ち「鳴く」句血を吐きながら苦み鳴く。

ち「まじれば赤くなる」句朱に交れば赤くなるに同じ。

ち

ち「出るやうな金」句非常に艱難辛苦して得たる金。

ち「血だけ」句親族は親族だけの事ありとを合はす。句我子か人の子かをたす。

ち「をすする」句互に血を吸りて盟をなす。

ち「を分けた仲」句親子兄弟などをいふ。

ち「洗血」(アブラ)句親族間の争ひにいふ。又汚名をすゝがんとし却て地の惡事の露顯し何等の效のなきにもいふ。血で血を洗ふ。

ち「乳」名兒を生みたる母の乳房より出づる白く濁れる汁。ちしる。ちち。乳汁。ちぶさ。乳房。幟旗。幕。羽織。草鞋等のへりに着けたる小き環の如きもの。竿。繩。紐等を通し引き張る用とす。形、乳首に似たればいふ。ちがた。みみ。とほしわ。

ち「智」名五常又三徳の一。物事を明に知り是非を別ちて一定の目的を達するに適當なる方法を吾人に教へ吾人の行動を指導する徳。ちん。孟子是非之心一之端也「荀子」知而有「所」合謂之「一」(佛)事理の善惡正邪を辨別し決定する精神作用をいふ。かしこき人。才能ある者。孔子「師賢而友」

ち「はかりごと」たくみ。謀略。

ち「管」名しもと。古の五刑の一。尤も罪輕きものを處刑するもの。ちざい「管罪」。

ち「芽」名種。高さ三四尺。叢生す。春芽を出す

時、葉の中に花を包むま笥に似たり。之をつばなといふ。葉の如き花さく。之をとりてほくちを製し莖葉にて屋根を葺く。ちがや。
一のあ(一輪)名茅にて造りたる大なる輪。
大祓式の時これをくれば疫病を除くといふ。
ち(治)名天下のよく治まれること。治平。一延喜天曆の一。まつりごと。政事。則禮一以贊一。みち。道義。人之大倫曰一。政事廳の所在。漢書一更王三膠東一。即墨二。いさを。功績。周書一以敘進三其一一。
ち(地)名。つち。大地。地球。を。陸地。地面。土地。その處。その土地。郷土。と。ころ。さやうがい。名教中自有三樂一。をりばしよ。ち。ば。孟子一禹。稷。顔子易一則皆然一。邦國。又は領土。龜一不。忘。接一于齊二。萬物の依りて生み出づる根源。管子一者萬物之本源。諸生之根苑也。大地を主宰する神。漢書一尊天敬一。しも。下位。掛物の一。した。金剛經一墨書粉一。
一のししやう(一四象)名地中に存せる四つの物象。即ち水。火。土。石をいふ。
一のり(一利)名土地の形勢の便利なること。に墜つ。句地上におつ。衰ふ。する。
一のに拔足す。句身の置き所なきさまにいふ。
一のに没す。句地下に入る。死して葬らる。
一のにまみる。句失敗して再世に出づる能は

ざるいふ。
一を掃ふ。句地上の塵芥をはらひつくしたる如くに物の皆無になりたるをいふ。漢書一上古遺烈一。一盡矣一。
ち(知)名。智に同じ。荀子一是非非謂三之。一。二。欲情。禮記一誘於外二。たぐひ。匹偶。詩經一樂三子之無一。しりあひ。途如三故一。その人となりを知りて優遇すること。忽受三國士一。つかさどること。つかさ。州にたり。
ち(痴)名。おろか。バカ。おろもの。
ち(路)名。みちに同じ。熟語にのみ用ゐる。一。父。名。ちちに同じ。また一。あへ。一。風。名。かぜに同じ。熟語にのみ用ゐる。一。一。名。ちりに同じ。一。はや一。一。名。五音の第四の音調。
ち(千)名。百を十倍せる數。せん。熟語にのみ用ゐる。一。とせ。數多きこと。一。ち。一。る。一。
ち(箇)名。接尾つと同じく數詞に添へて用ゐる語。ち。ち。の。濁音。ち。音を發せんとするとき聲帶を振動せしむるによりて生ず。
ち(柱)名。琴箏などの絃の下にはさみて其張りを強くする具。こ。ち。こま。
ち(地)名。陸地。地所。土地。一。震。一。がた。め。其土地。本土。一。の人。一。の物。一。ち。ち。の。田舎。一。ま。ま。一。園。基に我が石にて圍

み占めたる目。物の本質。下。一。絹。一。がね。布帛のちあひ。染色。うす。の反物。赤。の錦。人のもちまへ。はだへ。一。聲。一。がある。小説。淨瑠璃等の文にて作者が直に讀者に事相の發展。景物の狀態を示す部分の稱。一の稱。膠製造にて既に主醜醇完了し泡消失して後液面一體蓋或は皮膜の如き被覆物にて被はるゝに至れる狀態。ち(持)名。團扇歌合などに雙方優劣のなきこと。あひもち。あひこ。もち。
ち(痔)名。肛門に腫を生じて痛みはげしく時に血或は粘液を瀉す。疣。一。蓮。一。穴。一。等の種類あり。
ち(治)名。ち。に同じ。病をなほすこと。療治。一。花。一。風。の。一。も。せ。せ。せ。ま。ま。一。
ち(路)名。接尾ちの連濁にてみちに同じ。旅。一。越。一。木。曾。一。一日に行かるゝみちのり。路程。二。日。一。
ち(箇)名。接尾ちの連濁にてつに同じ。み。そ。一。三。一。尺。一。支那清朝の長さの基本單位。我國の一。一。八。二。尺。に當る。
ち(ク)名。名。種。葉は對生又は輪生し花は數多相攢簇して直徑一尺五寸許の圓錐花序をなす。木材は帶褐蒼白色にして軽く且つ堅く木理緻密にして永く腐朽することなく之を磨けば光澤ありて美麗なり。多く船材とし又建築用及汽車の車體等に用ゐらる。又

一種の油を含む。取りて木材に塗り又物を磨くに用ゐる。又葉よりは緑色の染料を製し絹糸を黄色又は橙黄色に染むるに用ゐる。
ち(ズル)名。毛織物の起毛及強き刷毛に使用する薊頭。薊頭は骨質の抱花小葉の集合體にして其尖端は各鉤刺を有しこれにて毛織物の組織中より纖維端を掻出す。
ち(ハ)名。字華。名。富籤に似たる賭事。催主より詩句の如き隱語を出し買主は規定の三十六種の中に解答をつくり金を添へて催主に送るなり。其の答案にして中らば催主より三十倍の報酬を得らるゝを以て支那人は盛行へども我國にては禁ぜらる。チ。ハ。一。八。一。
ち(アスター)名。Distarce。名。夢のもやし中の酵母菌より得る藥劑。黄白色の粉末にして澱粉を糖化する特性を有す。本來蛋白質に屬し無味無臭なり。一。タ。カ。一。
ち(あなき)名。馬の病氣。馬此病にかゝれば咳嗽して前足を折り歩行する能はずといふ。
ち(あひ)名。血合。名。魚肉の紫黑色を帯べるところ。紫血肉。布帛の地質。
ち(あひ)名。地合。名。布帛を織りなせる程合。
ち(あへ)のまつり。道。名。みちあへのまつりに同じ。

ち(あ)名。ちびきあみの略。大なる網にして一邊を海上に浮べ一邊を水底に沈め置き後數人にて海岸に引寄せて内なる魚を捕る。投網に對して立網ともいふ。
ち(あん)名。治安。名。世の中の治まり平かなること。國家社會の安寧秩序の能く保持せらるゝこと。一。け。い。さ。つ。一。警察。名。治安に對する危害を排除するを目的とする警察。行政警察の對一。さ。く。一。策。名。世を治め安んずる方策。
ち(ばう)名。妨害。名。治安を妨げ亂すこと。ち(あ)名。血荒。名。流産して妊婦の身の穢れたるにいふ語。但し此時胎兒未だ形を成さずしておたりたるなり。一の身一。
ち(い)名。地衣。名。地を被ふ衣の義。隱花植物菌藻植物に屬する菌との共生體。
ち(たい)名。帶。名。高山植物帯の最上部の一帶にて唯地衣の岩面に附着せるを見るのみ。
ち(い)名。地異。名。地上の異變。地震。海嘯などをいふ。一致意。名。心を盡すこと。
ち(い)名。小兒。名。老翁を呼ぶ語。
ち(い)名。祖。名。ちの音便。小兒の語。
ち(い)名。知友。名。われをよく知りわれもよく知れる友。前漢書一拒絶一。
ち(い)名。置郵。名。宿驛に同じ。
ち(い)名。地息。名。地面よりあがる蒸發氣。
ち(い)名。智育。名。教育の一方面にて智識を啓發し技能を練磨するため施す教育。
ち(い)名。名。蟲をいふ。小兒の語。多きこと。ち(い)名。千五百。名。數多きこと。かぎりもなく

一。あ。き。一。秋。一。名。數かぎりなき歲月。一。之。端。一。國。一。
ち(い)名。血忌。名。曆の上の凶日の名にて刑戮。一。あ。き。一。名。音をよよく知るといふ義。最も親しき友。支那の伯牙と鍾子期との故事に起る。列子一伯牙鼓琴。鍾子期善聽。鍾子期死。伯牙絶絃以無一。一。者。二。し。る。一。べ。し。り。あ。ひ。知。己。知。人。一。延。引。一。
ち(い)名。運引。名。おそくなること。ながびくこと。
ち(宙)名。時間の經過。古往今來。一。そ。ら。一。虛。空。一。一。げ。一。ボ。ダ。ン。一。
ち(鈕)名。印又は鏡などのつまみ。一。こ。は。一。
ち(簪)名。竹の籤。一。か。ず。と。り。一。籌。算。一。
ち(壺)名。戲に用ゐる矢。一。は。か。り。一。と。一。
ち(い)名。名。ともがら。たぐひ。一。す。ま。一。
ち(い)名。胃胤。名。直系の子孫。一。子。孫。一。
ち(い)名。胃裔。名。正統の子孫。後裔。
ち(い)名。胃返。名。宙返に接せず虚空にて身をひるがへすこと。
ち(かん)名。晝間。名。太陽の最上點が地平線(現視)の上に見ゆる時間。晝のあひだ。ひるま。ち。う。く。わ。ん。せ。つ。一。肘。關。節。一。名。上肢の上膊と前膊との間に在る關節。三箇の關節の集合より成立す。
ち(どう)名。やぐまう。一。動。脈。網。一。名。肘關節に於ける網狀をなせる末梢動脈の稱。

ちろこ(一)鈕釦名こはば。ボタン。
 ちろさく(一)籌策名はかりこと。策略。
 ちろさん(一)籌算名はかりこと。①かん
 ぢやう。つもり。②いすとり。
 ちろさん(一)晝餐名ひるめし。中食。午餐。
 ちろし(一)乳牛名牝牛の乳を採るべきもの。
 ちろし(一)胃子名あつぎの子。嫡子。嗣
 子。①長子。
 ちろじき(一)晝食名ちろさんに同じ。
 ちろじん(一)稠人名多くの人。ひとごみ。
 ちろしやう(一)晝餉名晝のべんたう。
 ちろしやう(一)晝餉名多くの中よりぬきて
 賞すること。
 ちろしやう(一)抽象(名心)多くの事物に共
 通なる性質若くは意義にして之を一事物に
 就きて捉へ難きもの。具象又は具體の對。
 一てき(一)的一名共通なる屬性を抽出して、
 之を總合したるにふ語。
 一び(一)美一名種族に關する美。
 一めいし(一)名詞(名文法)實在せる箇々
 殊別のものより抽象したる名詞。忍耐勉強等
 の如し。
 ちろじやうくわやく(一)紐狀火薬名無
 煙火薬の一種。専ら大砲の装薬に使用せら
 る。ナイトログリセリン。綿火薬及リセリ
 ンより成り、鉛色紐狀をなす故に此名あり。此
 火薬の爆發の爲に有毒瓦斯を發散す。

ちろしゆつ(一)抽出一名ひき出す。ぬき出す。
 ちろするき(一)抽水機名固體と液體とを分離
 する機械。これに遠心抽水機。濾過抽水機。壓
 迫抽水機等の種類あり。
 ちろせき(一)晴昔名むかし。①前の日。昨
 日。②晝。③一之夜。
 ちろせき(一)晴夕名ゆふべ。昨夕。
 ちろせつ(一)狂斐名馴々しくして禮儀なきこと
 ちろせん(一)抽籤名くじを引く。くじびき
 くじとり。
 ちろせん(一)惘然名副うらみなげくさまにいふ語
 ちろた(一)地唄名上方唄に同じ。
 ちろたく(一)舞度名かそへはかること。
 ちろたひ(一)地謡名能にて舞ふ人の傍に在
 りて其謡曲のうしろ手。脇等が謡はざる部分
 を誦ふ者。
 ちろちやう(一)晴帳名うすきとばり。
 ちろちやう(一)惆帳名失意のあまり長大
 息して怨むこと。かなしみなげくこと。
 ちろちやう(一)講張名さき(詳偽)に同じ。
 ちろちよ(一)躊躇名ためらふこと。進みかぬるこ
 と。決行にまどふこと。
 ちろに(一)宙(副)よりどころなしに。
 ちろのり(一)宙乘名芝居輕業等にて體を宙に
 つりて空中を行くが如く見する藝。
 ちろはん(一)晝飯名ちろさんに同じ。
 ちろびう(一)網繰名もつれあふこと。からみつ

くこと。①東薪②花などの模様。緻密
 なるにふ。③一緯縞④等類。
 ちろひつ(一)偽匹名たぐひ。ともがら。匹偽。
 ちろみ(一)血膿名血のまじれるうみしる。
 ちろみつ(一)稠密名繁くこみあふこと。繁多な
 ちろや(一)晝夜名ひるとよると。①ること。
 一おび(一)帯名両面異なるはらははせ(腹
 合)のおび。
 一けんかう(一)兼行名夜も晝も續け
 を異にする風。即ち海風。陸風等の如し。
 一のちくじ(一)六時名一晝夜を六時刻
 に分ちたる晨朝。日中日没初夜。中夜。後夜
 の稱。
 一をわかつたす。句晝夜の區別なきにいふ語。
 ちろや(一)晝夜(副)晝夜をわかつたす。つねに。
 ちろりやく(一)籌略名はかりこと。
 ちろりやく(一)籌略名はかりこと。等類。偽類
 ちろるる(一)偽類名前に同じ。
 デウロンプチーのていりつ(一)定律 Dalton's law(名理)各固體元素の比熱と
 原子量との相乗積が皆等しいといふこと。
 ちえ(一)千枝名樹の枝の多きこと。
 チエース(One)一名活版術に於て版面を組
 付け位置を固定せしむる框。鑄鐵又は鍊鐵
 製にて長方形をなす。新聞用雜誌書籍用及
 一枚刷用の三種あり。

チエイン(鎖 Chain)名英國の距離の單位。我
 國の十一間三寸八分四厘一毛に當る。
 ちえう(一)治要名國を治むる道。世を治む
 る重なる務。
 ちえう(一)地妖名地異に同じ。一天變一
 チエエ(一)唐音(唐音)けん(猜拳)の語。な
 なつ。しち。
 ちえき(一)地役(名法)他人の土地を自己の
 土地の便益に供すると。①ちえきけんの略。
 一けん(一)權(名法)他人の土地を自己の土
 地の便益に供することを得る物權。例へば自
 己の土地の便益のため他人の土地を通行す
 る權利の如し。
 ちえん(一)運延(名おそくなる。又ながいくと。
 一りそく(一)利息(名法)金錢債務の履行
 運延による損害賠償。即ち元金の返済が遅
 延したるとき、定めの日より返済する日までの
 利子。
 チエンバーミュージック(室樂 Chamber mu
 sic)一名小室にて演奏するに適する音樂。
 チエレキたい(一)體(Dielectric substance)。
 名理)ばつえんたいに同じ。
 ゼエレキじやうすう(一)常數(Dielect
 ric Constant)名理)二箇の導體の間に或絶
 緣體を入れたるとき、電氣容量とその空氣の
 ときの電氣容量との比。
 ちおん(一)知音(名こゝいん)を見よ。

ちおん(一)智恩院(京都東山にある淨土
 宗の總本山)。
 ちおも(一)乳母(名おめの)と。うば。
 ちおろ(一)地織(名おろ)にて織りたる布帛。
 ちおろし(一)血下(名おろ)し。墮胎。
 ちか(一)地價(名)土地賣買の價。土地の時價
 賣買地價。①地租を賦課する標準として土
 地臺帳に記載したる土地の價額。法定地
 價。
 ちか(一)治下(名)其支配の下。其政治のもと。
 ちか(一)地下(名)地の下。地なか。①よみぢ。
 冥土。②に冥す。
 ちかい(一)莖(名)或種の植物の莖の地下
 に埋まりをるもの稱。根莖。蓮。竹。など。塊莖
 (馬鈴薯など)球莖(くわひさ)といふなど。
 一けつじつ(一)結實(名)南京豆の如き
 地下に於ける植物の結實。
 一こん(一)根(名)地中に生ずる根の總稱。
 莖と一直線をなせるものを直根といひ直根に
 側生するもの並に他の部に側生するものを側
 根といふ。
 一しつ(一)室(名)地下にある室。なほ地中階
 一すゐ(一)水(名)地中の隙間を流るる水
 一せん(一)線(名)地下ケーブルを用いて電
 線を地下に埋没せるもの。
 一せん(一)戦(名)兵攻者坑道作業を施し

要塞に迫るを守者同法に依てこれに對抗し
 相互地下に遭遇し地雷を以て作業を妨害
 しつ、戦闘をなすこと。
 一そくりやう(一)測量(名)地下即ち坑
 内に於ける測量。これに羅盤測量。懸羅盤測
 量及緯緯儀測量の三法あり。
 一てつたう(一)鐵道(名)地下に架設せ
 られたる鐵道。
 一むろ(一)室(名)製するたため地下を掘り
 ちか(一)治家(名)一家をととのへ治むること。
 ちか(一)近(名)接頭語に冠してちかき意を表す語。
 一とほまさり(一)おとり)。
 ちかい(一)知解(名)知ること。悟ること。
 ちかい(一)洗(名)衣を洗ふこと。①子(一)挫鍼(一
 以足)刺口)。
 ちかい(一)持戒(名)佛六波羅蜜の。勇猛精
 進して戒律を持つこと。又菩薩修行六度の
 一。諸の戒法を護持して犯すことなきこと。
 ちかう(一)地窖(名)あなぐら。①ちと。
 ちかう(一)知行(名)知識と行爲と。知ると行
 一がふ(一)合一(名)明の王陽明
 が知は行の主意又は行の始にして行は知の工
 夫又は知の成れるなり。決して二様の區別ある
 に非ずといはる説。然れど其説く所の知は知
 覺若くは認識等の意義よりも廣く、行は證悟
 若くは體認等の意義をも含めり。②ソクラ
 テスが不徳は無知に因りて生じ眞正の知識

ちからくらべ(力競)名●力の優劣をきよふこと。●力の強きを競ふ。角力。角瓶。相撲。ちからぐるま(力車)名●重き物を載せて人の力にてひく車。 「どに生ふる毛」

ちからげ(力毛)名●強壯なる人の胸。腕。腰。ちからこぶ(力瘤)名●腕に力を籠むる時、二の腕あたりに筋肉の堅く脹れ上がるもの。 |をいれる。句力を籠む。又心力を盡くす。又ひきす。世話をする。

ちからしね(税稻)名●年貢にいたす稻。ちからしほ(力芝)名●芝の一種。葉長くて夢の如く根甚だ固し。秋敷莖を出し、梢に穂をなす。紫黒色にして粗毛多し。狼尾草。ちからじまん(力自慢)名●自分の力多きを誇る。 「つりしもの」

ちからしろ(税代)名●古、力役の代りにたてま |のぬの(一布)名●庸に奉る布。ちからずまふ(力相撲)名●相撲にておもに力によりて、技術によらぬとりかた。ちからだめし(力試)名●力のほどを試すこと。ちからぢからし(力力)名●二力をいれたり。力をこめたるさまなり。

ちからづく(力盡)名●力の限りをいだして勝負をあらそふこと。うでづく。●力によりて物事の自由になること。ちからづく(力附)●自動カ。●力増す。力いて来。●氣力を生ず。いきまひづく。●他動カ

ちからつづく(力ひ)名●力に履はれて、其しる代をとること。 「る手」

ちからて(力手)名●力強き手。●力をこめたちからぬけ(力脱)名●力のなくなる。ちからぬの(税布)名●ちからしろのぬのと同じ。 「に同じ」

ちからのか(力か)名●主税察。ちかられうちからびと(力人)名●力の強き人。●力士。健兒。 「と。力のあるにまかせてなすと。ちからまかせ(力任)名●あらん限りの力を出す。ちからまけ(力負)名●相撲などに、力を入れずして、却つて負を取ること。●技術は等しきも力量の劣れるために負くこと。

ちからみづ(力水)名●相撲の時、土俵際に備へ置きて力士に飲ます水。化粧水。ちからもち(力持)名●石の類の重きものを擡げて、種々の技をなすもの。●力強き人。ちかられう(力主税察)名●古、民部省の被管にして、租税米穀などの事をつかさどりし所。ちからのか(力か)名●ちからわさ(力業)名●體力又は勞力を用ひてする作業。勞働。力作。 「人。地貸の對。ちがりがり(力借)名●他人の地所を借ること。又其ちかわかれ(近別)名●別れて近き所に居ること。ちき(紅秤)名●ちきりに同じ。ちき(地氣)名●大地の精氣。●大地の蒸發

ちき(電線)名●大地若くは大地と接觸せる物體と接觸し其絶縁抵抗の低下せる障礙。ちき(種氣)名●子供らしき氣風。をさなき。ちき(知己)名●人の知を受けて相交ること。自分の心をよく知りてをる人。●しるべ。しりびと。しりあひ。

ちき(千木)名●上古の建築に切棟作りの屋根の端の材を棟の上にて組み合せて空中に高く出したるもの。其組目より下はたるき(棟)と並び又屋の妻にははふ(棟)風)となる。今神社にのみ用ゐる。ひぎ。氷木。ちき(乳木)名●ゆらばくに同じ。ちき(地祇)名●くにかみ。地神。 「ふと。ちき(運疑)名●疑ひまよひて躊躇すると。ためらちき(直)名●ちか。うちつけ。直接。一談判。●そのば。即座。●ちきとりひきの略。ちき(直)副。すぐに。ただちに。間もなく。ちき(地球)名●吾人の棲息する大地。太陽系に屬する遊星の一にして面積は約三千万方里、表面は種々の岩石によりて構成せられ内部には尙ほ酷熱なる物體存在す。ちき(儀)名●地球の形を摸したるもの。球狀にして其表面に地上の海陸山川。緯度等を圖し、ニス塗りを塗り汚損を防ぐ。ちき(天)名●新月の際太陽の暗黒なる部分の薄明る

ちき(見ゆる)名●地球面より日光の反射するによるものにして此反射光を名づけていふ。 |じき(一磁氣)名●地。ちじきに同じ。 |づ(一圖)名●地球の平面圖。 |のてりかへし(一照返)名●天。地球回照光に同じ。 「其儘にてあること。持續。ちき(一持久)名●久しく持ちこたふること。永く |せん(一戦)名●兵。決戦を避け時間の餘裕を得るを以て目的とする戦。持續戦。持重戦。ちき(一せつ)名●地。久節。名●皇后陛下の御誕生日をいふ。ちき(一こさく)名●直小作。名●小作の一種。田畑の質入期間地主自ら小作するをいふ。ちき(一せん)名●(佛)或階級を経ずして超昇すること。●徳川幕府の旗本。家人等の稱。陪臣の對。ちき(一しほ)名●直支配。名●直接の支配。直轄。ちき(一しゆ)名●直輸出。名●外國商人の手を経ずして、直接に輸出すること。ちき(一しゆ)名●直輸入。名●外國商人の手を経ずして直接に輸入すること。ちき(一しよ)名●直書。名●其人の親ら筆をとりて書くこと。又其文書。自筆。直筆。ちき(一せん)名●地氣線。名●空中電氣を大地に放電せしむる爲に各電柱に沿ひて縦に取付くる線條をいふ。ちき(一そ)名●直訴。名●武家時代に於ける訴訟手續

ちき(一種)名●相當の手續を経ずして直接に上に訴狀を上ること。越訴。關訴。ちき(一そ)名●直奏。名●他人の手を経ずして直接に天子に奏聞すること。 「人に傳達すること。ちき(一たつ)名●直達。名●人傳らさずして、直接に其ちき(一だん)名●直談。名●人傳に依らずして、直接にその人に談ひ合ふこと。直接談判。ちき(一てん)名●直傳。名●餘人の手を経ず其の師より直接に傳授を受けること。口傳。ちき(一タリス)名●實。荳。荳。名●種。莖は直立し葉は五生し花は美麗にして紫色帯黄色又は白色をなし花蜜ありて雄蕊先熟なり。廣く庭園に栽培して花を觀賞せらる。大毒あり。此の植物の葉をチギタリス葉と稱し最も重要な心臓藥とす。ちき(一とつ)名●直綴。名●僧服の名。古の上衣の偏袒と下衣の裙子とを直に綴りたるものにして腰より下にひだあり。じつとく。ちき(一とりひき)名●直取引。名●貨物と代金との授受を同時になす取引。●仲買の手を経ずして直接に取引をなすこと。ちき(一ちか)名●直。名●間に他の物事をはさまずに。ただちに。●たちまち。やがて。ちき(一ちき)名●千木筒。名●東京芝神明の祭禮に古くより賣り來りし玩具。元雜の具にて三箇



の楕圓なる櫃を重々各々中に大豆の然りたるもの二三粒を入れ外面に丹練青にて藤の花を描き、葉にて縛り提げ持つやうにしたり。もと神社の千木の餘材を以て製したるより名づくといふ。婦女子これを簞笥の中に祓して衣服の増加を祈れり。ちき(一ひ)名●直披。名●自身に封を披かれよとの義。手紙の脇附に書く語。親展に同じ。ちき(一びつ)名●千木櫃。名●ちぎばに同じ。ちき(一ひつ)名●直筆。名●自ら書きたること。又其文書。親書。代筆の對。ちき(一やう)名●治強。名●治まりて強きこと。●非子。一易。爲。謀。亂。弱。難。爲。計。ちき(一やう)名●知行。名●武家時代に武士の賜りて領せる土地の稱。封地。采邑。食土。食邑。采地。●俸祿。扶持。ちき(一しよ)名●所。名●其人の知行とする土地。采。一だか(一高)名●知行の石高。 「所ある人。一とり(一取)名●扶持を受ける人。又知行一ぬすびと(一盜)名●君より知行を受けながら私事を營むこと。又徒に知行を受くるものを罵りていふ。ろくぬすびと。ちき(一やく)名●役。名●知行を宛て行ふ役。ちき(一やう)名●持經。名●常に身を放たず誦する經文。多く法華經をいふ。一者。ちき(一やう)名●地形。名●壁柱等の最下部にして上部より來る荷重と地耐力とをして平衡

せしめ家屋其他の建造物を安全に保支せしむる構造基礎。ちがため。
ちきやうだい(乳兄弟)名他人にして同じ人の乳にて育ちたる者の互に呼ぶ稱。阿彌兒。

ちきゆしゆつ(直輸出)名じきしゆしゆつちきゆにふ(直輸入)名ちきしゆしゆにふちきよ(池魚)名池にかひある魚。「同じ」。

一のあさはひ(一災)名近所の災難の爲に己れも不幸を受くること。又まきまへにあふこと。類焼すること。風俗通「城門失火殃及池魚」。

ちきよ(直)名東縛を受けて一定の範囲内に蟄居すること。

ちきよ(直)名他人の親しく見ること敬ちきり(扛秤)名はかり(秤)の大なるもの。盛出を一貫目とし、紐ありて之に棒を通し二人にて擔ぎてはかる。ちぎ。かぎばかり。

ちきり(隙)名隙機に附屬する具。中、括れて兩端廣し。經絲を巻くに用ゐる。をまき。緒卷。木或は石を水平に繋ぎ合すに用ゐらるるもの。二つの三角形の頭部を接合したる如き形にして腰付と腰無との二種あり。疵。

ちくおん(蓄音器)名一度發せられたる音聲を他の形に變じて之を物質内にたくはへおきて必要に應じ幾回も元と同じく發聲するやうに作りたる器。ばね仕掛によりて回轉す。音聲は振動板を振動せしめ板上の針尖は其振頭の經過を蠟上に印す。此印象は即ち音聲の寫眞にして、更に針尖をして此經路を通過せしめ針尖振動して再び音を發するを原理とす。一八七七年米國の人エヂソンの發明する所にして明治廿三年頃本邦に傳はれり。平圓板及蠟管の二種あり。

ちくおん(蓄音器)名一度發せられたる音聲を他の形に變じて之を物質内にたくはへおきて必要に應じ幾回も元と同じく發聲するやうに作りたる器。ばね仕掛によりて回轉す。音聲は振動板を振動せしめ板上の針尖は其振頭の經過を蠟上に印す。此印象は即ち音聲の寫眞にして、更に針尖をして此經路を通過せしめ針尖振動して再び音を發するを原理とす。一八七七年米國の人エヂソンの發明する所にして明治廿三年頃本邦に傳はれり。平圓板及蠟管の二種あり。

ちくおん(蓄音器)名一度發せられたる音聲を他の形に變じて之を物質内にたくはへおきて必要に應じ幾回も元と同じく發聲するやうに作りたる器。ばね仕掛によりて回轉す。音聲は振動板を振動せしめ板上の針尖は其振頭の經過を蠟上に印す。此印象は即ち音聲の寫眞にして、更に針尖をして此經路を通過せしめ針尖振動して再び音を發するを原理とす。一八七七年米國の人エヂソンの發明する所にして明治廿三年頃本邦に傳はれり。平圓板及蠟管の二種あり。

ちくおん(蓄音器)名一度發せられたる音聲を他の形に變じて之を物質内にたくはへおきて必要に應じ幾回も元と同じく發聲するやうに作りたる器。ばね仕掛によりて回轉す。音聲は振動板を振動せしめ板上の針尖は其振頭の經過を蠟上に印す。此印象は即ち音聲の寫眞にして、更に針尖をして此經路を通過せしめ針尖振動して再び音を發するを原理とす。一八七七年米國の人エヂソンの發明する所にして明治廿三年頃本邦に傳はれり。平圓板及蠟管の二種あり。

ちくおん(蓄音器)名一度發せられたる音聲を他の形に變じて之を物質内にたくはへおきて必要に應じ幾回も元と同じく發聲するやうに作りたる器。ばね仕掛によりて回轉す。音聲は振動板を振動せしめ板上の針尖は其振頭の經過を蠟上に印す。此印象は即ち音聲の寫眞にして、更に針尖をして此經路を通過せしめ針尖振動して再び音を發するを原理とす。一八七七年米國の人エヂソンの發明する所にして明治廿三年頃本邦に傳はれり。平圓板及蠟管の二種あり。

ちくおん(蓄音器)名一度發せられたる音聲を他の形に變じて之を物質内にたくはへおきて必要に應じ幾回も元と同じく發聲するやうに作りたる器。ばね仕掛によりて回轉す。音聲は振動板を振動せしめ板上の針尖は其振頭の經過を蠟上に印す。此印象は即ち音聲の寫眞にして、更に針尖をして此經路を通過せしめ針尖振動して再び音を發するを原理とす。一八七七年米國の人エヂソンの發明する所にして明治廿三年頃本邦に傳はれり。平圓板及蠟管の二種あり。

ちくおん(蓄音器)名一度發せられたる音聲を他の形に變じて之を物質内にたくはへおきて必要に應じ幾回も元と同じく發聲するやうに作りたる器。ばね仕掛によりて回轉す。音聲は振動板を振動せしめ板上の針尖は其振頭の經過を蠟上に印す。此印象は即ち音聲の寫眞にして、更に針尖をして此經路を通過せしめ針尖振動して再び音を發するを原理とす。一八七七年米國の人エヂソンの發明する所にして明治廿三年頃本邦に傳はれり。平圓板及蠟管の二種あり。

ちくおん(蓄音器)名一度發せられたる音聲を他の形に變じて之を物質内にたくはへおきて必要に應じ幾回も元と同じく發聲するやうに作りたる器。ばね仕掛によりて回轉す。音聲は振動板を振動せしめ板上の針尖は其振頭の經過を蠟上に印す。此印象は即ち音聲の寫眞にして、更に針尖をして此經路を通過せしめ針尖振動して再び音を發するを原理とす。一八七七年米國の人エヂソンの發明する所にして明治廿三年頃本邦に傳はれり。平圓板及蠟管の二種あり。

ちぎり(契)名ちぎること。約束。契約。宿世の縁。前世の約束。
ちぎり(乳切)名ちぎりきの略。
ちぎり(木)名喧嘩などに用ゐる太き杖。長さ乳のあたりまでに及ぶより名づく。

ちぎり(木)名喧嘩などに用ゐる太き杖。長さ乳のあたりまでに及ぶより名づく。
ちぎり(木)名喧嘩などに用ゐる太き杖。長さ乳のあたりまでに及ぶより名づく。

ちぎり(木)名喧嘩などに用ゐる太き杖。長さ乳のあたりまでに及ぶより名づく。
ちぎり(木)名喧嘩などに用ゐる太き杖。長さ乳のあたりまでに及ぶより名づく。

ちぎり(木)名喧嘩などに用ゐる太き杖。長さ乳のあたりまでに及ぶより名づく。
ちぎり(木)名喧嘩などに用ゐる太き杖。長さ乳のあたりまでに及ぶより名づく。

ちぎり(木)名喧嘩などに用ゐる太き杖。長さ乳のあたりまでに及ぶより名づく。
ちぎり(木)名喧嘩などに用ゐる太き杖。長さ乳のあたりまでに及ぶより名づく。

ちぎり(木)名喧嘩などに用ゐる太き杖。長さ乳のあたりまでに及ぶより名づく。
ちぎり(木)名喧嘩などに用ゐる太き杖。長さ乳のあたりまでに及ぶより名づく。

ちぎり(木)名喧嘩などに用ゐる太き杖。長さ乳のあたりまでに及ぶより名づく。
ちぎり(木)名喧嘩などに用ゐる太き杖。長さ乳のあたりまでに及ぶより名づく。

ちく(癡愚)名おろひ。バカ。白癡。
ちく(智慧)名かしこきとおろかなること。
ちく(軸)名車の心木。轂中に貫きて輪を持つ棒。よこがみ。圓きもの。又は巻くもの中心に通じたる棒。又其兩端に出づる所。

ちく(軸)名車の心木。轂中に貫きて輪を持つ棒。よこがみ。圓きもの。又は巻くもの中心に通じたる棒。又其兩端に出づる所。

ちく(軸)名車の心木。轂中に貫きて輪を持つ棒。よこがみ。圓きもの。又は巻くもの中心に通じたる棒。又其兩端に出づる所。

ちく(軸)名車の心木。轂中に貫きて輪を持つ棒。よこがみ。圓きもの。又は巻くもの中心に通じたる棒。又其兩端に出づる所。

ちく(軸)名車の心木。轂中に貫きて輪を持つ棒。よこがみ。圓きもの。又は巻くもの中心に通じたる棒。又其兩端に出づる所。

ちく(軸)名車の心木。轂中に貫きて輪を持つ棒。よこがみ。圓きもの。又は巻くもの中心に通じたる棒。又其兩端に出づる所。

ちく(軸)名車の心木。轂中に貫きて輪を持つ棒。よこがみ。圓きもの。又は巻くもの中心に通じたる棒。又其兩端に出づる所。

ちく(軸)名車の心木。轂中に貫きて輪を持つ棒。よこがみ。圓きもの。又は巻くもの中心に通じたる棒。又其兩端に出づる所。

ちく(軸)名車の心木。轂中に貫きて輪を持つ棒。よこがみ。圓きもの。又は巻くもの中心に通じたる棒。又其兩端に出づる所。

ちく(軸)名車の心木。轂中に貫きて輪を持つ棒。よこがみ。圓きもの。又は巻くもの中心に通じたる棒。又其兩端に出づる所。

ちく(軸)名車の心木。轂中に貫きて輪を持つ棒。よこがみ。圓きもの。又は巻くもの中心に通じたる棒。又其兩端に出づる所。

ちく(軸)名車の心木。轂中に貫きて輪を持つ棒。よこがみ。圓きもの。又は巻くもの中心に通じたる棒。又其兩端に出づる所。

ちく(軸)名車の心木。轂中に貫きて輪を持つ棒。よこがみ。圓きもの。又は巻くもの中心に通じたる棒。又其兩端に出づる所。

ちく(軸)名車の心木。轂中に貫きて輪を持つ棒。よこがみ。圓きもの。又は巻くもの中心に通じたる棒。又其兩端に出づる所。

ちき(癡愚)名おろひ。バカ。白癡。
ちき(智慧)名かしこきとおろかなること。
ちき(軸)名車の心木。轂中に貫きて輪を持つ棒。よこがみ。圓きもの。又は巻くもの中心に通じたる棒。又其兩端に出づる所。

ちき(軸)名車の心木。轂中に貫きて輪を持つ棒。よこがみ。圓きもの。又は巻くもの中心に通じたる棒。又其兩端に出づる所。

ちき(軸)名車の心木。轂中に貫きて輪を持つ棒。よこがみ。圓きもの。又は巻くもの中心に通じたる棒。又其兩端に出づる所。

ちき(軸)名車の心木。轂中に貫きて輪を持つ棒。よこがみ。圓きもの。又は巻くもの中心に通じたる棒。又其兩端に出づる所。

ちき(軸)名車の心木。轂中に貫きて輪を持つ棒。よこがみ。圓きもの。又は巻くもの中心に通じたる棒。又其兩端に出づる所。

ちき(軸)名車の心木。轂中に貫きて輪を持つ棒。よこがみ。圓きもの。又は巻くもの中心に通じたる棒。又其兩端に出づる所。

ちき(軸)名車の心木。轂中に貫きて輪を持つ棒。よこがみ。圓きもの。又は巻くもの中心に通じたる棒。又其兩端に出づる所。

ちき(軸)名車の心木。轂中に貫きて輪を持つ棒。よこがみ。圓きもの。又は巻くもの中心に通じたる棒。又其兩端に出づる所。

ちき(軸)名車の心木。轂中に貫きて輪を持つ棒。よこがみ。圓きもの。又は巻くもの中心に通じたる棒。又其兩端に出づる所。

ちき(軸)名車の心木。轂中に貫きて輪を持つ棒。よこがみ。圓きもの。又は巻くもの中心に通じたる棒。又其兩端に出づる所。

ちき(軸)名車の心木。轂中に貫きて輪を持つ棒。よこがみ。圓きもの。又は巻くもの中心に通じたる棒。又其兩端に出づる所。

ちき(軸)名車の心木。轂中に貫きて輪を持つ棒。よこがみ。圓きもの。又は巻くもの中心に通じたる棒。又其兩端に出づる所。

ちき(軸)名車の心木。轂中に貫きて輪を持つ棒。よこがみ。圓きもの。又は巻くもの中心に通じたる棒。又其兩端に出づる所。

ちき(軸)名車の心木。轂中に貫きて輪を持つ棒。よこがみ。圓きもの。又は巻くもの中心に通じたる棒。又其兩端に出づる所。

ちくするじつ(竹辭日)名陰曆五月十三日
 ちくせうしゆん(竹小春)名陰曆八月
 ちくせき(蓄積)名つみたかはふること。又其物
 たくはへ。
 ちくせき(逐斥)名おひはらふと。おひしりぞく
 ちくせき(竹席)名たつむしるに同じ。
 ちくせふ(蓄妾)名めかけをおくこと。
 ちくせん(竹筵)名竹の皮を細く割きて綱代
 に編みたる敷物。
 ちくせん(筑前琵琶)名琵琶の一種
 薩摩琵琶に類するもの。
 ちくそ(血尿)名痢に同じ。
 ちくそ(竹藪)名たかむらに同じ。
 ちくたう(竹刀)名しなひに同じ。
 ちくち(恒棍)名心の中にてはづかしく思ふこ
 とはぢらふこと。兼「顔厚有」
 ちくち(地口)名既に世に行はれたる成語に似
 通ひたる音の語をいひかけて他の意味を含ま
 しむるもの。戯にすることなり。又語呂といふも
 り。共に文に記す。又之と相似て口に話すもの
 をしやれといふ。
 ちくち(行燈)名祭禮用の行燈。方
 形の枠に紙又は絹地を貼り地口を記したる
 もの。多くは疎畫を書き加へたり。
 ちくづけ(附)名遊戯の一。出題の句に地
 口をつけ加へ互に優劣を争ふ會。

ちくちく(名詞)針などにて刺すさまに
 ちくちく(絶えず起り又は痛むさま)に
 ちくちく(逐條)名一條二條と條を逐ひ
 てなすこと。箇條の順に随ひてなすこと。
 ちくちく(審議)名箇條を逐ひて詳細に
 審議すること。逃亡する。出奔。
 ちくちく(逐電)名電を逐ふ義跡を晦まして
 ちくちく(蓄電器)名多量の電氣を集
 むるに用ゐる器。廣き面積を有する二枚の金
 屬板を極めて近く互に平行に對立せしめ其
 一を針金を以て地球に繋ぎ他の板に電氣を
 掛くる装置。ライデン瓶は此一種なり。
 ちくちく(蓄電池)名理電氣的エネルギー
 ギーを化學的エネルギーとして或時間貯
 藏し之を必要なる時再び電氣的エネルギー
 として使用し得るもの。其構造は格子状を
 なして數多の小孔を有する二枚の鉛板を取り
 一酸化鉛を稀硫酸にて煉りたるものを其表
 面に詰めて稀硫酸を盛りたる器中に對立せし
 めたるものなり。尙ほ電池の容量を大にするた
 め鉛板の數對を列に繋ぎたるもの普通にも多
 く用ゐる。
 ちくちく(筑登子)名琉球の官名。里之子に
 ちくちく(竹馬)名たけうま。
 ちくちく(友)名共に竹馬に乗りし友の
 義幼少の時の友。をさなともだち。
 ちくちく(竹帛)名古支那にて竹帛に書を

記したるよりいふ書冊の稱。
 ちくちく(功)名(書物)に書き遺さるる程
 の大功といふ義。大なる功績。
 ちくちく(名物)物の入り交りて揃はぬこと。くひ
 ちがふこと。
 ちくちく(著髮)名剃髮せる人の再び髮を長
 ちくちく(乳首)名乳房の中央に小さく突きいで
 たること。女なるは此處より乳汁を出す。
 ちくちく(竹夫人)名だきかごに同じ。
 ちくちく(蜘蛛)名蜘蛛。つちぐもに同じ。
 ちくちく(畜養)名飼ひ養ふこと。
 ちくちく(逐約)名數三箇以上の整數ある
 時其中の二つづつに就きて順次に互約を行
 ふこと。
 ちくちく(おきと)千座置戸一名太古、犯罪
 者に科して其罪を贖はしめたる一種の敷物。
 ちくちく(竹林)名たかやぶ。
 ちくちく(七賢)名支那の晉の世
 に竹林に遊べる七人の賢者。即ち嵇康、阮籍、
 山濤、向秀、劉伶、阮咸、王戎をいふ。
 ちくちく(地口)名他動詞。四掛。酒落をいふ。
 ちくちく(地車)名至つて重き物をせて運ぶ
 に用ゐる車。低くして四輪なり。
 ちくちく(畜類)名家にかふ獸。一般に
 けもの。ちくしやう。
 ちくちく(軸列)名正。正面變換の際、廻頭の
 ちくちく(軸體)名船のへさきととも。

ちくちく(相衝む)句船の多く相つづくさまに
 ちくちく(逐鹿)名鹿を以て帝位に喩へ、
 之を争ふをいふ。兼「中原選」
 事「戎軒」
 ちくちく(轉じて)政權又は地位を獲んと
 争ふこと。選舉の競争。
 ちくちく(選擧の競争)「ある範圍」
 ちくちく(場裡)名選舉の競争
 ちくちく(竹輪)名蒲鋒の一種。其餘を見よ。
 ちくちく(治化)名人民を治め導くこと。
 ちくちく(地火)名陰陽家にていふ語。地に火氣
 ありとて樹を植ゑ、礎をすうる等土を動かすを
 忌む日。
 ちくちく(地外)名一區劃の地域外。
 ちくちく(治外法權)名(法)他
 國に在るとき、其の所在國の法律に従はずし
 て、自己本國の法を以て支配せらるべき特權。
 又一國が他國の疆域内に於て、自國の法律を
 施行し得る特權。規定の範圍外にいふ語。
 ちくちく(運送)名おそきこと。のろきこと。
 ちくちく(置換)名おきかへに同じ。
 ちくちく(作用)名(化學)置換作用の
 略。化合物より一部分成分を脱し、代りに他の
 物を化合せしむること。
 ちくちく(論)名(數)或物を置き換へて一つ
 の順序より他の一つの順序に移ることを置換
 といふ。一組の置換中何れの二つを合はすと
 必ず此一組の置換の中の或一つを生ずる時
 は此一組は羣をなせりと。置換論は置換

羣の性質を論ずるものにして方程式論の研
 究上最重要なるものなり。
 ちけ(竹園)名たけのそのふに同じ。
 ちけ(地下)名古。昇殿を聽せざりし五位
 以下の官人の稱。堂上殿上の對。禁裏に
 仕ふる人より、其以外の人をいへる稱。
 ちけ(治下)名其政治の下。しはいじた。
 ちけ(統治の地)支配下の村。
 ちけ(答刑)名五刑の一。答にて打つ刑。十
 より五十に至る五等あり。たたき。答罪を參
 看せよ。
 ちけ(地形)名土地の高低、傾斜等の状
 態。地勢。兵戰地に於ける水陸山野島
 洲等を以て形成せる天然の形象をいふ。
 ちけ(測りやう)名測量。名地表の起伏
 状態を測定し之を圖示するを目的とする測
 量。
 ちけ(智計)名かしこきはかりこと。智謀。
 ちけ(地頭)名地。ちけ(地頭)に同じ。
 ちけ(知曉)名明に知れること。よくしり
 さとること。知解。
 ちけ(地峽)名地。大陸の相連続する所
 又は半島の頸部に於て陸地の幅著しく蹙ま
 れる所。
 ちけ(血煙)名人を斬りたる時などに血の
 ちけ(地券)名土地の所有權を認めて政

府より其所有者に下附せる證書。沽券。
 土地公示の證券。
 ちこ(狀)名地券に同じ。
 ちこ(知縣)名支那にて縣の長官。ちこ(見聞)名
 ちこ(見聞)名知識。見聞。ちこ(み)み。み
 ちこ(智劍)名物事を裁斷する能力を劍に
 たしていふ語。
 ちこ(知言)名物事は非得失を明らかに言
 ちこ(稚兒)名乳子の義。ちこ(のみ)こ。赤子。
 ちこ(子供)名。わらは。寺院にて給仕に使
 ちこ(童子)名。専ら男色に供せられたるものにて
 華麗なる風装をなし若衆鬘を結ひたり。特
 種の祭禮又は紀念日などの行列に紅粉を裝
 ひて出す男女のこと。
 ちこ(持碁)名勝負なき碁。和局。
 ちこ(地溝)名地殼に相平行せる斷層
 を生じ其間に挟まれたる地盤の陥落する時
 生ずる帶狀の低地。地溝帶。
 ちこ(稚兒)名稚兒。小兒の成長。
 ちこ(稚兒頭)名稚兒の頭の如く影み
 たる柱頭。主に柱の上端等
 ちこ(稚兒)名稚兒。幼な顔。
 ちこ(治國)名國を治むること。列子「一之難
 在。知賢」
 ちこ(平天下)名世の中をさ
 ちこ(運刻)名規定の時刻におくること。



ちこ

ちこく(地獄)名(佛)六界の一。地下にありといふ苦しみ世界。罪障深き亡者の墮つる處にして等活、墨繩、合會、叫喚、大叫、喚、焦熱、大焦熱、阿鼻の八大地獄ありといふ。冥府。ナラフ。苦患にかかる處。苛責を受くる處。④火山などの常に火煙を出す處の稱。⑤賣春婦の異稱。
ちこく(一)落名鼠を捕ふる一種の仕掛。鼠の餌を食ふ途端に押への板の落つるやうにしたもの。
ちこく(一)ばら(一)腹名女子のみを分焼する婦人。
ちこく(一)みみ(一)耳名一度聞けることは忘るることなしといふ性分。
ちこく(一)糸(一)繪名地獄にて亡者苦患の狀を畫一の沙汰も金次第。此世は黄金の力にて如何なる人をも左右することを得るに譬ふ。
ちこく(一)てんわう(一)持國天王名佛。四天王の一。東方を護るといふ。
ちこく(一)さくら(一)兒櫻名種。山櫻の一種。一重にして花小く、其瓣内へ反り白くして疎なり。
ちこく(一)そだち(一)稚兒育名をさなす。
ちこく(一)こつ(一)恥骨名男女の陰毛の生ずる部分の骨。
ちこく(一)こつ(一)地骨名石の異稱。
ちこく(一)こつ(一)地骨皮名く、枸杞の根の皮を藥とするときの稱。
ちこく(一)ばみ(一)乳兒食名乳呑子が乳首をかみてちこまげ(一)稚兒鬘名ちこわに同じ。

ちさ

ちさ(一)わ(一)稚兒輪名こどもの髪のかみ方。振分髪を取上げ頭上に高く左右に輪を作りたるもの。
ちさ(一)こゑ(一)干聲名多くの聲。
ちさ(一)こゑ(一)地聲名性來の聲。
ちさ(一)さ(一)智者名ちしやの約。
ちさ(一)葛草名種。莖三四尺に至る草。葉の形長き楕圓状をなし、多くの皺ありて軟かし。煮又は生にて食す。種類甚多し。
ちさ(一)齊墩果名種。高さ丈餘に達する喬木。葉は楕圓にして少しの鋸齒あり、大さ二寸程ありて互生す。夏白花を開きて總状をなし莖垂る。香あり。實は秋に熟し上に白粉あり油を搾る。材を傘の輻とすよりろくろぎとも云ふ。ちさのき。
ちさ(一)さい(一)致齋名神にたづさはる人が其まきはに至りて行ふいみじ。
ちさ(一)さい(一)答罪名古昔五刑の最も輕きもの。答(しもとむち)にて脊骨、腿を打つ。數により輕重あり。
ちさ(一)さい(一)治罪名犯罪を調査し處分すること。
ちさ(一)は(一)法名法。犯罪處分に關する手續又は裁判所の構成等を規定したる法律。刑事訴訟法及裁判所構成法の發布實施以前に施行せられたるもの。現今は陸軍に陸軍治罪法、海軍に海軍治罪法あるのみ。
ちさ(一)さ(一)蔵名佛。ちさうボサツの略。
ちさ(一)が(一)ほ(一)顔名佛。地藏の顔の如く圓

ちさ

ちさ(一)太(一)り(一)たる(一)や(一)さ(一)し(一)顔名嬉しさうなる顔。借りた時の一。
ちさ(一)ボ(一)サ(一)ツ(一)一(一)菩薩名佛。釋迦の入滅してより彌勒出世までの間六道能化を付囑せられたりと稱せらる。菩薩にして四十八身をあらはし能化休止なしと云ふ。
ちさ(一)ま(一)つ(一)り(一)一(一)祭名七月廿四日各所の地藏堂又は路傍の石地藏等に燈明を點じ物を供へて祭ること。
ちさ(一)ま(一)ゆ(一)一(一)眉名長くして彎曲し本太くして「ちさうがだけ」(一)地獄獄甲斐國にあり。
ちさ(一)さ(一)か(一)ひ(一)け(一)一(一)地境名土地のさかひ。
ちさ(一)さ(一)し(一)一(一)小形一ちひさしに同じ。
ちさ(一)と(一)一(一)千里名多くの村里。
ちさ(一)さ(一)む(一)ら(一)ひ(一)一(一)地侍名土着の武士。土家。
ちさ(一)さん(一)一(一)運參名定め時刻より遅れて參ると。
ちさ(一)さん(一)一(一)治産名産業を治むること。
ちさ(一)さん(一)一(一)持參名物品を持ちて參ると。
ちさ(一)さん(一)一(一)金名嫁及婿の縁づく時にもたらしにんしようけん(一)人證券名證券發行の形式が證券の持參人に證券記載の物を給付すべきことを記載したる證券。
ちさ(一)し(一)一(一)地誌名地理を記したる書物。地理書。
ちさ(一)し(一)一(一)知齒名人が成熟したる時齒列の最後に生ずる白齒。ちさば。
ちさ(一)し(一)一(一)致死名死にいたらしむること。「毆打」

一六五〇

ちし

ちし(一)地(一)鳴名土地の突出せる處。岬。
ちし(一)痴(一)子名おろかなる子。バカもの。愚人。
ちし(一)致(一)仕名祿位を君に奉還して退隱する。
ちし(一)稚(一)子名をさなす。「と」官職を退くと。
ちし(一)稚(一)兒名をさなす。
ちし(一)知(一)事名一府又は縣の長官。④中古の官制に本官に接して權に職を掌る者の稱。知太政官事。
ちし(一)地(一)子名中古公田を營種せしめて獲たる利稻。後世市街地の課税に此稱を用ひたるは轉じたるなり。
ちし(一)知(一)識名一知ること。理會。會得。④感覺によりて得られたる心の産物をいふ。
ちし(一)よ(一)く(一)一(一)欲名事物を知らんとする欲望。
ちし(一)智(一)識名一道理を知りわく意識の作用。④佛。智慧見識ある僧。「明僧」。
ちし(一)敷(一)敷名一種の敷物。唐筵に大文の高麗縁を附したるもの。
ちし(一)じ(一)き(一)一(一)地磁氣名地。地球の軸の兩端に有する正負の磁氣にして磁針が南北の方向を取るは其作用を受くるが爲なり。
ちし(一)き(一)よ(一)く(一)一(一)極名磁石の伏角九十度を示す地點。一はアメリカのアーシヤ半島、他は南洋中。
ちし(一)せ(一)ん(一)一(一)子午線名地。磁石の靜止せる方向を通過する鉛直面。
ちし(一)せ(一)き(一)だ(一)う(一)一(一)赤道名地。磁石の伏角

ちし

の無き地球上の地點を連ねたる線。
ちし(一)く(一)わ(一)ん(一)ば(一)う(一)一(一)知事官房名官房の條を見よ。
ちし(一)し(一)こ(一)一(一)知死期名陰陽家が人の死期を豫ちしせん(一)地子錢名地子として上納する錢。
ちし(一)し(一)つ(一)一(一)地質名地層の状態又は土地の性質。
ちし(一)が(一)く(一)一(一)學名地層の状態地殼の組織成立等を研究する科學。
ちし(一)け(一)い(一)と(一)う(一)一(一)系統名地層生成の順序。原始古生中生新生の四大界に分つ。
ちし(一)つ(一)一(一)圖名地。其地の地質狀態、即ち土地の構成の種類の分布を圖に表したるもの。
ちし(一)て(一)う(一)さ(一)一(一)一(一)調査名一地方を成せる岩石の種類、其土地を造る構造狀態、地中の礦石等の存在分量等を探求すること。
ちし(一)ね(一)ん(一)だ(一)い(一)一(一)年代名地層生成の年代。原始古生中生新生の四大代に分つ。
ちし(一)じ(一)つ(一)一(一)週目名日足の遅く容易にくれぬ義。
ちし(一)し(一)つ(一)一(一)痔疾名瘡。痔に同じ。「春日を云ふ」。
ちし(一)し(一)ば(一)り(一)一(一)地縛名種。野生の草。葉は莖形又は披針状にして羽状をなすもあり。春花莖三四寸に生長し黄色なる菊の如き花を開く。根細くして地中に蔓延するより此名あり。
ちし(一)し(一)ほ(一)れ(一)一(一)血汐名流れ出る血。流血。
ちし(一)し(一)ほ(一)れ(一)一(一)千入名。④幾度も染汁に入れ

ちし

て染むること。
ちし(一)し(一)ん(一)一(一)地心名地球の中心。④(一)地地球内部の灼熱せる液體の部分。
ちし(一)ち(一)へ(一)い(一)一(一)地平名天。地球上の一點の地平面と平行に地心を通過する平面。
ちし(一)ち(一)へ(一)い(一)一(一)位置名天。地心より視たる天體の方向を表はす量。日心位置の對。
ちし(一)ち(一)へ(一)い(一)一(一)緯度名天。地心より天體を見たときの緯度。
ちし(一)ち(一)ん(一)一(一)地神名國つ神。地祇。
ちし(一)ち(一)ん(一)一(一)代名古來の俗説に、人皇前に我國を知るしめし五柱の神。即ち天照大神。天忍穗耳尊。天津彦火瓊杵尊。彦火火出見尊。鸕鷀草不合尊の稱。
ちし(一)ち(一)ん(一)一(一)人名知り合ひ。しるべ。知己。
ちし(一)ち(一)ん(一)一(一)人名おろかもの。愚人。痴人。
ちし(一)ち(一)ん(一)一(一)地震名一火山地熱の變動。土地の陥落斷層等により地殼の震動すること。なほ④一時に多數の官吏又は職員などの轉任又は免職せらるること。
ちし(一)ち(一)ん(一)一(一)學名地震につきて研究し兼て震災の豫防。地震器械の應用等を論ずる學科。
ちし(一)ち(一)ん(一)一(一)口名雨戸の内に設けたる小さき滑り戸。
ちし(一)ち(一)ん(一)一(一)計名地。地震の震幅。方向を記し又不斷に地の動靜を調査するを目的とする器械。

一六五一

語。「見つむ」
ちつとも 副助詞 ちともと同じ。
ちつばく 繫縛 名 つなぎしばると。
ちつぶく 蟄伏 名 籠りかゝること。ひそみ
ること。●蟄類の冬地中にすこもると。
ちつぼく 地坪 名 地面の坪敷。地積。建坪の對
ちつぼけ 名 ちひさきと。
ちつろく 秩祿 名 官より人の等級によりて賜
る祿。扶持。知行。俸祿。
ちこうさい しようしよ 公債證書 名
明治維新の際、華士族の祿高に代へて政府
より下賜せられし公債證書。
ちてい 池底 名 池の傍にある小き家。
ちてい 池亭 名 池の傍にある小き家。
ちてい 地堤 名 地層の中央高く兩側の
順次に低落せるもの。
ちと 副助詞 ちつとと同じ。
ちと 池頭 名 池のほとり。
ちと 地動 名 地盤のふるひ動くこと。●大
地の自轉。公轉を云ふ。
ちと 一説 名 天體の日週運動と太陽及
惑星の年周運動とを地球の自轉と周轉とに
歸する學說。天動說の對。
ちとう 地頭 名 鎌倉時代 公許を得て諸
國の莊園に置き領内を支配せしめし職。●一
郷一村の土地の領主の稱。
ちだいくわん 代官 名 地頭に代りて事

務を扱ふもの。
ちとうてんわうのし 持統天皇 第四十代
の天皇。御名は菟野。在位十年。壽五十八。
ちとく 知得 名 心に會得すること。のみこむと。
ちとせ 千歳 名 千年。●限もなく多き年。
永遠の歲月。
ちがひ 貝 名 貝の形に類して小く、
淡褐色の斑文あり。龍神貝。唐冠。
ちのこゑ 千秋樂 名 千秋樂又は萬歳樂
と呼ぶ聲。萬歳をとふる聲。
ちどん 運鈍 名 物に應ずること遅く鈍くして
機會をはずすこと。ゆるやかにしてにぶきこと。
ちどん 痴鈍 名 氣轉のきかぬこと。おろか。
馬鹿。
ちどめ 血止 名 傷口にぬりて出血を止む
る藥。●槍の柄の上部の緒にて巻きたる部分
いし 石 名 血止に用ゐる鑽石。石見
國佐渡國等より出づ。
ちぐさ 草 名 山野庭園等に自生す。
細莖地上を匍匐し所々より根を生ず。葉は
圓く掌狀に淺裂し光澤あり。葉腋より長梗を
出し小形の花を頭狀の繖形花序に排列す。
ちとも 副助詞 ちつともと同じ。
ちどり 千鳥 名 數多の鳥。ももちどり。
ちどり 名 香の名。ちんの一稱。●ちどりあし。
ちどりがけの略。●動 河海の邊に羣棲し、

鶴鶴より小さく尾短し。背部青黒色にして頰
腹は白色、頭背は蒼黒色なり。
ちあし 足 名 千鳥の歩む如く酒に酔ひ
たる人の兩足を打交へてよろめきなかり歩む
こと。蹠蹠。
ちがけ 掛 名 絲をたがひがひに斜に交
へてかかると。
ちがひ 貝 名 貝の形千鳥の如き一種
ちぐさ 草 名 莖は高さ一二尺に達し
數箇の長き披針形の葉は互生し基部は莖を
抱く。花蓋は紫色或は白色にして六箇の片よ
り成る。觀賞用として栽培す。
ちぬひ 縫 名 セル又はフランネル
等の縫込の端のほつれざるやうに縫ふ縫方に
て山道の形をなせるもの。
ちはふ 破風 名 屋根面に取付けたる
三角形をなしたる破風にして、中に木連絡子
を嵌め込みたるもの。
ちどり 地取 名 家屋を築く前地面の區劃
をなすと。●相撲の稽古。
ちない 地内 名 一區域の土地の内。境内。
ちなう 智囊 名 智多くして囊中に物を
盛りたる如き義智者の稱。
ちなし 地無 名 地無小袖の略。
ちこそて 小袖 名 全身を金箔にて一面
に松川莖の如く、箔を置ける昔の女の小袖。

ちなまぐさし 血腥 形 血なまぐさき如
き香あり。●戦亂多きにいふ語。「一き時代」
ちなみ 因縁 名 ゆかり。えにし。いんえん。
一に副ついでに。つけ加へて。
ちなむ 因 自動 四 因縁す。たよる。すがら
ちなん 呢喃 名 燕などのさへる聲。●
べちや 語るさまにいふ語。「燕語」
ちならし 地均 名 地面を平かにすると。
地ならしに用ゐる大なる圓形の石。回轉して
地上を曳く。●耕地の紗肥に用ゐる農具。其
形備中鍬に似て商杆短し。
ちなり 地形 名 土地の有様。地勢。
ちなり 地鳴 名 地の震動に起因する音響。
ちなぬ 芽滓 名 ちぬだひの略。「鳴動」
ちだひ 鯛 名 鯛のちぬだひに同じ。
ちぬし 乳主 名 うばに同じ
ちぬし 地主 名 土地の所有主。
ちぬる 豊 自動 四 支那にて牲の血を祭器
に塗りて神を祭る。又敵を殺して其血を鼓に
塗りて軍神を祭る。
ちなずみ 地鼠 名 鼠の一種。形通常の鼠
の如く口細長く土中にひそむ。ひみず。
ちなつ 地熱 名 地球内部の温熱。地球
固有の温熱。
ちのう 智能 名 智識才能の義。智慧のはた
ちけん 権 名 精神的製作なる無體物を
客體とする權利。

ちのみこ 乳呑兒 名 乳を呑む幼兒。あかこ
ちのぼせ 血逆 名 ぎやくじやう。のぼせ。
ちのり 地乘 名 馬術の語。地道をのると。
ちのりのゆき 千箭靱 名 數多く箭をさし
入れたる靱。
ちはうねん 一方の土地。●其
陸軍將校を志願するものを養成する學校。
ちはうねんがくかう 幼年學校
小學校卒業者より收容す。
ちぎくわい 議會 名 法 地方行政の議
決機關。即ち府縣會の如きもの。
ちきくわん 機關 名 法 地方行政を取
扱ふ機關。
ちぎやうせい 行政 名 行政區劃
の各地方に行ふ行政。
ちくわん 官 名 地方行政の事務を取
扱ふ官吏。
ちくわんちやう 官廳 名 法 行
政區劃の一地方内の行政事務を其名に
よりて施行する權限及責任ある機關。又
其機關が其職務を處理する所。地方行政
官廳。
ちんだんたい 團體 名 地方自治體に
ちやう 廳 名 地方行政官廳に
ちふ 府 名 前に同じ。「同じ」
ちきよく 一局 名 内務大臣の意思をうけ

て地方行政慈善用の營造物。徴兵等に關す
る事項を取扱ふ内務省の一局。
ちくわん 官 名 地方行政官。
ちくわんしふ 慣習 名 各地方に行
はれ來りたるならし。「官廳に同じ」
ちくわんちやう 官廳 名 地方行政
にけいさつ 警察 名 法 地方官廳の權
限に屬する警察。
ちけん 權 名 法 地方警察に就て命
令を發し處分を行ふ權限。
ちさい 債 名 債權者が地方團體なる公
債。地方債を許すには内務・大藏兩大臣の認
可を要す。
ちさいばんしよ 裁判所 名 通常裁判
所の一。區裁判所の直接上級なる合議制度
の裁判所。
ちじ 時 名 各地地方にて太陽が其地の
子午線の上に来る時。正午として數ふる時。
ちじち 自治 名 自治に同じ。
ちきくわん 機關 名 自治機關に同じ
ちたい 體 名 自治體に同じ。
ちせい 稅 名 各府縣廳が其地方の經費
維持のため其領域内の人民に賦課する稅。
ちせいで 制度 名 地方的行政組織
中央官府の組織に對す。今日にては官治制
度・自治制度の別あり。
ちそくこうじよ 測候所 名 道廳府

先頭。③そうりやう。嫡首。④をさき。首領。統御者。⑤としかき。高齒。⑥としより。老年。⑦位の高き人。尊上。めうへ。

ちやう(一町)名。①田のあべ。②かぎり。區域。③距離の單位。六十間の稱。④地積の單位。十段の稱。⑤市街の區分。五丁目。⑥市及村と共に最下級の地方自治團體。

ちやう(一腸)名。①消化器の一部。胃より肛門に至る細き腸管。排泄物を通ず。はらわた。ひやくひろ。②ころ。心衷。前漢書「無二咎一」。

ちやう(一張)名。二十八宿の一。南方にあり。

ちやう(一疔)名。①多く面部に發する極めて危険なる腫物。一面。

ちやう(一廳)名。①役所。官署。②府。③檢非違使の役所。④臺灣の行政區劃の名稱。

ちやう(一丁)名。①偶數。②壯年の男子の稱。チヤウ(茶字)名。茶字の略。

一じま(一縞)名。印度のチャウルより舶來したる絹布。琥珀の薄きものにて地合よくしまれるもの。袴地として用ゐらる。

ちやう(一挺)名。①墨銃。蠟燭等の如く細長きものを數ふるに用ゐる語。②駕籠人力車等を數ふるに用ゐる語。

ちやう(一丁)名。①接尾。②書物の紙數を數ふるに用ゐる語。③豆腐の切數を數ふるに用ゐる語。

ちやう(一張)名。①張。②弓。琴など絃を張りたるも

のを數ふるに用ゐる語。③幕又はとばりなどつりて張るものを數ふるに用ゐる語。

ちやう(一丈)名。①たけ。ながさ。長。②つかさ。③尺度の単位。十尺の稱。④他人を尊びていふ語。「尾上菊五郎」。⑤禪宗にて長ちやう(一錠)名。じやうに同じ。「老の稱」。

ちやう(一錠)名。①それと定まりたる。必定。②佛のこもり居て佛道を思念すること。禪定。一に入る。

ちやう(一杖)名。①つゝ。②てこ。木槌。③戈の柄。④杖罪に同じ。

ちやう(一合)名。①帳合。②金銭の勘定と帳面と引合はせて計算すること。

ちやう(一合)名。①漲。②みなぎりあるること。

ちやう(一合)名。①支那にて手を拱きて丁寧をなすこと。

ちやう(一合)名。①佛。禪定に入る時に手に印を結ぶをいふ。

ちやう(一合)名。①帳入。②帳入。③帳目。④帳目。⑤帳目。⑥帳目。⑦帳目。⑧帳目。⑨帳目。⑩帳目。⑪帳目。⑫帳目。⑬帳目。⑭帳目。⑮帳目。⑯帳目。⑰帳目。⑱帳目。⑲帳目。⑳帳目。㉑帳目。㉒帳目。㉓帳目。㉔帳目。㉕帳目。㉖帳目。㉗帳目。㉘帳目。㉙帳目。㉚帳目。㉛帳目。㉜帳目。㉝帳目。㉞帳目。㉟帳目。㊱帳目。㊲帳目。㊳帳目。㊴帳目。㊵帳目。㊶帳目。㊷帳目。㊸帳目。㊹帳目。㊺帳目。㊻帳目。㊼帳目。㊽帳目。㊾帳目。㊿帳目。

ちやう(一えう)名。①長幼。②大人と小兒と。年より幼きものと。

ちやう(一えき)名。①腸液。②腸液。③腸液。④腸液。⑤腸液。⑥腸液。⑦腸液。⑧腸液。⑨腸液。⑩腸液。⑪腸液。⑫腸液。⑬腸液。⑭腸液。⑮腸液。⑯腸液。⑰腸液。⑱腸液。⑲腸液。⑳腸液。㉑腸液。㉒腸液。㉓腸液。㉔腸液。㉕腸液。㉖腸液。㉗腸液。㉘腸液。㉙腸液。㉚腸液。㉛腸液。㉜腸液。㉝腸液。㉞腸液。㉟腸液。㊱腸液。㊲腸液。㊳腸液。㊴腸液。㊵腸液。㊶腸液。㊷腸液。㊸腸液。㊹腸液。㊺腸液。㊻腸液。㊼腸液。㊽腸液。㊾腸液。㊿腸液。

ちやう(一か)名。①町家。②まちずまひの家。③商ちやう(一か)名。①丁香。②熱帯地方に産する木。幹の高さ一丈ばかり、木の状、肉桂に似て、葉は稍細く、柳の葉に似たり。其實は香料薬料とす。

一ゆ(一油)名。①丁香の花蕾に水蒸氣を通じ蒸溜して得たる揮發油。多く商標粉又は含嗽水に佳香を附するに用ゐる。②他種微鏡標本を透明にするに用ゐる又チヨコレート製造品に於て芳香料として使用せられ稀には醫藥に供せらる。

ちやう(一か)名。①長庚。②よひの明星。太白。

ちやう(一か)名。①講義。②講義をまくこと。

ちやう(一か)名。①長講。②長講。③長講。④長講。⑤長講。⑥長講。⑦長講。⑧長講。⑨長講。⑩長講。⑪長講。⑫長講。⑬長講。⑭長講。⑮長講。⑯長講。⑰長講。⑱長講。⑲長講。⑳長講。㉑長講。㉒長講。㉓長講。㉔長講。㉕長講。㉖長講。㉗長講。㉘長講。㉙長講。㉚長講。㉛長講。㉜長講。㉝長講。㉞長講。㉟長講。㊱長講。㊲長講。㊳長講。㊴長講。㊵長講。㊶長講。㊷長講。㊸長講。㊹長講。㊺長講。㊻長講。㊼長講。㊽長講。㊾長講。㊿長講。

供す。甲乙の大小二種あり。

ちやう(一かく)名。①聴覺。②耳により音響を知覺すると。即ち空氣の振動によりて生ずる音波なる一定刺戟によりて生起せらるる感覺。

ちやう(一かく)名。①長角。②ながまつの。③(種)なたね等の子房の如く二心皮の癒合より成り長形にして一片に裂開する果實。

ちやう(一かく)名。①頂角。②三角形の底邊に對する角。

ちやう(一かく)名。①特定したる諸國の官寺の稱。

ちやう(一かく)名。①定額寺。②名中古數を限り

ちやう(一ガス)名。①腸瓦斯。②食物及飲料並に口腔液と共に嚥下せられたる空氣及細菌醱酵素によりて腐敗分解の結果生じたる瓦斯及腸内化學的變化によりて生ぜる瓦斯の混合せるもの。

ちやう(一カタル)名。①腸加答兒。②名病。腸の病にして腸管の粘膜炎若くは筋質までも炎症を起したるもの。

ちやう(一かん)名。①聴感。②聴覺に同じ。

ちやう(一がん)名。①腸痛腫。②名病。腸管に發する痛腫。初めは軽度の消化障礙を起し鼓腸便秘等を現はし漸々貧血・惡液質・羸瘦を呈し進んで慢性腸狹窄症を起し遂に閉塞症狀を發するに至る。

ちやう(一き)名。①聽器。②五器官の一。聴覺をつかさどるもの。耳。

ちやう(一き)名。①佛。②兩膝を地に着くこと。

ちやう(一き)名。①長期。②名長き期間。

一てがた(一)名。①手形。②名商。③日附後又は一覽後三箇月或は六箇月の如き長期間を置き支拂はるべき手形。

ちやう(一き)名。①常に定まりて使用する器具。つかひなれたる器。②佛。飯なども佛具。

ちやう(一き)名。①物を眞直にたち、又は直線を引くため、あてて用ゐる具。界尺。定木。

ちやう(一き)名。①天。②蠅座の南方。銀河の中にある星座の名。

ちやう(一き)名。①杖議。②名朝廷の評議。

ちやう(一き)名。①長久。②名ながくひさしきと。ながかつくと。永遠。永久。「武運」。③に同じ。

ちやう(一き)名。①長吉。②名ちよきぶね。

ちやう(一き)名。①丁銀。②名徳川幕府が鑄造したる銀貨にて、一枚四十二匁あり。板または棒の形したるを切りて使用せり。表に銀座常定の極印を打記す。板銀。

ちやう(一き)名。①張行。②名勝手氣儘にあるまふこと。③源平盛衰記「一の餘り、神社佛寺の御領權門勢家の莊園をたふし」。

ちやう(一き)名。①長脚。②名ながき足。

ちやう(一き)名。①聽許。②名ききいふこと。ゆるすと。

ちやう(一き)名。①長距離。②名長き遠き距離。

一てんわ(一)名。①電話。②名普通加入區域外の通話區域中にて通信省に於て指定したる遠

隔の區域と通話し得る電話。其電話通話に普通長距離電話及特別長距離電話の二種あり。

ちやう(一く)名。①長驅。②名遠くまで敵を追ひ行くこと。③遠乗りすること。又遠くまでかけゆくこと。④戰陣策「一五、一齊」。

ちやう(一く)名。①長驅。②名たけ高き身體。

ちやう(一く)名。①町杭。②名河川測量に於て其據點たらしめんが爲に河川の岸に沿ひ、なるべく川形に従ひ一町毎に打つ杭。

ちやう(一く)名。①帳外。②とばりの外。③帳面にしるしてなき物。「るもの。浪人者。一もの。一者。名國をはなれて他郷に浮浪せちやう(一く)名。①場外。②名其場所のそと。

ちやう(一く)名。①長舌。②名ながくしやべること。よくしやべると。

ちやう(一く)名。①長官。②名或る官署の長たる人。つかさのをさ。

ちやう(一く)名。①聴官。②名ちやうきに同じ。

ちやう(一く)名。①茶請。②名蘭茶を飲む時に添へて喰ふ菓子。茶菓子。

ちやう(一く)名。①長兄。②名第一の兄。總領のちやう(一く)名。①長計。②名ながきはかりこと。永遠の計。

ちやう(一く)名。①長慶子。②名雅樂の曲名。舞樂の終りに左右兩方面のみを奏するもの。

ちやう(一く)名。①長慶天皇。②第

九十八代の天皇御名は寛成。在位五年。壽五十二。

ちやうけし(帳消)名 金銭の勘定済となりたる時、帳面上記載の金高の上に線を引きて消す事。①義務の消滅すると。報酬の完了すること。

ちやうけつ(帳月)名 陰曆十一月の異稱。ちやうけつ(腸結核)名 腸結核に肺喉頭に於ける結核菌が粘液略痰と共に嚥下せらるゝによりて發する病。

ちやうけん(長絹)名 古、水干、狩衣などに用ゐし一種の絹布。②次の略。一のすぬかん(水干)名 直垂に似て袖拵ある一種の服。色は多く白を用ゐる。前に四つ背に三つ水干の如き菊綴あり。後には紗又は練絹などを用ゐたり。

ちやうけん(町見)名 測量の語。遠近高低の町間尺を量ること。ちやうけん(長慶子)名 ちやうけい(長袴)名 ながばか。

ちやうこうざしき(長後坐式砲)名 現今一般に使用せらるゝ砲身後坐式野戰速射砲に就ての特稱。即ち砲身と砲架との間に設置せる通常水壓唧筒と發條との併用より成る。駐退復坐の機關は發射間砲架の安定を與へんがため砲身の後坐を十分許

容し且つ直に自動的復坐をなす範式のもの。ちやうごじふ(丁五十)名 維新前に五十文を五十文に通用せしめし。①恰も五十に満つること。②傳達する用をなすもの。

ちやうこつ(腸骨)名 鼓膜の振動を内耳ちやうこつ(腸骨)名 齒の兩側體骨の後上部にある骨。宿世善惡の業作。

ちやうこん(恨)名 宿世善惡の業作。ちやうこん(恨)名 のぞみを失ひてうらむこと。うらみかこつこと。ちやうこん(長恨)名 ながく忘れがたき恨。

ちやうさ(長差)名 天 諸遊星相互の位置の關係より各遊星の運動に及ぼす變化。ちやうさ(長者)名 東寺にて僧の長の稱。

ちやうざ(長坐)名 人を訪ひてその家に長居する事。ながむ。ちやうざ(定座)名 連句にて月花の句を出すべく定まりたる所の稱。例へば歌仙にていへば初表の五句目、初裏の十一句目、名残の表の十一句目は月の句を出すべく、初裏の十一句目は名残の裏の五句目は花の句を出すべく所と定む。

ちやうざい(杖罪)名 古の五刑の一。杖にてうつものにして其の數六十より百に至る。管罪より重し。ちやうざい(錠劑)名 粉末狀の藥物に強

一六六八 壓を加へて扁平或は四面の圓板形となしたる藥劑。

ちやうさう(定相)名 佛 定中に感見すべき奇相。又諸物の變化せざる一定の形相。ちやうさう(醸造)名 酒醬油などをつくること。

ちやうさん(長策)名 長計に同じ。ちやうさん(張三李四)名 名も知れざる平凡なる人々。ちやうし(長子)名 第一の子。長男。

ちやうし(長指)名 手の五指の内第三指中指。ちやうじ(停止)名 せしむること。①特に天子・三后の崩御又は皇族の薨去等に際し歌舞音楽をせしむること。ちやうじ(丁子)名 ①熱帯に産し、樹は肉桂に似て花白く香氣あり。其花蕾は乾して芳香性の調味藥とす。實は香料又は藥品とす。②丁香の略。③丁香の略。

ちやうじ(丁香)名 丁子より製したる香油。ちやうじ(香)名 丁字にて製したる一種の藥。ちやうじ(丁字)名 丁字の形をなしたるもの。ちやうじ(頭)名 燈心のもえさしの自ら結ぶ。ちやうじ(草)名 莖の高さ一尺餘。春丁子に似たる紫色の花を開く。

ちやうくら(芫花)名 莖は高さ三四尺に達し細き枝を生ず。葉は對生し花は二箇乃至又かもしたる酒。ちやうしゆ(聴衆)名 ちやうじゆに同じ。ちやうしゆ(長春)名 長く春なること。①四時通じて花あること。②種 ばらの一種。花は重瓣又は單瓣なり。通常淡紅色にて四時共に咲く。觀賞用として栽培し又其花より香水を製す。

ちやうく(菊)名 福壽草。ちやうく(花)名 舶來の金盞花。ちやうしよ(長所)名 すぐれたる所。得意。ちやうじよ(暢舒)名 のぶること。①の點。ちやうしよ(暢舒)名 訴訟をききて裁決すること。

ちやうじり(帳尻)名 帳簿の決算の結。ちやうす(茶臼)名 葉茶を挽きて抹茶となす石の碾臼。ちやうす(丁數)名 二にて割り切る數。偶數。①書物の枚數。

ちやうせい(長逝)名 死去すること。ちやうせい(長生)名 ながいき。長命。ちやうし(久視)名 前に同じ。ちやうせい(長嘶)名 馬の長くないなくと。ちやうせい(醸成)名 酒などをつくること。

七箇づ、短き花軸の上に集生す。觀賞用とし。ちやうし(染)名 香染に同じ。て栽培す。ちやうし(引)名 白色の唐紙の地紙などに茶色の細き線を引きたるもの。ちやうし(娘子)名 女の敬稱。若き女。息。ちやうし(一軍)名 婦人を以て組織したる軍隊。①婦人の一團體。ちやうし(場師)名 植木屋。庭師。ちやうし(長袖)名 長きそで。①長き袖の衣服を着たるもの。即ち堂上方又は僧侶の稱。ちやうし(者流)名 堂上方又は僧侶の稱。善舞多錢善買。句資財に富めるものは成功し易きに喩ふ。ちやうし(定式)名 定まりたる儀式。い。ちやうし(丈室)名 ぼうむやうに同じ。ちやうじつ(長日)名 ながき日。なつの日。永日。ちやうじつ(定日)名 豫め定め置きたる日。期日。ちやうしん(聽診)名 體內に起る音を聴きて診斷する法。ちやうしん(器)名 聽診に用ゐる器。其種類を大別して管狀聽診器・ゴム管付雙耳聽診器・金屬管付聽診器・共鳴聽診器の四種とす。ちやうしん(長身)名 身のたけの高きこと。ちやうしん(丈人)名 ①舅の稱。②長老の稱。杖人。

ちやうしんけい(聽神經)名 耳より大脳に通じて聽覺をつかさどる神經。ちやうしや(長者)名 ①年うへの人。②目うへの人。③富貴有徳の人。④其氏に於ける宗家總領の稱。氏の一。⑤中世以後驛家の長の稱。⑥中世以後僧職の名。有徳長老の義。東寺の上首として寺務を執る者の稱。ちやうしん(議員)名 多額納稅者議員の異稱。ちやうしん(藤原氏)名 藤原氏の氏の長者の下す。ちやうしん(燈)名 富家の士が萬燈を點するよりも貧者が一燈を點することは其志嘉賞すべきものなるをいふ。ちやうしや(杖者)名 杖をつく人。老人。ちやうじやう(長城)名 長くつながらりたる城。①最も有力なる防禦。ちやうじやう(頂上)名 ①いただき。絶頂。②この上なきこと。最上。ちやうじやう(長上)名 めうへ又年う。ちやうしやく(丈尺)名 ながさ。たけ。寸法。ちやうじゆ(脹腫)名 はれふること。ふ。ちやうしゆ(長主)名 ひめみや。内親王。ちやうじゆ(長壽)名 ながいきすること。長命。ちやうじゆ(聴衆)名 聴聞する人々。き。ちやうしゆ(醸酒)名 さけをつくること。

一六六九

敬禮。長者の前に俯伏し頭頂を以て其人の足下を拜するもの。「歸命」

ちやうらうらう(長老)名 年たけたる人。先輩又住僧。②學問の深く廣き僧。③基督教にて一箇の教會の名譽職若くは牧師の通稱。

ちやうらうらう(長老)名 年たけたる人。先輩又住僧。②學問の深く廣き僧。③基督教にて一箇の教會の名譽職若くは牧師の通稱。一けうくわい(教會)名 基督教新教の隨一にして改革派及カルヴィン派の神學説を基礎として其信仰簡條を定め長老組織を以て其教會統治の形式とせる宗派。

ちやうらうらう(長老)名 年たけたる人。先輩又住僧。②學問の深く廣き僧。③基督教にて一箇の教會の名譽職若くは牧師の通稱。一そしき(組織)名 教會の政體を表はす語にて長老團體を以て教會の統治機關とするもの。

ちやうらうらう(長老)名 年たけたる人。先輩又住僧。②學問の深く廣き僧。③基督教にて一箇の教會の名譽職若くは牧師の通稱。一そしき(組織)名 教會の政體を表はす語にて長老團體を以て教會の統治機關とするもの。ちやうらうらう(長老)名 年たけたる人。先輩又住僧。②學問の深く廣き僧。③基督教にて一箇の教會の名譽職若くは牧師の通稱。

ちやうりつ(長律)名 漢詩に於て排律又は七言律詩を云ふ。

ちやうりやう(丈量)名 土地買收の要ある時買收區域の地積を其所有主別地目種別に就きて測定すること。

ちやうりやう(丈量)名 土地買收の要ある時買收區域の地積を其所有主別地目種別に就きて測定すること。ちやうりやう(丈量)名 土地買收の要ある時買收區域の地積を其所有主別地目種別に就きて測定すること。

ちやうりやう(丈量)名 土地買收の要ある時買收區域の地積を其所有主別地目種別に就きて測定すること。ちやうりやう(丈量)名 土地買收の要ある時買收區域の地積を其所有主別地目種別に就きて測定すること。

ちやうりやう(丈量)名 土地買收の要ある時買收區域の地積を其所有主別地目種別に就きて測定すること。ちやうりやう(丈量)名 土地買收の要ある時買收區域の地積を其所有主別地目種別に就きて測定すること。

ちや(茶)名 茶葉を煮るに用ゐるもの。眞鍮鐵などに作り、鏝あり。鐘子。鳴泉。

ちや(茶)名 茶葉を煮るに用ゐるもの。眞鍮鐵などに作り、鏝あり。鐘子。鳴泉。ちや(茶)名 茶葉を煮るに用ゐるもの。眞鍮鐵などに作り、鏝あり。鐘子。鳴泉。

ちや(茶)名 茶葉を煮るに用ゐるもの。眞鍮鐵などに作り、鏝あり。鐘子。鳴泉。ちや(茶)名 茶葉を煮るに用ゐるもの。眞鍮鐵などに作り、鏝あり。鐘子。鳴泉。

ちや(茶)名 茶葉を煮るに用ゐるもの。眞鍮鐵などに作り、鏝あり。鐘子。鳴泉。ちや(茶)名 茶葉を煮るに用ゐるもの。眞鍮鐵などに作り、鏝あり。鐘子。鳴泉。

ちや(茶)名 茶葉を煮るに用ゐるもの。眞鍮鐵などに作り、鏝あり。鐘子。鳴泉。ちや(茶)名 茶葉を煮るに用ゐるもの。眞鍮鐵などに作り、鏝あり。鐘子。鳴泉。

ちやく(持薬)名 身體虛弱のため等にて常に服用せる薬。「用したる服。着服。ちやくい(着衣)名 衣服を着用すること。又着ちやくい(着意)名 心をとどむること。②意匠を構ふる。着想。ちやくか(着家)名 血脈を正統にひきたる。ちやくかん(着岸)名 船の岸につくこと。ちやくかん(着眼)名 目を注ぐこと。着意。ちやくかん(着眼)名 目を注ぐこと。着意。ちやくかん(着眼)名 目を注ぐこと。着意。

ちやく(持薬)名 身體虛弱のため等にて常に服用せる薬。「用したる服。着服。ちやくい(着衣)名 衣服を着用すること。又着ちやくい(着意)名 心をとどむること。②意匠を構ふる。着想。ちやくか(着家)名 血脈を正統にひきたる。ちやくかん(着岸)名 船の岸につくこと。ちやくかん(着眼)名 目を注ぐこと。着意。ちやくかん(着眼)名 目を注ぐこと。着意。

ちやく(持薬)名 身體虛弱のため等にて常に服用せる薬。「用したる服。着服。ちやくい(着衣)名 衣服を着用すること。又着ちやくい(着意)名 心をとどむること。②意匠を構ふる。着想。ちやくか(着家)名 血脈を正統にひきたる。ちやくかん(着岸)名 船の岸につくこと。ちやくかん(着眼)名 目を注ぐこと。着意。ちやくかん(着眼)名 目を注ぐこと。着意。

